

ナンバリングコード M2NRS-ACBM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 960003) 看護教育学 Nursing Education	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博 士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ACBM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 清水 裕子, 渡邊 久美, 芳我 ちより	関連授業科目	看護研究方法論 看護倫理学	
	履修推奨科目	看護研究方法論 看護倫理学	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 看護学教育の概要を学び、看護教育学研究の課題について研究する。教育の基本要素である目標、計画、評価と、看護教育の特徴である講義から臨床教育までの実施方法を理解する。また、PBL (Problem based learning)、TBL (Team based learning)、Simulated Patient、OSCEを実際に体験し、方法を理解する。			
授業の目的 本授業は、医療機関などにおいて学生や現任者に指導・助言する立場にある看護師・保健師・助産師、養護教諭あるいは看護学の教育研究活動に従事するための基礎となる学科目であり、院生が、それぞれの現場で教育的役割を果たすための意義や方法を学ぶことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 看護学および看護教育学の歴史を概観し、説明できる。(DPのA: 専門知識・理解に対応) 2. 看護学における教育制度・課程、教育評価、指導者養成、生涯教育などについて、概要を説明できる。(DPのA: 専門知識・理解に対応) 3. 看護実践の現場における現任者と実習生に対する 教育的役割の課題と方法が説明できる。(DPのB: 研究能力・応用力に対応) 4. 現状の看護の臨床および教育現場に対する問題解決方法を説明できる。(DPのB: 研究能力・応用力に対応)			
成績評価の方法 事前学習と発表: 50%, 成果物 (撮影動画を含む): 50%で評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業計画			
第1回	ガイダンス・日本の看護教育制度・教育課程と教育研究者養成	[講義]	渡邊
第2回	看護学教育の歴史、学問としての看護と職業人養成、生涯学習	[講義・演習]	渡邊
第3回	看護学教育におけるカリキュラム開発—授業、演習、実習の組み立て	[講義]	渡邊
第4回	授業方法 問題基盤型学習(Problem Based Learning)、アクティブラーニングによる演習	[講義・演習]	渡邊
第5回	臨床指導者との協働による臨地実習: 看護専門教育のあり方の検討	[講義・演習]	渡邊
第6回	看護実践力(コンピテンシー)の評価について	[講義・演習]	渡邊
第7回	看護教育学研究	[講義]	芳我
第8回	看護継続教育における学習ニード	[講義]	芳我
第9回	組織における教育としてのFaculty Development : FD	[講義]	芳我
第10回	クライアントの健康行動の変容を促す教育的支援の実際1	[講義]	芳我
第11回	クライアントの健康行動の変容を促す教育的支援の実際2	[演習]	芳我
第12回	模擬患者(SP: Simulated Patient)を用いた現任教育の実際	[演習]	芳我
第13回	教育評価の歴史的変遷と看護学技術学習における評価項目の作成	[講義・演習]	清水

第14回 パフォーマンス評価の方法：チーム基盤型学習（Team Based Learning）と臨床看護実践能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination） [講義・演習]清水
第15回 OSCE発表の評価、看護教育・看護臨床における教育評価の今日的課題[講義・演習]

【自己学習へのアドバイス】

院生各自がレジュメを準備し、討論形式で行う場合と演習を行う場合がある。

- 第1回 医学書院「看護教育学」最新版等で看護教育制度の現状について概観を行って臨む5h
- 第2回 上記参考図書にて、これまでの看護師養成の歴史を概観しておく5h
- 第3回 同上および、データベースでカリキュラム開発に関する最近の研究動向を概観しておく5h
- 第4回 PBL、アクティブラーニングの用語定義を事前学習しておく5h
- 第5回 同上および、香川大学の「教育要項：実習の手引き」を概観しておく5h
- 第6回 看護基礎教育における看護実践能力：コンピテンシーの到達目標について事前学習する 5h
- 第7回 身近な「看護教育」上の課題と感じていることをまとめる。5h
- 第8回 現任教育として現在、経験している研修などについてまとめておく。5h
- 第9回 キャリアラダーについて、各自の領域のものを読んでおく。5h
- 第10回 自身が経験したクライアントへの教育場面を記載しておく。5h
- 第11回 グループワークで経験した内容をもとに、各自の学習課題を明確にしておく。5h
- 第12回 困難な支援場面をプロセスレコードに起こす。5h
- 第13回 「教育評価」および「到達度評価の研究」の事前学習 5h
- 第14回 「教育評価の方法」としてのSimulated PatientおよびStandard Patientの養成方法を事前学習 5h
- 第15回 OSCE撮影動画のピアレビューを行っておくこと 5h

教科書・参考書等

- 杉森みど里・舟島なをみ編著（2021）看護教育学、最新版、医学書院（5,500円）
- 安永 悟著（2012）活動性を高める授業づくり、医学書院（2,640円）
- 糸賀暢子他著（2017）看護教育のためのパフォーマンス評価、医学書院（2,970円）
- P. J. ブリンク, M. J. ウッド著, 小玉香津子他訳（1999）, 「看護研究計画書作成のステップ」日本看護協会出版会、3,630円、書籍部にて購入（3,630円）
- ポーリット・ハングレー著、近藤潤子他訳（1994）、看護研究原理と方法、医学書院（11,807円）
- 五十嵐ゆかり編著、飯田真理子・新福洋子著（2016）、トライ！看護にTBL：チーム基盤型学習の基礎のキソ、医学書院（2,420円）
- 橋本重治著（2000）、到達度評価の研究—その方法と技術、図書文化（2,530円）
- 橋本重治著（2000）、到達度評価の研究—その方法と技術 続、図書文化（2,090円）
- 橋本重治著・応用教育研究所 編（2003）、教育評価法概説、図書文化（2,530円）

オフィスアワー 授業日の午後、メールで対応する

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
各自の進行状況に応じて、相談に応じます。

ナンバリングコード M2NRS-ACBM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 960004) 看護管理学 Nursing Management	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ACBM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 川田 紀美子, 前川 泰子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分(講義+演習)×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 本科目では、看護管理に必要な知識体系について実践と関連づけて講義するとともに、看護サービスの質向上や安全管理、効率的で効果的な看護管理について解説する。			
授業の目的 看護管理に必要な知識体系について、各自の実践現場と関連づけて理解するとともに、看護サービスの質向上や安全管理、効率的で効果的な看護管理が実践できるように演習を通して理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 組織とは、看護組織論について説明することができる。 (DPの「専門知識・理解」, 「倫理観・社会的責任」に対応) 2) 看護サービスと資源のマネジメントについて具体的に述べることができる。 (DPの「専門知識・理解」, 「倫理観・社会的責任」に対応) 3) リスクマネジメントと医療安全について説明することができる。 (DPの「専門知識・理解」, 「倫理観・社会的責任」に対応) 4) 看護管理者論とこれからの看護管理のあり方について述べることができる。 (DPの「専門知識・理解」, 「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に対する討議内容と参加度 (10%) 2. 第2～14回 講義レポート (60%) 3. 課題レポート (30%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 講義形式と適宜課題のプレゼンテーションを取り入れて展開します。 第1回 ガイダンス (川田 紀美子・前川 泰子) 第2回 医療施設における経営管理の実際 (香川大学医学部附属病院 阿部 慈看護部長) 第3回 管理の基本概念・管理の概念 (香川大学医学部附属病院 阿部 慈看護部長) 第4回 安全管理について (香川大学医学部附属病院 医療安全GRM) 第5回 感染管理 (香川大学医学部附属病院 間嶋由美子看護師長) 第6回 看護職のキャリアディベロプメント (香川大学医学部附属病院 阿部看護部長) 第7回 診療報酬(介護報酬、物品管理) (香川大学医学部附属病院 森 郁代副看護部長) 第8回 薬剤に関する医療事故と防止策 (香川大学医学部附属病院 医療安全管理部薬剤師GRM) 第9回 病院における業務管理の実際 (総合周産期母子医療センター) (香川大学医学部附属病院 松木 由美看護部長) 第10回 総合地域医療連携センターの業務と役割 (香川大学医学部附属病院 松前 有香看護師長) 第11回 特殊業務における看護管理 (フライトナースについて) (香川大学医学部附属病院 國方 美佐看護師長・吉田 和史副看護師長) 第12回 災害看護管理について (香川大学医学部附属病院 國方 美佐看護師長) 第13・14回 医療安全における他職種との連携 (香川大学医学部附属病院 光家 努臨床工学部長) 第15回 総括 (川田 紀美子・前川 泰子)			

【授業および学修の方法】

講義を中心にすすめるが、内容に応じて受講者の理解を深めるためにグループワークを取り入れる。第2回から第14回までは学習内容の整理と理解を深めるためにレポートを課す。最終回には課題レポートを提出する。(各回2-4時間)

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

受講者がこれまで経験してきた職場管理の視点から、現在の各職場の問題や課題について、看護管理の視点から改めて見直しまとめておく。それらから、実際に起こっている問題は何か、解決するにはどのようなことが必要かを検討する。

教科書・参考書等

教科書・参考書等

教科書は使用しない。参考書は講義時に適宜紹介する。

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目は平日昼間に開講しますが、社会人学生に配慮した講義日時を設定する予定です。第1回講義時にご相談ください。学習目標をもって、主体的に受講することを期待します。

ナンバリングコード MINRS-ABXM-40-Mg2 授業科目名 (時間割コード： 960005) 臨床科学 Clinical Science Clinical Science	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博 士前期課程
	水準・分野 MINRS	DP・提供部局 ABXM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Mg	単位数 2	
担当教員名 藤井 豊, 塩田 敦子, 加藤 育子	関連授業科目	看護医科学特論	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 近年の医学の進歩は目覚ましく、遺伝子医学、再生医学や生殖医学に代表される新たな道を歩みつつある。臨床科学の講義では、担当教員の専門領域である漢方医学、乳幼児発達学、ウイルス学の分野における最新トピックスを紹介するとともに、看護職が看護ケアを実践し看護研究を進めていく上で必要な種々の疾患の病態生理、診断、薬理を含む治療に関する最新の医学情報を提供し、討論、実習を行う。			
授業の目的 目覚ましく進歩・発展を遂げる医学を理解するためには、医学を支えるものの考え方と、その基礎に立脚した医学研究の進め方を学ぶことが大切である。漢方医学、乳幼児発達学、ウイルス学の各分野の疾患及びその研究事例を通して、医学における科学的ものの考え方、研究の進め方を身につけ、的確な看護実践に役立てることを目標とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 主な漢方薬の作用、機序、適応、有害事象及び看護援助を説明できる。(DPのA「専門知識・理解」、B「研究能力・応用力」に対応) 2) 漢方の考え方、アセスメントの方法、言葉の力を看護実践に活かせる。(DPのA「専門知識・理解」、B「研究能力・応用力」に対応) 3) 子どもや女性それぞれのライフステージの特徴を説明することができる。(DPのA「専門知識・理解」、B「研究能力・応用力」に対応) 4) 最新の乳幼児発達研究を理解することで、子どもや母子関係についての研究計画をたてることことができる。(DPのA「専門知識・理解」、B「研究能力・応用力」に対応) 5) ウイルスとは何かを説明できる。(DPのA「専門知識・理解」、B「研究能力・応用力」に対応) 6) ワクチンによる予防のメカニズムを説明できる。(DPのA「専門知識・理解」、B「研究能力・応用力」に対応) 7) 様々なウイルス感染症を説明できる。(DPのA「専門知識・理解」、B「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に対する討議内容 (10%) 2. プレゼンテーション資料作成と発表内容 (50%) 3. 最終課題レポート (40%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
第1回	漢方医学①	漢方の歴史と理論、病態把握の方法	塩田
第2回	漢方医学②	漢方の診察法(舌診、腹診など)、煎じ	塩田
第3回	漢方医学③	漢方の臨床 冷え・高齢者・女性・ストレスと漢方	塩田
第4回	漢方医学④	漢方の臨床 フィジカルアセスメントと方剤の選択	塩田
第5回	漢方医学⑤	鍼灸・ツボ 経絡、経穴の理論と実際、養生	塩田
第6回	胎児期から新生児までの行動		加藤

第7回	乳児期の発達	加藤
第8回	母子相互作用（母乳育児を含む）	加藤
第9回	幼児期の発達	加藤
第10回	学童期の心の変化	加藤
第11回	ウイルスとは何か	藤井
第12回	ウイルスのライフサイクル	藤井
第13回	ワクチンによる予防	藤井
第14回	様々なウイルス感染症1（インフルエンザ）	藤井
第15回	様々なウイルス感染症2（エマージングウイルス）	藤井

【自学自習に関するアドバイス】

上記の内容について、分かる範囲で、各回前に事前にインターネット、資料等で大まかに調べておくことが望ましい。また各教員が連続して講義を行うため、各回終了後に内容の復習を行ってください。

教科書・参考書等

教科書・参考書等

参考書（購入は必須ではない）

絵でみる和漢診療学（JJNブックス）、寺澤捷年、医学書院、1996、2640円

（購入は必須ではありませんが、参考にするとわかりやすいと思います）

絵でみる指圧・マッサージ（JJNブックス）、寺澤捷年/津田昌樹、医学書院、2002、2640円

（購入は必須ではありませんが、参考にするとわかりやすいと思います）

母乳育児ハンドブック

医科ウイルス学、高田賢蔵著、南江堂、2009、9180円

（詳しく勉強したい人のための参考書）

オフィスアワー 月曜日、木曜日午後6時以後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義日程は、社会人院生が履修しやすいように、土、日を基本としますが、随時相談に応じます。

ナンバリングコード MINRS-acdM-40-Pf2 授業科目名 (時間割コード： 960006) 国際看護学特論 Global Nursing Theories International Exchange Activities	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 MINRS	DP・提供部局 acdM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 山本 美輪	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 事前準備 + 派遣先での研修 + 報告会 + 自学自習30時間 (事前の英語学習、実習内容に関する予習、派遣後の振り返り) + その他、国際交流にかかわる活動 (受け入れ学生との論議への参加等)			
授業の概要 香川大学医学部の国際交流の理念は、『国際交流をとおして、グローバルスタンダードを有した「学生」「医師」「看護師」「研究者」の育成を行うとともに、人類の福祉や地域への貢献を行う。』としている。この理念のもとに、全学年を通して、学生には様々な国際交流活動に参加する機会が与えられている。こうした活動に積極的に参加することで、国際的感覚を涵養し、国際社会の一員としての自覚に目覚めることは、これからのグローバル社会において重要であり、医学・看護学の面でもグローバルスタンダードを自覚するためのまたとないチャンスである。本プログラムでは、①事前の十分な準備を行うこと、②実習を自主的かつ勤勉に行うこと、③報告書を提出すること、④報告会において発表すること、を求めている。対象となる活動は、香川大学医学部が交流をしている協定校において開設されるプログラムに参加するものに限る。それぞれのプログラムについては、活動の時期、内容、定員が異なるため、それらに対応する準備や勉強が求められる。いずれのプログラムにおいても、語学(英語)は重要であり、一定程度の語学力が求められる。語学プログラム(上級英語など)への参加が望ましい。なお、国際交流委員会の議を経て、海外派遣と同等の教育効果を有する活動を含める場合がある。			
授業の目的 学生の間には、海外での経験を積むことにより、世界に通用する広い視野を獲得する。また他国での医学や看護学の状況を見聞することで日本の医学や看護学について考える機会を得る。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 派遣先の大学で、医学、看護学、もしくは臨床心理学の研修(実習、講義、見学など)に自主的に参加することができる。 2) 派遣先の大学で行われている、医学、看護学、もしくは臨床心理学の現状を理解し、日本の医学もしくは看護学と比較・分析できる。 3) 派遣先の大学の学生や教員と交流ができ友好を深める行動ができる。なお、海外派遣が困難である場合には遠隔講義等を活用して同等の目的の達成を図る。			
いずれもDPの「言語運用能力」と「問題解決・課題探求能力」に対応する。			
成績評価の方法 1) 派遣先の大学もしくは受け入れ科で発行する修了証。 2) 報告書および報告会での発表の評価。 以上より判断し「了」をもって合格とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 対象となる派遣は以下のものに限る ・夏季休暇中：チェンマイ大学での研修(医学科・看護学科) ・夏季休暇中：ブルネイ・ダルサラーム大学での研修(医学科) ・春季休暇中：中国医科大学もしくは河北医科大学での研修(医学科・看護学科ほか) 上記の派遣において以下のとおりの活動を行うこと。 1) 事前の十分な準備を行うこと。 2) 実習を自主的かつ勤勉に行うこと。 3) 報告書を提出すること。 4) 報告会において発表すること。			

その他、医学部が実施する国際交流事業においても積極的に参加すること。

【自学自習のためのアドバイス】

事前の英語学習、実習内容に関する予習、派遣後の振り返りについて30時間の自己学習を行うこと。

教科書・参考書等

※【参考書】近藤麻理，知って考えて実践する国際看護，医学書院，2011年．（1,980円：本体1,800円+税）

オフィスアワー 募集案内に記載の各コーディネータで随時受け付ける。

あらかじめアポイントメントを取り相談に行くこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

医学部で開催される様々な国際交流活動に、積極的に参加してください。

ナンバリングコード MINRS-CBAM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 960007) 看護倫理学 Nursing Ethics Nursing Ethics	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 MINRS	DP・提供部局 CBAM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 松本 啓子, 山本 美輪, 清水 裕子, 辻 京子	関連授業科目	看護研究方法論、各領域の看護学演習・特別研究	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 看護に携わるものは、日常的に倫理的問題に直面している。看護倫理は、そのような問題をどのように考え、意思決定するのかということについて学びを深める。まず、倫理、生命倫理、看護倫理の基本的な理論・原則について学び、臨床の倫理的判断、ケアの倫理、意思決定モデルについて学ぶ。そして、臨床における看護の倫理的問題について検討し、理解を深める。また看護研究を行う上で研究対象の人権擁護を行いながら、研究のプロセスを踏むための基本的な考え方を学び、これからの研究に必要な倫理的問題を検討する。			
授業の目的 医療における倫理の概念を概観し、倫理原則、倫理的問題解決法等について探求する。特に、看護実践や研究における倫理的問題の解決を通して倫理的判断能力を養うとともに、看護の役割・責務について探求する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 医療における倫理の概念や倫理原則について説明できる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 2. 看護倫理の意志決定モデルについて説明できる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 3. 看護における倫理的問題について、倫理的判断を行うことができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 医療の倫理における看護の役割・責務について説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 研究上の倫理的課題について説明できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 評価は、プレゼンテーションの内容25%、討論への参加25%、課題レポート30%、出席状況20%により行う。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回	オリエンテーション、倫理の基本的な考え方	松本	
第2回	倫理の原則と重要概念	松本	
第3回	倫理的問題の検討法、ケアの倫理	山本	
第4回	看護倫理、職業倫理、倫理綱領	山本	
第5回	看護倫理のための意思決定モデル	辻	
第6回	看護倫理のための意思決定モデル	辻	
第7回	小児の倫理的問題	辻	
第8回	小児の倫理的問題の検討	辻	
第9回	研究参加者の保護に関する歴史の変遷	松本	
第10回	看護研究における倫理研修 e-learningについて	松本	
第11回	看護研究の倫理審査について	清水	
第12回	看護と科学・研究についての諸問題	山本	
第13回	高齢者の倫理的問題	山本	
第14回	高齢者の倫理的問題の検討	山本	
第15回	研究公表に関する倫理的配慮 まとめ・全体討議	松本	

【授業及び学習の方法】

授業は、担当教員ごとに講義やディスカッション等の展開が様々となります。講義内容に関する課題を受け、各自が興味のあるトピックスを選択し、プレゼンテーションを行う場合、その後、各発表に対するディスカッションを行います。教員はディスカッションのファシリテーターとアドバイザーとなります。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

項目によって、準備学修及び事後学修方法や内容等の具体的指定がある場合は、指示された方法に従うこととします。

特に指定がない場合は、以下の内容とします。

第2回 倫理原則に関する参考書や資料を準備、考察する。

第3回～第4回 看護倫理、職業倫理、ケアの倫理等に関する資料や参考書から要点をまとめる。

第5回～第6回 看護倫理の意思決定モデルの関する要点をまとめる。

第7回～第8回 小児の倫理問題について課題の整理をする。

第9回 看護と科学における倫理について考察する。

第10回 e-learning講習を受講する。

第11回 医学部倫理委員会の倫理審査に必要な「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」およびガイドラインなどを事前に読み込んでおくこと。授業は、看護研究における倫理審査手法の整理および最新情報を提供する。

第12回 看護と科学における倫理について考察する。

第13回～第14回 高齢者の倫理問題について課題の整理をする。

第15回 看護研究及びその公表における倫理に関する課題の整理をする。

なお、授業は対面を予定していますが、その時の状況により、遠隔授業へと変更になる可能性があります。事前に、大学からのお知らせ等の確認するようにしてください。

教科書・参考書等

〔参考書〕 Joyce E, Thompson, Hery O 他、ケイコ・キシ・イマイ他訳：看護倫理のための意志決定10のステップ、看護協会出版会、2004、3、150円、書籍部
サラ・フライ著、片田範子他訳(2010)、看護実践の倫理 第3版、医学書院、2、376円、書籍部
アンJ.デーヴィス監修、看護倫理 理論・実践・研究、日本看護協会出版会、2004、3、150円
ジョンセン他著、赤林他監訳(2006)、臨床倫理学、新興医学出版、3、000円
その他の図書については適宜紹介する。

オフィスアワー 月曜日17時から18時30分、ただし事前にアポを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

倫理に関する感性を高めるために、日常に疑問を持ち、授業に望んで欲しい。また、研究については、研究のプロセスなど、研究計画について少し考えている方が望ましい。

ナンバリングコード M2NRS-ABDM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 960011A) 理論看護学 Theoretical Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABDM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 前川 泰子, 西村 亜希子, 金正 貴美	関連授業科目	看護研究方法論, 各領域の看護学演習・特別研 究	
	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 看護領域における理論の考え方について教授します。また、受講生にとって修士論文作成にあたり興味・関心のある中範囲理論について教授します。			
授業の目的 修士生が、「理論」の本質を知ることは、その後の修士論文を遂行していくうえで重要である。理論について学ぶことで、看護の知識の構築方法、理論と研究デザインの関連について考えを深める (DPの「専門知識・理解」に対応) ことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 理論、概念、変数について説明できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 看護の知の構成要素が説明できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 3. 看護領域に関連のある中範囲理論が説明できる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4. 学習成果を効果的にプレゼンテーションできる。(DPの「研究能力・応用力」「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 1. テーマの応じたプレゼンテーション資料の作成と発表 (50%) 2. テーマに対する議論の参加度 (20%) 3. 最終課題レポート (30%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 授業ガイダンス 看護理論とは (前川・西村・金正) 第2回 看護における理論の活用 (前川・金正) 第3回 看護実践と理論の実際1 (前川・金正) 第4回 看護実践と理論の実際2 (前川・金正) 第5回 高度看護実践と看護理論 (前川・金正) 第6回 科学とは 看護理論の分析 (金正・前川) 第7回 概念分析の考え方と方法 (金正・前川) 第8回 概念と実践への活用、サブストラクション (金正・前川) 第9回 看護の知の構築 (金正・前川) 第10回 移行理論1 (金正・前川) 第11回 移行理論2 (金正・前川) 第12回 中範囲理論1 (西村) 第13回 中範囲理論2 (西村) 第14回 中範囲理論3 (西村) 第15回 中範囲理論4 (西村)			

(中範囲理論は院生が興味・関心のある理論を選択する。)

この科目は基本的に対面授業を行います。感染症拡大など、社会状況に応じて遠隔授業を行います。

【授業および学修の方法】

各テーマに関して、課題学習およびディスカッションポイントを準備し、プレゼン・ディスカッションを通して学びを深める。

【自学自習のためのアドバイス】

提示されたテーマについて、自身の経験などを振り返り、関連する参考図書、文献を探り、理論をもとに看護の理解・解釈につなげて考えてください。(準備学習各2時間程度 + 事後学習各2時間程度)

教科書・参考書等

教科書

正木治恵・酒井郁子編著：Nursing Profession series 看護理論の活用 看護実践の問題解決のために、医歯薬出版株式会社，2015 (¥3000+税)

佐藤栄子著：中範囲理論入門—事例を通してやさしく学ぶ第2版，日総研出版，2009(¥3500+税)

参考図書：ペギー・L・チン、メオーナ・K・クレイマー著、川原由佳里監訳：看護学の統合的な知の構築に向けて、エルゼビア・ジャパン、2007

オフィスアワー 前川：講義予定日の17:30～22:00 看護学科5階517研究室

西村：講義予定日の17:30～22:00 看護学科5階515研究室

金正：講義予定日の17:30～22:00 看護学科3階317研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業参加については、学生の主体的な参加を求めます。

ナンバリングコード MINRS-BACM-40-Mg2 授業科目名 (時間割コード： 960012) 看護研究方法論 1 Methodology of Nursing Research I Methodology of Nursing Research I (Foundation of Nursing Research, Qualitative study)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 MINRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Mg	単位数 2	
担当教員名 谷本 公重, 山本 美輪, 渡邊 久美	関連授業科目	看護研究方法論 2	
	履修推奨科目	看護倫理学 理論看護学	
学習時間 授業・演習90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 修士論文を作成するにあたり、論文を読む能力と論文を書くために必要な基本的な知識について学ぶ。まずは看護研究の概要について教授し、次に質的なアプローチを教授する。看護実践の中から生まれる研究疑問を、研究論文としてまとめるための知識体系を発展させる基礎能力の涵養を目指す。			
授業の目的 1) 看護実践の中から生まれる研究疑問を明確化し、研究テーマを絞り込み、研究方法を選択し、研究計画書を作成して実践するといった基本的な研究プロセスを理解する。 2) 研究に欠かせない文献検索や論文のクリティークについて理解し、研究の演習に活用する。 3) 研究テーマと質的研究の関係について理解を深める。 4) 質的研究方法と研究手法について理解し、自己の研究テーマに沿った研究手法の選択に活用する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 看護研究のめざすものおよび研究のプロセスについて説明することができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 2) 研究に必要な文献を検索することができる(DPの「研究能力・応用力」に対応)。 3) 質的なアプローチの研究の具体について説明することができる(DPの「専門知識・理解」に対応)。 4) 研究テーマに沿った研究方法と進め方について説明することができる(DPの「研究能力・応用力」に対応)。			
成績評価の方法 1. 講義のテーマに応じたプレゼンテーション資料の作成と発表 (60%) 2. 講義のテーマに応じた議論の参加度 (40%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】			
第1回	看護研究方法論1のガイダンス	谷本	
第2回	看護研究とは	谷本	
第3回	研究デザインとプロセスの概要 ・看護実践の中から生まれる研究疑問を科学的な看護研究とするために必要なプロセスを学ぶ		考え方やプロセス
第4回	看護研究と文献検索・文献検索演習1 ・研究にとって欠かせない文献検索方法を演習を通して理解する ・データベース紹介、医学中央雑誌検索方法、CiNii検索方法	谷本	
第5回	論文のクリティーク	谷本	
第6回	看護研究と文献検索・文献検索演習2 ・学外文献申し込み方法、Mendeley利用方法、文献検索演習	谷本	

第7回	研究の概念枠組みとサブストラクション	谷本
第8回	看護領域における質的研究	石上
第9回	質的研究方法論の概略	石上
第10回	質的研究におけるデータ取得方法	石上
第11回	主な質的研究方法と研究手法	グラウンデッド・セオリー 石上
第12回	主な質的研究方法と研究手法	テキストデータマイニング 山本
第13回	主な質的研究方法と研究手法	テキストデータマイニング・トレンドサーチ 山本
第14回	質的研究の質の確保	山本
第15回	看護研究へ向けてディスカッション	山本

【授業及び学修の方法】

授業は、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れながら行うが、受講者は個々の研究テーマに基づき、具体的に学びを深めることが望ましい。第15回では、自己の研究テーマに関する適切な研究方法を整理し、発表し、討議を行う。

この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

各回、以下に提示した内容を事前にまとめ、講義中、ディスカッションする。

- 第2回 授業資料を読み復習する (2時間)
- 第3回 研究になる看護実践の中の疑問を検討し、論理的に説明する資料を作成 (5時間)
- 第4回 文献検索演習問題を解く (1時間)
- 第5回 提示された文献をクリティークする (10時間)
- 第6回 演習問題を解く (1時間)
- 第7回 提示された論文の概念枠組みとサブストラクションを考え資料を作成 (5時間)
- 第8回 質的研究の歴史と特徴から看護領域への活用を考える (5時間)
- 第9回 質的研究に特有な名称と方法の概略を知る (5時間)
- 第10回 インタビューと参与観察の方法を具体的に考える (3時間)
- 第11回 グラウンデッド・セオリーについて文献をもとに考える (5時間)
- 第12回 テキストデータマイニングについて文献をもとに考える (5時間)
- 第13回 トrendサーチについて文献をもとに考える (5時間)
- 第14回 質的研究の質の確保について、文献を読み、具体的に考える (5時間)
- 第15回 質的研究の特徴を踏まえて、研究方法の選択について考える (3時間)

教科書・参考書等

教科書

1. グレグ美鈴他編：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 第2版, 医歯薬出版, 2016.

参考書

1. D. H. ポリット, B. P. ハングラー、監訳 近藤潤子：看護研究 原理と方法, 医学書院, 2007.
2. P. J. Brink, Wood, 小玉香津子・輪湖史子訳：看護研究計画書作成のステップ, 日本看護協会, 1999
3. 北素子、谷津裕子：質的研究の実践と評価のためのサブストラクション, 医学書院, 2009
4. ホロウエイ, S. ウイラー, 野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門 第2版, 医学書院, 2008.
5. 戈木クレイグヒル滋子：質的研究方法ゼミナール グラウンデッドセオリー・アプローチを学ぶ増補版, 医学書院, 2008
6. 山本則子, 萱間真美 他：グラウンデッドセオリー法を用いた看護研究のプロセス, 文光堂, 2005
7. 木下康仁：ライブ講義M-GTA実践的質的研究法 修正版グラウンデッドセオリー・アプローチのすべて, 弘文堂, 2007.
8. 木下康仁：M-GTA グラウンデッドセオリーアプローチの実践 質的研究への誘い, 弘文堂, 2003.
9. 木下康仁：M-GTA 分野別実践編 グラウンデッドセオリーアプローチ, 弘文堂, 2005.
10. 谷津裕子：Start Up 質的看護研究, 学研, 2014.

オフィスアワー 講義終了後1時間

火曜日 17:00~18:00 事前にメール連絡ください 山本

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自ら積極的に学び、自らの研究において実践するといった姿勢で臨むこと。

ナンバリングコード MINRS-BACM-40-Mg2 授業科目名 (時間割コード: 960013) 看護研究方法論 2 Methodology of Nursing Research II Methodology of Nursing Research II	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 MINRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Mg	単位数 2	
担当教員名 市原 多香子, 芳我 ちより, 宮武 伸 行	関連授業科目	看護研究方法論 I	
	履修推奨科目	看護倫理学、理論看護学	
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 看護領域では研究対象により研究方法が多岐にわたります。看護研究方法論1において修士論文作成に必要な看護研究の概要について習得した後、看護研究方法論2が始まります。 看護研究方法論2では、量的なアプローチによる研究方法を概説します。とくに研究デザインを紹介し、量的研究方法を理解するため実態調査研究、相関研究、実験研究などの論文を深く読みます。また記述統計や検定などの統計学の基礎について講義します。さらに見本エクセルデータを使用し、記述統計や推測統計の演習を行います。			
授業の目的 看護学が対象とする人の健康を取り巻く多種多様な複雑な状況をいろんな視点から研究を進めていくため、自然科学を基盤とした量的研究の方法を学ぶ必要があります。この科目では、リサーチクエストのレベルに応じた研究デザインを理解し、さらに論文のクリティークを通して、量的研究の論文を読み込む基礎的力を身につけます。また、統計学の知識として記述統計・推定・検定などの知識を修得し、さらに量的データを分析する力を演習を通して修得します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 研究疑問のレベルに適した研究デザイン (実態調査研究、相関研究、実験研究) を説明できる。(DPの「専門知識・理解力」に対応) 2. 研究デザインごとに量的研究文献を収集し深く読むことができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 量的データ分析の記述統計と推測統計について説明することができる。(DPの「専門知識・理解力」に対応) 4. 見本データから記述統計と推測統計を実施し、結果としてまとめることができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 1. 参加度20% (到達目標1と3に対応) 2. 発表および討議30% (到達目標2と4に対応) 3. 最終課題レポート50% (到達目標1から4に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業は講義だけでなく、受講者の理解を深めるために対面による発表と討議を取り入れます。自学自習による準備・学習を求めます。			
第1回 ガイダンス 第2回 量的研究方法とは 市原 第3回 量的研究デザイン 市原 第4回 統計学的アプローチとは 宮武 第5回 記述統計 宮武 第6回 推定 宮武 第7回 検定 宮武 第8回 相関と回帰 宮武 第9回 多変量解析 宮武			

- 第10回 量的研究文献の抄読をもとに発表 市原
第11回 量的研究文献のクリティーク 市原
取り寄せる論文のテーマは自由ですが、期日までにまとめて発表する。
第12回 統計演習：記述統計によりデータ分析 芳我
演習用エクセルデータを用いて、記述統計によりデータの分布を説明した上で、
検定と推定を実施する（ワークシートあり）。期日までにワークシートを提出する。
第13回 統計演習：検定と推定の実施 芳我
第14回 統計演習の説明とまとめ1 芳我
第15回 統計演習の説明とまとめ2 芳我

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

第2～3回 紹介した看護研究の図書等を読み、量的研究を学習しておいてください。（10時間）

第4～9回 統計学の図書を読み、事前に学習しておいてください。（10時間）

第10～11回 実態調査研究、相関研究、準実験研究の中から原著論文を2つ取り寄せ、論文を深く読み、発表できる
よう準備しておいてください。（20時間）

第12～15回 演習用エクセルデータを用いて、記述統計によりデータの分布を説明した上で、検定と推定を実施し
てください（ワークシートあり）。（20時間）

教科書・参考書等

教科書

なし

参考書

演習の進行度に合わせて適宜紹介します。

オフィスアワー 講義終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自ら積極的に学び、自らの研究において実践する姿勢で臨んでください。

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 960014) 養護教育特論 School Health Care Theories	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 幼少期からの生活習慣の改善により将来の生活習慣病予防につながるというエビデンスについて説明します。集団生活の中で、特に配慮すべき健康および発達課題と養護教諭が担うべき役割についてディスカッションを通して考察します。また、先天性疾患等、慢性疾患を持つ子どもと家族への療育支援について教授します。			
授業の目的 幼児期、学童期にある子どもへの養護実践と養護学研究のために必要とされる養護教諭としての必要な保健、教育に関する諸理論を理解するとともに、医療的ケア等の健康面での配慮を必要とする子どもへの支援を医療との連携について理解を深める。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期から学童期にかけての成長・発達について理解することができる。 2. 幼少期の生活習慣と成人期以降の生活習慣病の関連について説明することができる。 3. 小児期からの生活習慣病予防のための活動方法について計画することができる。 4. 児童生徒の健康課題と養護教諭が行う研究について理解することができる。 5. 慢性疾患に関して、その症状や医療的ケア、入院中の子どもたちの様子に関して基本的な説明をすることができる。 6. 医療的ケア等の配慮を必要とする子どもへの支援に関する医療との連携について説明することができる。 			
成績評価の方法 成績評価の方法と基準 レポート75% (主に到達目標 1、2、4～6に対応)、発表及び討議25% (主に到達目標 3に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 園児や児童の生活習慣と生活習慣病 第2回 幼児期からのヘルスプロモーションのための保健教育モデル 第3回 保健教育計画立案 第4回 保健教育計画発表とディスカッション 第5回 まとめ 第6回 日本と海外の児童生徒の健康課題について文献講読読1 (講義) 第7回 日本と海外の児童生徒の健康課題について文献講読読2 (演習) 第8回 学校保健における研究 第9回 養護教諭として行うべき研究の進め方やまとめ方について1 (講義)			

- 第10回 養護教諭として行うべき研究の進め方やまとめ方について2（演習）
第11回 小児がんを診断された子どもの症状、治療、子どもと家族の様子、学習支援
第12回 1型糖尿病を診断された子どもの症状、治療、糖尿病スプリングキャンプ
第13回 アレルギーを持つ子どもとその生活管理
第14回 病院内病弱・身体虚弱特別支援学級
第15回 まとめ

【授業及び学修の方法】

授業は、集中講義でおこなわれる。第1回～5回および第11回～15回は他の教員とのディスカッションする機会がある。また、第6～9回は個別的な講義となる。いずれも目的を明確にして、主体的に参加すること。また、この科目は、基本対面講義ですが、一部遠隔講義となります。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

- 第2～5回 最近の子どもの健康課題について、新聞や雑誌等より興味のあるものをテーマとして調べ、その現状と課題について説明できるように準備する。（1時間×4回）
取り上げたテーマについて保健教育計画を立案する。（10時間）
日本の生活習慣病にたいする政策について、その要点をレポートにまとめる。（4時間）
第6～10回 小児の健康課題について厚労省やWHOのHPとともに雑誌の記事を集め、授業で紹介できるように準備する。（2時間×4回）
授業で出された課題について取り組み、養護教諭としての役割を考察する。（10時間）
第11～14回 小児のがんや小児特定慢性疾患について情報センターHPを調べ、また授業で紹介した疾患については説明できるように復習する。（2時間×4回）
病院内学級や特別支援学級に関する研究論文を探し、取り組むべき課題を考察する。（10時間）

教科書・参考書等

課題および研究進行度を考慮し、適宜、提示・紹介します。

オフィスアワー 非常勤講師に対しては、講義の前後の時間に相談する事。それ以外で必要があれば、芳我まで相談すること。

芳我：メールでアポイントをとってください。 看護学科教育研究棟 6階 618号室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

主体的な学びを基に授業に参加してください。

ナンバリングコード M2NRS-ABDM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 961001) 基礎看護学特論 Advanced Fundamental Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABDM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 前川 泰子, 西村 亜希子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分(演習含む) × 15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 本授業では、それぞれの看護実践から自己を省察し、問題解決、意思決定、また教育・人材育成、情報活用など各自の課題と解決方法について探究する。また、看護の実践、教育、管理など直接・間接的に看護ケアに影響を与える事象について文献抄読を通して、科学的な課題解決方法について教授します。			
授業の目的 看護実践場面を振り返ることで見出された課題に対して、それに関する文献や先行研究、理論をもとにプレゼンテーション、ディスカッションを通じて課題解決の方法を探究する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) それぞれの看護実践を振り返り、省察することができる。 2) 課題に対する解決方法について、文献や先行研究、理論をもとに、自己の解決方法について具体的に考えることができる。 3) EBNの基本ステップが説明できる。 4) 看護に関する学生の関心ある研究課題に関して、現在までに明らかにされている科学的・理論的根拠を調べ、説明できる。 (以上、DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)。			
成績評価の方法 課題レポートおよびプレゼンテーション内容(50%)、ディスカッション内容(50%)を総合して行います。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回	ガイダンス	前川・西村	
第2回	文献の活用とEBN(1) 概論(討議、発表を含む)	西村	
第3回	文献の活用とEBN(2) 疑問点の抽出と文献検索(討議、発表を含む)	西村	
第4回	文献の活用とEBN(3) 文献の批判的吟味1(討議、発表を含む)	西村	
第5回	文献の活用とEBN(4) 文献の批判的吟味2(討議、発表を含む)	西村	
第6回	看護と研究(1) 論文の要点と情報の質(討議、発表を含む)	西村	
第7回	看護と研究(2) 論文記述に関する各種声明(討議、発表を含む)	西村	
第8回	看護と研究(3) バイアス(討議、発表を含む)	西村	
第9回	身近な看護場面における課題を検討(討議、発表を含む)	前川	
第10回	身近な看護場面における課題解決につながる先行研究レビュー(討議、発表を含む)	前川	
第11回	身近な看護場面における課題解決の検討(討議、発表を含む)	前川	
第12回	身近な看護場面における課題を検討(討議、発表を含む)	前川	
第13回	身近な看護場面における課題解決につながる先行研究レビュー(討議、発表を含む)	前川	
第14回	身近な看護場面における課題解決の検討(討議、発表を含む)	前川	
第15回	まとめ	前川	

【授業および学修の方法】

各テーマに関して、課題学習およびディスカッションポイントを準備し、プレゼン・ディスカッションを通して学びを深める。

この科目は基本的に対面授業を行います。感染症拡大など、社会状況に応じて遠隔授業を行います。

【自学自習のためのアドバイス】

提示されたテーマについて、自身の経験などを振り返り、関連する参考図書、文献を探り、看護の理解につなげて考えてください。（準備学習各2時間程度 + 事後学習各2時間程度）

教科書・参考書等

教科書 特になし

参考書

パトリシア・ベナー著，井部俊子監訳：ベナー看護論 新訳版 初心者から達人へ，医学書院
他、適宜提示する

オフィスアワー 前川：講義予定日の17：30～22：00 看護学科5階517研究室

西村：講義予定日の17：30～22：00 看護学科5階515研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自、看護実践における課題を意識して受講されることを期待します。

ナンバリングコード M3NRS-BCDM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード： 961005) 基礎看護学演習 Seminar in Fundamental Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BCDM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 前川 泰子, 西村 亜希子	関連授業科目	基礎看護学特論	
	履修推奨科目	看護研究方法論1, 看護研究方法論2	
学習時間 授業90分×30回 + 自学自習(準備学習90時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 基礎看護学領域でそれぞれの関心のあるテーマについて、国内外の先行研究レビューを行い、研究課題を明確化することを支援します。そして、研究課題に適した研究方法を検討し、研究計画書の作成、中間発表会、倫理委員会受審の各プロセスにおいて支援します。			
授業の目的 基礎看護学領域でそれぞれの関心のあるテーマについて、国内外の先行研究レビューを行い、研究課題を明確化する。また研究課題に適した研究方法を検討し、研究計画書の作成、中間発表会、倫理委員会受審に向けて準備する。(以上、DPの「研究能力・応用力」「専門知識・理解」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 研究疑問に対して、国内外の先行研究レビューを行い、研究課題を明確化できる。(DPの「研究能力・応用力」「専門知識・理解」に対応) 2. 各自の研究課題を解決するための研究方法を選択できる。(DPの「研究能力・応用力」「専門知識・理解」に対応) 3. 研究デザインの設計ならびに、研究計画書の作成ができる。(DPの「研究能力・応用力」「専門知識・理解」に対応) 4. 研究における倫理的配慮について理解し、倫理委員会受審に向けて準備ができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 課題レポートの提出およびプレゼンテーション内容、ディスカッション内容を総合して行う。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ディスカッションやプレゼンテーションを取り入れて展開する。			
第1回 ガイダンス 第2回 基礎看護学に関する文献検索 第3回 基礎看護学に関する研究の動向 第4回 基礎看護学に関する研究論文1クリティーク 第5回 基礎看護学に関する研究論文2クリティーク 第6回 基礎看護学に関する研究論文3クリティーク 第7回 研究テーマ検討 第8回 研究テーマに関連する文献検討 第9回 研究目的の検討 第10回 研究目的の明確化 第11回 研究方法の検討 第12回 研究デザイン 第13回 研究の倫理的配慮の検討 第14回 研究計画書の作成 第15回 中間発表 第16回 研究計画書の作成 (研究テーマの修正) 第17回 研究計画書の作成 (研究目的の修正) 第18回 研究計画書の作成 (研究デザインの修正)			

- 第19回 研究計画書の作成（研究対象の修正）
- 第20回 研究計画書の作成（研究方法の修正）
- 第21回 研究計画書の作成（研究方法の修正）
- 第22回 倫理的配慮の修正
- 第23回 倫理審査申請書の作成
- 第24回 倫理審査申請書の作成（必要資料の作成）
- 第25回 倫理審査申請書の作成（必要資料の作成）
- 第26回 倫理審査申請書の修正
- 第27回 倫理審査申請書，必要資料の修正
- 第28回 研究計画書，倫理審査申請書・必要資料のまとめ
- 第29回 研究計画発表
- 第30回 まとめ

【授業および学修の方法】

各テーマに関して，事前に準備し，プレゼン・ディスカッションを通して学びを深める。
この科目は基本的に対面授業を行います。感染症拡大など，社会助教に応じて遠隔授業を行います。

【自学自習のためのアドバイス】

- 第1～7回 関心あるテーマについて文献の検索および評価を行い，既存のエビデンスについて整理する。
- 第8～10回 研究の主要概念について定義をまとめ，概念図を作成して疑問をモデル化する。
- 第11回 各概念を評価する方法についてまとめる。
- 第12回 基本的な研究デザインの特徴についてまとめ，自分の研究に適した研究デザインを選択し，理由をまとめる。
- 第13回 研究における倫理的原則を整理し，倫理的問題のリスクを明確化する。
- 第14～15回 研究計画書の草案を準備する。
- 第16～22回 研究の質，誤差，バイアスの考え方について整理し，研究計画書を修正する。
- 第23～27回 研究実施前に行うべき倫理的配慮のステップ，利益相反への配慮を整理し，倫理審査申請書を作成する。
- 第28回 研究開始のための手続き，必要書類について整理し，準備する。
- 第29～30回 作成した研究計画について発表資料を作成する。
(各回につき、準備学習3時間+事後学習1時間 計120時間)

教科書・参考書等

研究方法論等で紹介された図書の活用を勧める。他、適宜提示する。

オフィスアワー 前川 : 講義予定日の17:30～22:00 看護学科5階517研究室

西村 : 講義予定日の17:30～22:00 看護学科5階515研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自研究計画は、研究目的を絶えず意識して進めることを心がけて下さい。

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 961103) 看護医科学特論 Advanced Medical Science of Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 藤井 豊, 塩田 敦子, 加藤 育子	関連授業科目	臨床科学	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 看護に関する医学的問題点やジレンマを探求するために、漢方医学、乳幼児発達学、ウイルス学といった手法を通して、人体の構造や生理的機能、疾病の病態生理、治療について学生とともに知識を深める。			
授業の目的 学生にとって関心のある看護分野に関する文献や成書、先行研究をもとに、リサーチクエストをたて、漢方医学、乳幼児発達学、ウイルス学といった医学的手法を用いて課題解決の方法を探求する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 漢方の考え方、アセスメント、言葉の力を各々の看護分野に活かす方法を考え、研究テーマを見出すことができる。 2) 乳幼児の発達や母子相互作用、母乳育児を理解し、看護における効果的な乳幼児を持つ家族支援システムを提案することができる。 3) 文献検索により上記の問題点を探求することができる 4) 上記の問題点を解決するために必要な研究方法を具体的に述べられる (DPの「専門知識・理解」、「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に対する討議内容 (10%) 2. 選択したテーマに応じたプレゼンテーション資料作成と発表内容 (50%) 3. 最終課題レポート (40%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
第1回	漢方と母性看護、小児看護		塩田
第2回	漢方と在宅看護、老年看護		塩田
第3回	漢方と緩和ケア看護、災害看護		塩田
第4回	漢方と精神看護		塩田
第5回	漢方と医療者のセルフケア		塩田
第6回	新生児期の看護		加藤
第7回	乳児期の看護		加藤
第8回	児の発達からみた母子支援		加藤
第9回	学童期の発達障害に関する支援		加藤
第10回	早産時特有の発達障害に関する支援		加藤
第11回	パンデミックインフルエンザウイルス (抗原変異)		藤井
第12回	パンデミックインフルエンザウイルス (宿主特異性)		藤井
第13回	実験研究の一例 ウイルスゲノムのパッケージ機構		藤井
第14回	実験研究の一例 インコーポレーション・シグナルの解明		藤井
第15回	まとめ		藤井

講義と学生の自主学習によるプレゼンテーションを基にして、ディスカッションによる演習を行います。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】
自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

教科書・参考書等

参考書

漢方診療のレッスン（増補版）、花輪壽彦、金原出版、2003、5170円（購入は必須ではありませんが、参考にするとわかりやすいと思います）

母乳育児ハンドブック、日本小児医療保健協議会（四者協）栄養委員会、東京医学社、2022、4180円

医科ウイルス学、高田賢蔵著、南江堂、2009、9180円（詳しく勉強したい人のための参考書）

オフィスアワー 月曜日午後6－8時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義日程については随時相談に応じます。

ナンバリングコード M3NRS-BACM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード： 961104) 看護医科学演習 Seminar in Medical Science of Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～2医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 藤井 豊, 塩田 敦子, 加藤 育子	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	看護医科学特論、臨床科学	
学習時間 授業90分×30回+自学自習(準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 看護に関連する医学的論文をインターネットで検索する能力、さらには論文を読解して論文の要旨を述べる能力、研究計画の立て方、研究の進め方や解析方法及び研究結果に対する考察の仕方を習得し、研究計画書や修士論文作成に必要な基礎的知識を習得する。			
授業の目的 それぞれの専門分野において、設定したテーマに関する論文をクリティーク・レビューし、研究テーマを決定する。プレゼンテーション、討議を行いながら、研究倫理に配慮した研究計画書を作成する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. リサーチクエストionsに対して文献レビューを行い、検討し、自らの研究課題との関連性を明確化できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 研究課題を明確化し、研究の進め方、研究方法を選択、結果を予測し、考察の方法について検討できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 3. 研究倫理に配慮した研究方法を検討し、倫理審査をうける。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 研究計画書を作成できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 1. プレゼンテーション資料の作成と発表 (30%) 2. テーマに対する発言と討議内容 (20%) 3. 研究計画書 (50%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
第1回	文献検索の方法	塩田	
第2回	文献検索 (邦文)	加藤	
第3回	文献検索 (英文)	藤井	
第4回	文献検索 文献の抽出	塩田	
第5回	文献検索 文献の絞り込み	加藤	
第6回	各自が興味を持つ研究分野についてプレゼンテーション1	塩田、加藤、藤井	
第7回	各自が興味を持つ研究分野についてプレゼンテーション2	〃	
第8回	各自の研究予定のテーマについてプレゼンテーション1	〃	
第9回	各自の研究予定のテーマについてプレゼンテーション2	〃	
第10回	関連する文献の輪読1	塩田、加藤、藤井	
第11回	関連する文献の輪読2	〃	
第12回	関連する文献の輪読3	〃	
第13回	関連する文献の輪読4	〃	
第14回	関連する文献の輪読5	〃	〃
第15回	関連する文献の輪読6	〃	〃

第16回	関連する文献の輪読と研究テーマの絞り込み	藤井	
第17回	関連する文献の輪読と研究テーマ案	塩田	
第18回	関連する文献の輪読と研究テーマ案の修正		加藤
第19回	研究テーマと研究計画の概略		藤井
第20回	研究テーマの修正と研究計画の概略	塩田	
第21回	研究計画書の作成	加藤	
第22回	研究計画書の修正	藤井	
第23回	研究計画書の再修正	塩田	
第24回	研究計画書のプレゼンテーション	塩田、加藤、藤井	
第25回	研究計画書の再々修正とプレゼンテーション		〃
第26回	倫理審査書類の作成1	加藤	
第27回	倫理審査書類の作成2	藤井	
第28回	倫理審査書類の修正	塩田	
第29回	倫理審査のWEB上での申請	加藤	
第30回	研究計画書の提出	藤井	

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

自学自習（準備学習 60時間 + 事後学習 60時間）

教科書・参考書等

参考書（購入は必須ではありません）

1. 実証研究の手引き、古谷野亘、長田久雄著、ワールドプランニング、2014、1270円
2. SPSSによる統計処理の手順、石村貞夫、石村光資郎著、東京図書、2018、3024円

オフィスアワー 月曜日、木曜日午後6時以後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義日程については随時相談に応じます。

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 962011) 急性期成人看護学特論 Advanced Adult Health Acute Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 市原 多香子	関連授業科目	急性期成人看護学演習	
	履修推奨科目	理論看護学 看護研究方法論	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 成人看護領域における健康障害を持つ患者や家族に対する看護を理解するための科目です。成人期にある人のケアに関する理論や、健康危機の予防と手術や血管病変の治療からの回復を促進させる有効な看護実践について、文献を調べてレポートにまとめる学習とグループ討議により、自分なりの解決策をこれまでの体験と関連付けながら探求します。授業は、ディスカッションや学生の主体的参加によってすすめていきます。			
授業の目的 すべての健康レベルに健康危機に関する看護課題があります。本講義では、成人看護領域における健康障害をもつ患者および家族の課題を解決するために、既存の理論や看護実践の現状に関する文献を調べ、レポートにまとめ、臨床経験をもとに話すことによって、それらに関する専門知識に加えて、研究能力の基礎を身につけます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 健康危機のテーマに関する文献を検索し提示することができる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 2. 1に関連した文献を精読し、看護の現状と課題について整理できる。(DPの「専門的知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応する) 3. 学習成果として効果的にプレゼンテーションできる。(DPの「専門的知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4. テーマに関する討議に主体的に参加できる。(DPの「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 レポート50% (主に到達目標1と2に対応) 討議・発表50% (主に到達目標3と4に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業は、各自が興味のあるテーマを下記より選択し、対面による発表・討議によって進めます。そのため、自学自習による準備・学習を求めます。			
第1回 ガイダンス 第2回 健康危機状況にある成人患者の理解に関する理論：ストレス・コーピング 第3回 健康危機状況にある成人患者の理解に関する理論：危機理論 第4回 リハビリテーションの必要な患者の理解とアセスメントに関する理論：障害受容 第5回 リハビリテーションの必要な患者の理解とアセスメントに関する理論：ICFモデル 第6回 健康危機状況にある成人患者の看護援助に関する理論：成人教育 第7回 健康危機状況にある成人患者の看護援助に関する理論：症状マネジメント 第8回 健康危機状況にある成人患者の看護援助に関する理論：健康信念モデル 第9回 健康危機状況にある成人患者の看護援助に関する理論：変化ステージモデル 第10回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：周術期患者の回復促進 第11回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：循環機能障害患者の回復促進 第12回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：生活習慣病の重症化予防 第13回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：廃用症候群予防			

第14回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：運動機能障害患者の回復促進
第15回 総括

【自学自習のためのアドバイス】

興味のあるテーマに関してレポートを作成し、発表する

第2回～6回

健康危機にある成人患者の理解するための理論を読み、授業で発表できるように準備する。10時間

健康危機およびそこから回復を支援する看護の動向と課題についてレポートにまとめる。10時間

第7回～10回

リハビリテーション看護の関する理論を読み、授業で紹介できるよう準備する。10時間

リハビリテーション看護の動向と課題についてレポートにまとめる。10時間

第11回～15回

健康障害をもつ患者の看護について、その動向と課題について文献を収集し、授業で発表できるように準備する。

10時間

健康障害をもつ患者の看護について、その動向と課題についてレポートにまとめる。10時間

教科書・参考書等

教科書

なし

参考書

小島操子：看護における危機理論・危機介入第4版、Kinpodo、2018年 2640円

上田敏：ICFの理解と活用、きょうされん、2016年 733円

野川道子：看護実践に活かす中範囲理論第2版、2016年 4620円

佐藤栄子：事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門、2014年 3850円

大川弥生：よくする介護を実践するためのICFの理解と活用、中央法規、2015年 1980円

南雲直二：社会受容、荘道社、2002年 2750円

松本千明：健康行動理論の基礎、医歯薬出版株式会社、2012年 1980円

曾根智史訳：健康行動と健康教育、医学書院、2009年授業の時に適宜、紹介します。

オフィスアワー 講義終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

積極的に討論に参加し、自分の関心領域・専門領域を関連させて探求してください。

ナンバリングコード M3NRS-BACM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 962012) 急性期成人看護学演習 Adult Health Acute Nursing Seminar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 市原 多香子	関連授業科目	急性期成人看護学特論、看護研究方法論	
	履修推奨科目	看護研究方法論	
学習時間 授業90分×30回+自学自習(準備学習60時間 + 事後学習60時間)			
授業の概要 臨床看護における課題となる現象に関して、研究疑問として捉えなおし、自らの研究課題を焦点化していくプロセスを支援します。多くの文献を探索し、考え、思考を整理する学習により、研究課題とその意義を明確にし、加えて研究課題の解決に向けた適切な研究方法の設計について、討議によって追求します。このプロセスを経て研究計画書の作成を支援します。			
授業の目的 成人看護領域における健康障害をもった対象とその家族の問題となる看護現象を解決するため、適切に研究を設計する必要があります。自らの研究課題を文献検討およびクリティークを通して焦点化し、解決するための研究デザインを選択したうえで、研究計画書を作成するための能力を修得します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 研究疑問に対して文献レビューを行い、研究課題を明確にできる。(DPの「研究能力・応用力」「専門的知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応する) 2. 研究課題を解決するための多様な研究方法について調べて報告できる。(DPの「研究能力・応用力」「専門的知識・理解」に対応する) 3. 研究で主要概念となる用語を定義し説明できる。(DPの「研究能力・応用力」「専門的知識・理解」に対応する) 4. 研究課題の解決に適した研究方法を根拠をもって選択できる。(DPの「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応する) 5. 研究計画書を作成することができる。(DPの「研究能力・応用力」「専門的知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応する)			
成績評価の方法 レポート50% (主に到達目標1から4に対応) 研究計画書50% (主に到達目標5に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
研究計画書を作成するステップの基本となる知識について、各自が資料を準備したうえでプレゼンテーションし、参加者相互のディスカッションを通して理解を深めます。			
第1回 研究計画書を作成するための導入 第2回 研究論文クリティークその1：因子探索研究 第3回 研究論文クリティークその2：実態調査研究 第4回 研究論文クリティークその3：関係探索研究 第5回 研究論文クリティークその4：介入研究 第6回 リサーチクエスション 第7回 リサーチクエスションに対する文献検索 第8回 リサーチクエスションに関する文献検討：研究対象者 第9回 リサーチクエスションに関する文献検討：研究デザイン 第10回 リサーチクエスションに関する文献検討：測定方法 第11回 研究課題の明確化			

- 第12回 研究の概念枠組み
- 第13回 研究方法の検討：研究デザイン
- 第14回 研究方法の検討：主要概念の定義
- 第15回 研究方法の検討：研究背景・意義・目的
- 第16回 研究方法の検討：研究対象者
- 第17回 研究方法の検討：測定方法
- 第18回 研究方法の検討：分析
- 第19回 研究方法の検討：研究の倫理的配慮
- 第20回 研究計画書の作成：背景
- 第21回 研究計画書の修正：背景
- 第22回 研究計画書の作成：意義・目的
- 第23回 研究計画書の修正：意義・目的
- 第24回 研究計画書の作成：倫理的問題
- 第25回 研究計画書の修正：倫理的問題
- 第26回 研究計画書の作成：研究方法
- 第27回 研究計画書の修正：研究方法
- 第28回 研究計画書の作成：発表
- 第29回 研究計画書の修正：発表
- 第30回 まとめ

【自学自習のためのアドバイス】

1. 関心領域の論文を収集し、発表するための準備を行う 10時間
2. テーマに関連した論文を収集し、発表するための準備を行う 10時間
3. 文献検討の結果について、マトリックスを作成する 20時間
4. テーマに適した研究方法について整理しておく 10時間
5. 選んだ研究デザインと研究方法について調べておく 10時間
6. データ分析（質研究、統計）や研究倫理のFD研修に参加する 10時間
7. テーマに関連して、予備調査をする 10時間
8. 研究計画書の作成方法について調べておく 10時間
9. 研究計画書を作成する 20時間
10. 中間発表に向けて発表資料を作成する 10時間

教科書・参考書等

教科書なし

参考書

D. F. ポーリット&C. T. ベック著、近藤潤子監訳、看護研究-原理と方法第2版、医学書院、2011年 10450円

P. J. ブリンク・M. J. ウッド著 小玉香津子・輪湖史子訳、看護研究計画書作成の基本ステップ、日本看護協会出版会、1999年 3630円

南裕子：看護における研究第2版、日本看護協会出版会、2017年 3190円

木原正博：医学的研究のデザイン第4班、メディカル・サイエンス・インターナショナル、5170円

小笠原知枝：これからの看護研究 基礎と応用、NOUVELLE HOROKAWA、2012年 4180円

古谷野亘：実証研究の手引き、ワールドプランニング、2001年 3025円

前田樹海：APAに学ぶ看護系論文執筆ルール、医学書院、2013年 1980円

オフィスアワー 講義終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

事前に研究テーマに関する多くの書物や文献をよく読んで、知識を整理してから授業に臨んでください。

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 962021) 慢性期成人看護学特論 Chronic nursing theory for adults	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 清水 裕子	関連授業科目	看護教育学	
	履修推奨科目	看護教育学	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 本授業では、研究入門者である修士学生が成人看護研究にとりかかる前に、関連する基本概念を理解するための科目である。 人間の完態である成人は、生涯発達の看護学を理解する上での基本モデルであり、成人看護研究を学ぶことで他の発達段階での研究の理解をも深めることができる。 具体的には、成人の人間らしさを科学的に理解するために、認知と行動の発達を行動科学理論でとらえ、また慢性疾患の不確かさや病の経過を軌跡としてとらえる。さらに死に向かう人間の生きる意味や逆境を生き抜く強さなどを哲学的な観点からとらえ、慢性期看護のあり方を考える。これらを通して、看護者の態度価値、看護者に必要な哲学的人間観の涵養を目指している。			
授業の目的 本授業の目的は、哲学的、科学的観点から成人看護研究方法を学び、各自の研究計画への示唆を与えることである。具体的には、慢性期看護特有の臨床的疑問や患者特性からくる看護の工夫への課題を明確化するために、実際の研究を進めていくにあたり、最新知見を調査・レビューしながら研究目的を明確化する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
到達目標 1. 慢性期にある成人の役割課題が説明できる。(DPのA：専門知識・理解に対応) 2. 慢性期にある成人への有用な看護方法が説明できる。(DPのB：研究能力・応用力に対応) 3. 慢性期にある成人への看護課題を解決できる方法を説明できる。(DPのB：研究能力・応用力に対応)			
成績評価の方法 事前学習や成果物、50%、授業や討論への参加状況、プレゼンテーションの50%で評価を行う。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業計画 授業は参加型とする。 自らの疑問や関心に関連する事項を発表し、討論を展開することが基本である。			
第1回	ガイダンス・成人看護研究トピックス	清水	
第2回	これまでの看護研究の経験の振り返り	清水	
第3回	慢性期の研究方法――量と質の混合研究法	清水	
第4回	成人看護のための行動科学Ⅰ―認知	清水	
第5回	成人看護のための行動科学Ⅱ―発達	清水	
第6回	成人看護のための行動科学Ⅲ―行動理論	清水	
第7回	成人看護のための行動科学Ⅲ―認知行動理論	清水	

第8回	成人疾病と看護—不確かさ理論	清水
第9回	成人疾病と看護—不確かさ理論の応用	清水
第10回	成人疾病と看護—病みの軌跡理論	清水
第11回	成人疾病と看護—病みの軌跡理論の応用	清水
第12回	成人看護における存在論—ケアリング	清水
第13回	成人看護における存在論—スピリチュアルニード	清水
第14回	成人看護における哲学的アプローチ—スピリチュアルケア	清水
第15回	成人看護における態度価値とwell-being	清水

【自学自習へのアドバイス】

各授業の際には、院生各自が必ず、資料となるレジュメを準備し、討論形式で進める。

- 第1回 最新の慢性期の看護状況の文献動向を調査しておく
- 第2回 これまでの看護研究の経験の振り返りをまとめておく
- 第3回 看護現象のなかにある量と質の変数の概念を明確化しておく
- 第4回 患者や看護職の認知理論に基づく疑問をまとめておく
- 第5回 患者や看護職の発達理論に基づく疑問をまとめておく
- 第6回 患者や看護職の行動理論に基づく疑問をまとめておく
- 第7回 患者や看護職の認知行動理論に基づく疑問をまとめておく
- 第8回 不確かさ理論を概観しておく
- 第9回 不確かさ理論の臨床的応用についての意見をまとめておく
- 第10回 病みの軌跡理論を概観しておく
- 第11回 病みの軌跡理論の臨床的応用についての意見をまとめておく
- 第12回 ケアリングの歴史的変遷を概観しておく
- 第13回 スピリチュアルニードの概念について概観しておく
- 第14回 スピリチュアルケアの概念について概観しておく
- 第15回 well-beingの概念について概観しておく

教科書・参考書等

教科書 なし

参考図書

- Roach, M. S. (鈴木智之・操華子・森岡崇訳) アクト・オブ・ケアリング, ゆみる出版, 1996(2, 100円)
- Waldemar Kippes, スピリチュアルケア, サンパウロ, 1999(2, 300円)
- Pierre Woog(ed.), 黒江ゆり子他訳, 慢性疾患の病みの軌跡, 医学書院, 1995(2, 700円)
- Pearman, R. R. & Albritton, S. C.、園田由紀訳, MBTIへの招待, 金子書房, 2002(3, 500円)
- Walker, L. O. & Avant, K. C. (中木高夫・川崎修一訳) 看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008(3, 800円)
- 清水裕子編著, ヒューマンケアと看護学, ナカニシヤ出版, 2014
- 窪寺俊之(2008)、スピリチュアルケア学概説、関西学院大学論文叢書、三輪書店
- 窪寺俊之(2000)、スピリチュアルケア入門、三輪書店

オフィスアワー 授業日前日と当日に対応する。発表などの資料相談は随時、Emailも対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
プレゼンテーション資料は、事前に相談に応じる。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg4 授業科目名 (時間割コード: 962022) 慢性期成人看護学演習 Chronic nursing theory for adults	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 4	
担当教員名 清水 裕子	関連授業科目	看護教育学、慢性期成人看護学特論	
	履修推奨科目	看護教育学、慢性期成人看護学特論	
学習時間 授業90分×30回 + 自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 慢性成人看護学演習では、修士論文計画書作成と中間発表が主な内容である。学生の関心領域のテーマについて文献検索し、クリティークを繰り返して研究テーマを絞り込む。研究テーマを明らかにするための研究方法の妥当性を検討して、倫理委員会受審までの研究計画書を作成する。その段階で中間発表会に臨み、発表方法や質疑応答の方法を学び、研究方法を具体化していく段階までを行う。			
授業の目的 慢性成人慢性期から終末期にある成人とその家族の看護を発展させるために、各自が選択したテーマに基づいて、実現可能性のある研究計画を概ね作成できる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 研究疑問を研究課題として明確化できる。(DPのC: 倫理観・社会的責任に対応) 2. 研究課題に関連する文献検索を行って実現可能性を明らかにできる。(DPのB: 研究能力・応用力に対応) 3. 研究に用いる主要概念を整理・説明することができる。(DPのB: 研究能力・応用力に対応) 4. 研究課題を解決する妥当な研究方法を説明できる。(DPのB: 研究能力・応用力に対応) 5. 以上から、計画書として作成し、他者の質疑に回答できる。(DPのB: 研究能力・応用力に対応)			
成績評価の方法 事前学習、成果物、50%、授業や討論への参加状況、プレゼンテーションの50%で評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 研究計画書を作成するために必要な基本知識と計画書作成までの学習内容を適切に発表し、発展させる。			
第1回	研究計画書の作成までのガイダンス	清水	
第2回	ガイダンス質疑応答	清水	
第3回	これまでの看護研究の経験の振り返り	清水	
第4回	それぞれの経験について質疑応答	清水	
第5回	過去の研究の成果の評価	清水	
第6回	それぞれの研究成果について意見交換	清水	
第7回	研究疑問の妥当性	清水	
第8回	研究疑問のクリティーク	清水	
第9回	研究疑問を深める～文献の参照	清水	
第10回	文献検討	清水	
第11回	研究の意義の明確化	清水	
第12回	意義についての意見交換	清水	
第13回	研究の主要概念の説明と整理	清水	
第14回	主要概念の考え方について意見交換	清水	
第15回	研究の主要概念分析	清水	

第16回	概念の可視化	清水
第17回	研究デザインの検討	清水
第18回	デザインの可視化	清水
第19回	研究方法の検討	清水
第20回	質的量的研究の妥当性	清水
第21回	分析枠組み	清水
第22回	分析枠組みの可視化	清水
第23回	研究における倫理的問題の検討	清水
第24回	倫理的問題の意見交換	清水
第25回	研究計画書の作成	清水
第26回	計画についての意見交換	清水
第27回	研究計画書のクリティーク	清水
第28回	抄録作成方法	清水
第29回	中間発表会における発表と質疑応答	清水
第30回	模擬発表	清水

【自学自習へのアドバイス】

各授業は、院生各自が資料となるレジュメを準備し、討論形式で行う。

第1回	研究計画書のアウトラインを準備しておく	2時間
第2回	アウトラインの記述	2時間
第3回	これまでの看護研究の経験の振り返りをまとめておく	2時間
第4回	経験のまとめと発表の準備	2時間
第5回	過去の研究の成果について自己評価を含めてまとめておく	2時間
第6回	研究成果の発表準備	2時間
第7回	研究疑問について発表資料を準備しておく	2時間
第8回	発表資料準備	2時間
第9回	研究疑問を深めるために文献調査をまとめておく	2時間
第10回	文献発表準備	2時間
第11回	研究の意義についてのエビデンスをまとめておく	2時間
第12回	エビデンスの資料準備	2時間
第13回	研究の主要概念の定義についてまとめておく	2時間
第14回	主要概念資料の準備	2時間
第15回	研究の主要概念分析の文献を調査し発表資料を準備しておく	2時間
第16回	文献発表練習	2時間
第17回	研究デザインについて概念図のアウトラインを書いておく	2時間
第18回	デザインの可視化資料順義	2時間
第19回	研究方法のアウトラインをまとめておく	2時間
第20回	方法の資料準備	2時間
第21回	分析枠組みの図を書き起こしておく	2時間
第22回	分析枠組み発表準備	2時間
第23回	研究における倫理的問題の発生するリスクを明確化しておく	2時間
第24回	倫理的問題の資料準備	2時間
第25回	研究計画書の下書きを準備する	2時間
第26回	様式にそって計画書の記述	2時間
第27回	研究計画書のクリティークのための文献調査を行い発表資料を準備しておく	2時間
第28回	クリティーク結果の資料作製	時間
第29回	中間発表会における発表資料の作成をしておく	2時間
第30回	発表練習	2時間

教科書・参考書等

教科書 なし

参考図書

清水裕子編著、ヒューマンケアと看護学、ナカニシヤ出版、2014

Brink著、小玉香津子他訳（1999）、「看護研究計画書作成のステップ」日本看護協会出版会、3,465円、書籍部にて購入

ポーリット・ハングレー著、近藤潤子他訳（1994）、看護研究原理と方法、医学書院、11,807円

オフィスアワー 各自の進行状況に応じて、随時相談（メールを含む）に応じます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

プレゼンテーション資料は、事前に相談に応じます。

ナンバリングコード M2NRS-ACBM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 962101) 小児看護学特論 Pediatric Nursing Theories Pediatric Nursing Theories	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ACBM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 谷本 公重	関連授業科目	小児看護学演習、小児看護学特別研究	
	履修推奨科目	看護倫理学、看護研究方法論1、看護研究方法論2	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本研究科小児看護学では、小児看護の臨床現場における複雑で困難な問題を解決し、その看護実践を体系化、理論化することを目指しています。そのため、小児看護学特論は、小児看護において用いられる子どもとその家族に関する諸理論を学際的に探究していきます。授業は、各回のテーマに関して院生による主体的な学びをもとに、参加者によるディスカッションによって進行していきます。また、必要に応じて英語文献の講読も行います。自学自習により、講読を進めて講義に臨んでください。			
授業の目的 子どもを統合体としてとらえた上で、小児看護において重要な理論に関して概観していきます。この事を通して、子どもを理解するとともに、子どもの最善の利益を守るための法律や条約に関して理解を深めます。加えて、子どもを持つ家族に関する理論に関して検討していきます。そして、これらの諸理論に関して、社会情勢を踏まえ、日本の文化の中において適応する際の課題について考察していきます。これらの過程を通して、講義のためにレビューした文献を読み進めることにより、研究の動向が明らかとなり、個々の研究課題の明確化につなげることが可能となります。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 子どもの成長発達に関する原則を列挙することができる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 子どもの権利条約に関する歴史的背景とその内容、現状および課題について説明することができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 子どもの認知発達に関する理論について述べるすることができる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 4. 子どもを持つ家族に関する理論について述べるすることができる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 5. これらの理論を臨床現場における現状に適応し、その課題を説明することができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 講義での討議の内容(50%)およびレポート内容(50%)から、積極性・論理性・理解力・表現力を評価します。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回 生涯発達と小児：成長発達の理解—生物学的視点 第3回 成長発達の理解：解剖生理学的視点 第4回 成長発達の理解：心理学的視点 第5回 成長発達の理解：社会学的視点 第6回 子どもの最善の利益を守るための法律・条約 第7回 医療現場において子どもとその家族の最善の利益を守るためのケアモデル 第8回 子どもの認知発達に関する理論：ピアジェの思考発達段階説 第9回 子どもの関係性の発達：マラーの分離—固体化理論、ボルビイの愛着理論 第10回 子どもの関係性の発達：ボルビイの愛着理論			

- 第11回 子どもの自我の発達：エリクソンの自我発達理論
- 第12回 子どもの自我の発達：フロイトの心理学的理論
- 第13回 子どもの生活援助に関する理論
- 第14回 健康危機状態にある子どもとその家族への援助に関する理論
- 第15回 諸理論適応による事例検討とその課題

【授業及び学修の方法】

授業は、受講者の理解を深めるために発表と全体討議で展開します。毎回、提示された内容に関して、事前学習をし、理解を深め、資料を作成する。13回～15回では、授業で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理し、受講者が発表し、討議を行います。

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

第2回～12回 毎回、提示された内容に関して、事前学習をし、理解を深め、受講者で討議する資料を作成します。(5時間×11回)

第13回～15回 自ら選択した小児とその家族の健康課題について、授業で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理し、その解決策を発表資料にまとめてください。(5時間)

教科書・参考書等

【教科書】

松森直美, 蝦名美智子編集：小児看護ケアモデル実践集 看護師が行う子ども目線のプレパレーション, へるす出版, 2012年, ¥3,000+税.

【参考書】

- ・小嶋謙四郎 著：乳児期の母子関係 アタッチメントの発達 第2版, 医学書院, 1981年, ¥4,500+税.
- ・バーバラ・M. ニューマン, フィリップ・R. ニューマン 著 福富護 訳：生涯発達心理学：エリクソンによる人間の一生とその可能性, 川島書店, 1988年, ¥6,000+税.
- ・J. Bowlby 著, 二木武 監訳：ボウルビィ 母と子のアタッチメント 心の安全基地, 医歯薬出版株式会社, 1993年, ¥2,500+税.
- ・J. Bowlby 著, 黒田実郎, 大羽素, 岡田洋子, 黒田聖一 翻訳, I 愛着行動 新版, 岩崎学術出版社, 1991年, ¥10,000+税.
- ・Marshall H. Klaus, John H. Kennell 著, 竹内徹, 柏木哲夫, 横尾京子 翻訳, 親と子のきずな, 医学書院, 1998年, ¥3,000+税.

オフィスアワー 講義予定日の18時から22時。また、メール等で適宜受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

主体的な学びをもとに授業に参加するとともに、参加者相互で積極的に討論し、論理的思考と表現力の向上を図りましょう。関連する文献は積極的に講読、多読すること。必要に応じて英語論文も講読していただきます。講読する文献に関しては、医学部図書館でガイダンスしていただける医中誌、PubMed等を用いて系統的検索を行い、文献管理ツール（Mendeley等）を利用して効率よく管理してください。

ナンバリングコード M3NRS-BACM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード： 962103) 小児看護学演習 Pediatric Nursing Seminar Pediatric Nursing Seminar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 谷本 公重	関連授業科目	小児看護学特論、小児看護学特別研究	
	履修推奨科目	看護倫理学、看護研究方法論1、看護研究方法論2、小児看護学特論、小児看護学特別研究	
学習時間 授業90分×30回+自学自習(準備学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 それぞれのテーマに沿って文献をクリティークおよびレビューしつつ、研究テーマの明確化を支援します。さらに、文献検討をすすめて自己の研究方法を具体的に検討し、研究計画書の作成を支援します。なお、院生間の発表、ディスカッションは概念の明確化や論理的表現を助けます。履修者には積極的に参加する事を求めます。			
授業の目的 小児看護分野での主要なテーマに関する論文をクリティーク・レビューし、研究テーマを決定する。そのうえで、研究の基本要件を踏まえて、研究計画書を作成することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 研究の問いに関して文献レビューを行い、研究課題を明確化できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 自己の研究課題を過去の研究の蓄積の中で適切に位置づけることができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 3. 研究課題に応じた適切な研究対象者や研究方法を選択できる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 研究計画書を作成できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 以下の項目から積極性・論理性・理解力・表現力および科学的合理性を評価する。 1. プレゼンテーション資料の作成と発表 (30%) 2. テーマに対する発言と討議内容 (30%) 3. 研究計画書 (40%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回：文献のクリティークとレビュー (復習) 第2回：興味ある量的研究をクリティーク 第3回：興味ある量的研究 (英語) をクリティーク 第4回：興味ある質的研究をクリティーク 第5回：興味ある質的研究 (英語) をクリティーク 第6回：既読の文献による知見の整理 第7回：リサーチクエッションの明確化 第8回：研究すべき問題の発見 第9回：研究テーマの明確化 第10回：リサーチミーティング：研究テーマ 第11回：研究目的の明確化 第12回：研究目的の文章化 第13回：研究方法の検討—研究デザイン 第14回：研究方法の検討—研究枠組み			

- 第15回：研究方法の検討—仮説の立案
- 第16回：研究方法の検討—対象の選定、取り込み基準、除外基準
- 第17回：研究方法の検討—可能性のある対象者への不利益検討
- 第18回：研究方法の検討—倫理的配慮
- 第19回：研究方法の検討—分析方法 プロセス
- 第20回：研究方法の検討—分析方法 信頼性・妥当性・真実性
- 第21回：分析方法に関する演習—自己の方法に応じて演習
- 第22回：分析方法に関する演習—質であればインタビュー演習
- 第23回：分析方法に関する演習—量であれば統計ソフト演習
- 第24回：リサーチミーティング：研究方法
- 第25回：研究計画書作成—ひな形の選択
- 第26回：研究計画書作成—目的・背景・意義・方法
- 第27回：研究計画書作成—研究参加への同意を得る方法、同意書・撤回書作成
- 第28回：研究計画書作成—データ管理
- 第29回：医学部倫理委員会への電子申請
- 第30回：リサーチミーティング：進捗状況に関して

【授業及び学修の方法】

講義および院生によるプレゼンテーションと討議で展開する。そのため、自学自習による準備・学習が必要です。

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

小児看護分野での主要なテーマに関する論文をクリティーク・レビューし、研究テーマを決定する。そのうえで、研究の基本要件を踏まえて、研究計画書を作成することを目的としています。各回、自己の研究テーマに沿って文献を購読し、医学部倫理委員会への申請する研究計画書その他、関連書類作成までを行う。指導教員および副指導教員の指導を得ながら、進めていく。(4時間×30回)

教科書・参考書等

【教科書】

- ・Burns N, Grove SK (2005)/ 黒田裕子, 中木高夫, 逸見功訳(2015):バーンズ&グローブ看護研究入門—評価・統合・エビデンスの生成—, エルゼビア・ジャパン.
- ・APA(2010)/前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦訳(2011):APA論文作成マニュアル, 医学書院.
- ・前田樹海, 江藤裕之 (2012):APAに学ぶ看護系論文執筆のルール, 医学書院.

【参考書】

- ・Hulley, SB. et al (2007)/木原雅子, 木原正博訳(2014):医学的研究のデザイン(第4版), メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- ・Mitchell HK. (2010)/木原雅子, 木原正博訳(2013):医学的介入の研究のデザインと統計, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- ・Byrne, DW. et al. (1998)/木原正博, 木原雅子訳(2001):国際誌にアプセプトされる医学論文, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- ・Burns N, Grove SK (2005)/ 黒田裕子, 中木高夫, 逸見功訳(2015):バーンズ&グローブ看護研究入門—評価・統合・エビデンスの生成—, エルゼビア・ジャパン.

オフィスアワー 講義予定日の18時から22時。また、メール等で適宜受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講読する文献に関しては、医学部図書館でガイダンスしていただける医中誌、PubMed等を用いて系統的に検索を行い、文献管理ツール(Mendeley等)を利用して効率よく管理してください。

実際に研究に取り掛かるためには、年2回開催される修士論文中間発表会での発表および医学部倫理委員会での申請が必要となります。このことを考慮し、計画的に研究計画を作成することが必要です。

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 962201) 母性看護学特論 Maternal Nursing Theories	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 川田 紀美子, 野原 留美	関連授業科目	母性看護学演習	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 本科目では、性の生涯を通じたリプロダクティブヘルス/ライツの概念から、各ライフステージにおける健康問題と課題について教授する。また、援助の方向性を探求するために、母性看護領域に関連する概念と理論の知識を教授する。			
授業の目的 母性看護学領域に関連する理論と知識を学び、女性のライフステージにおける課題探求と問題解決について理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 女性のライフステージにおける健康問題の特徴と課題について説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応) 2. リプロダクティブヘルス/ライツの概念から、女性の健康問題について援助の方向性が説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応) 3. 母性看護領域に関連する概念と理論について説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 1. 各課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (40%) 2. 各課題に対する討議内容と参加度 (30%) 3. 最終課題レポート (30%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 ガイダンスー講義内容と学修方法 (川田 紀美子 野原 留美)			
第2回 女性のライフステージと健康 (川田 紀美子 野原 留美)			
第3回 女性のライフステージにおける健康問題の特徴 (思春期・成熟期)			(川田 紀美子 野原 留美)
第4回 女性のライフステージにおける健康問題の特徴 (更年期・老年期)			(川田 紀美子 野原 留美)
第5回 セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (川田 紀美子 野原 留美)			
第6回 リプロダクティブヘルスの主要概念ー性感染症, 人工妊娠中絶			(川田 紀美子 野原 留美)
第7回 リプロダクティブヘルスの主要概念ー不妊と生殖医療			(川田 紀美子 野原 留美)
第8回 リプロダクティブヘルスの主要概念ードメスティックヴァイオレンス, 他			(川田 紀美子 野原 留美)
第9回 母性看護学領域に関連する概念と理論ー母性と父性			(川田 紀美子 野原 留美)
第10回 母性看護学領域に関連する概念と理論ー母性の発達, 母親役割取得過程			(川田 紀美子 野原 留美)

美)		
第11回	母性看護学領域に関連する概念と理論—ジェンダー, セクシュアリティ	(川田 紀美子 野原 留美)
第12回	母性看護学領域に関連する概念と理論—エンパワーメント, セルフケア	(川田 紀美子 野原 留美)
第13回	母性看護学領域に関連する概念と理論—母子の愛着	(川田 紀美子 野原 留美)
第14回	母性看護学領域における倫理的配慮	(川田 紀美子 野原 留美)
第15回	母性看護学領域における倫理的課題—生命倫理	(川田 紀美子 野原 留美)

【授業および学修の方法】

この科目は対面授業を行うが、状況によっては遠隔へ変更する場合がある。
 第一回に課題を提示する。第2回以降は各自まとめた内容を発表し討議をする。
 毎回課題についてディスカッションしていくので、問題意識をもちながら主体的に課題に取り組むこと。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

第2回～4回 母性看護学に関連する基礎的知識, および健康問題の特徴と課題について紹介できるよう準備する。また、テーマに関連する文献を複数クリティークして紹介する。(3時間 × 3回)
 第5回～8回 リプロダクティブヘルスの概念と関連する内容について調べ, 紹介できるように準備する。また、テーマに関連する文献を複数クリティークして紹介する。(4時間 × 4回)
 第9回から15回 母性看護学領域に関連する概念について調べ, 問題と今後の課題について紹介できるように準備する。またテーマに関連する文献を複数クリティークして紹介する。(4時間 × 7回)
 最終課題レポート 講義全体をとおしての学びと自ら選択した課題について, さらに文献等を用いてレポートにまとめる。(7時間)

教科書・参考書等
 教科書 なし

参考書
 各講義で適宜紹介します。

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
 学生は自らに課せられた課題を把握すること。
 疑問点や質問は教員に尋ねて解決し、主体的に学習をすすめること。
 課題についてのプレゼンテーションは、文献等で根拠を明らかにした上で行うこと。

ナンバリングコード M3NRS-BCAM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 962203) 母性看護学演習 Maternal Nursing Seminar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BCAM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 川田 紀美子, 野原 留美	関連授業科目	特別研究	
	履修推奨科目	母性看護学特論, 看護研究方法論 I・II	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習60時間 + 事後学習60時間)			
授業の概要 本科目では、母性看護学領域における自己の研究課題と研究方法について探求する能力を涵養する。研究課題探求期では、先行研究のクリティークから自身の興味を研究課題に具体化する。研究計画立案期では、研究目的を達成するための具体的な研究計画を完成させる。			
授業の目的 文献による先行研究の検討から自己の研究課題を見出せることと、自身の研究目的を達成するために適切な研究計画を立案する。また、自らの研究計画について中間発表等で適切に説明ができ、助言を基に研究計画を発展させ、実施につなげる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
研究課題探求期 1. 自身の興味のある課題の現状や研究の動向について、文献をもとにまとめることができる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 2. 先行研究について検索し要約することができる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 3. 自身のResearch Questionを明確にすることができる。(DPの「研究能力・応用力」「研究能力・応用力」に対応) 4. 自身の研究目的と研究の意義を見出す。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 研究計画立案期 1. 研究目的を達成するために適切な研究計画が立案できる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 2. 中間発表に向けて準備し発表できる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 3. 助言をもとに、研究計画を発展させることができる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4. 研究倫理について考慮し、研究計画を完成することができる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 研究課題探求期 1. 各テーマに応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (40%) 2. 各テーマに対する議論の内容と参加度 (10%) 研究計画立案期 1. 中間発表内容 (20%) 2. 研究計画書および倫理委員会申請書類作成 (30%) 形成的評価として、研究課題探求期履修後に面談を行う			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。			

不可（60点未満）到達目標を達成していない。
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。

合格又は了	到達目標を達成している。
不合格	到達目標を達成していない。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

本科目には研究課題探求期と研究計画立案期とを設ける

研究課題探求期

- 第1回 授業ガイダンス 文献クリティークについて
- 第2回 関心のある母性看護学領域のkeyword設定
- 第3回 関心のある母性看護学領域の研究論文検索
- 第4回 関心のある母性看護学領域の研究論文紹介
- 第5回 関心のある母性看護学領域の研究論文についてクリティーク
- 第6回 関心のある母性看護学領域の研究論文について発表
- 第7回 関心のある母性看護学領域の研究論文について討議
- 第8回 研究課題に関連する研究論文についてkeyword設定と検索
- 第9回 研究課題に関連する研究論文についてクリティーク
- 第10回 研究課題に関連した既知の内容確認
- 第11回 研究課題に関連した未知の内容確認
- 第12回 Research Questionの検討
- 第13回 Research Questionの決定
- 第14回 研究課題の検討
- 第15回 研究課題の決定

研究計画立案期

- 第16回 研究計画書の作成ー目的・意義
- 第17回 研究計画書の作成ー研究デザイン
- 第18回 研究計画書の作成ー対象者の選定（選択基準）
- 第19回 研究計画書の作成ー対象者の選定（除外基準）
- 第20回 研究計画書の作成ー分析方法・予測される結果
- 第21回 研究計画書の作成ー倫理的配慮
- 第22回 研究計画書の作成ー質問紙・インタビューガイド作成
- 第23回 研究ロードマップの作成
- 第24回 研究計画発表準備ー修士研究中間発表準備
- 第25回 研究計画発表準備ーリハーサルと修正
- 第26回 研究計画の発表ー修士研究中間発表会
- 第27回 倫理審査申請書の作成・申請
- 第28回 倫理審査委員会の審査・修正
- 第29回 倫理審査申請書の修正・完成
- 第30回 研究計画完成

【授業および学修の方法】

授業は受講者が主体性を持って学習し、自ら自身の研究課題を見出すために発表と討議を行う。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

研究課題探求期

- 第2回～4回 自己の関心あるテーマからkeywordを設定して文献検索を行う。（2時間×3回）
- 第5回～7回 母性看護学領域で行われている質的・量的研究論文をクリティークして紹介する。（2時間×3回）
- 第8回～11回 研究課題に関連する論文をクリティークし、既知と未知の内容を理解する。（2時間×3回）
- 第12回～15回 自己の研究課題を明確化する。（2時間×6回）

研究計画立案期

- 第16回～23回 研究目的を明らかにするための研究計画を立案する。（2時間×8回）
- 第24回～26回 自身の研究計画について中間発表会で発表する。（2時間×3回）
- 第27回～30回 中間発表会で得た助言等をもとに、再度研究計画書の精度を上げる。また、倫理審査申請に向けて必要となる書類を作成し、倫理審査申請を行う。倫理審査に伴うインタビューや書類修正等を行い、自身の研究計画を完成させる。（2時間×4回）

教科書・参考書等
参考書

1. D.F. ポーリット／C.T. ベック, 近藤潤子監訳: 看護研究—原理と方法(第2版), 医学書院, 2010.
他、適宜提示する.

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目には研究課題探求期と研究計画立案期とを設ける.
形成的評価として、研究課題探求期履修後に面談を行う.
面談の結果、研究課題探求期の延長を申し渡す場合がある.

講義時間だけでは熟考された研究計画立案は難しい.
学生は自主的・積極的にすすめていくこと.

国内外の学会に積極的に参加すること.
最新の研究動向やプレゼンテーションの実際を学ぶことで、研究能力育成を期待する.

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 962311) 老年看護学特論 老年看護学特論 Gerontological Nursing Theories	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 山本 美輪	関連授業科目	老年看護学演習、特別研究	
	履修推奨科目		
学習時間 講義 90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 超高齢社会である日本において、人間発達や全人的な見方について文献から学び、老年期の発達課題に焦点を当てて学びを深める。そして、加齢に伴う変化からのアセスメントを基礎とした高齢者の全人的理解から、現在起こっている高齢者問題や認知症高齢者またその家族への対応、高齢者問題に潜む倫理的問題や予測されるリスクについてその背景や、介護予防・認知症予防等のグッドエイジングも含めて学ぶことで老年看護のあり方や認知症高齢者の専門的ケアについて探求する。			
授業の目的 高齢者を人間発達の視点で捉え、高齢者とその家族も看護の対象であることを理解するために、重要な専門的知識や理論について学び、高齢者とその家族を援助する方法について考える。また、認知症ケアや介護予防・認知症予防、地域包括ケアシステムにおける老年看護、認知症高齢者の専門的ケアのあり方について探求する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 高齢者について、人間発達の視点から説明できる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 2. 高齢者とその家族の理解を促す専門的知識や理論について説明できる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 3. 人間発達の視点を踏まえ、高齢者とその家族への援助について説明できる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 4. 理論に基づく高齢者とその家族への援助について説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」「研究能力・応用力」に対応) 5. 地域包括ケアシステムにおける老年看護について説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」「研究能力・応用力」に対応) 6. 認知症高齢者の専門的ケアの考えを説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 プレゼンテーションの内容、授業での発言内容50%、課題レポート50%で評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 講義、テーマに基づいた院生のプレゼンテーション、テーマに関するディスカッション、レポート			
第1回 オリエンテーション 人間発達・高齢者の全人的な見方について 山本 第2回 老年期の心理社会的課題の理論 山本 第3回 老年期の心理社会的課題、地域包括ケアシステムに関する研究 山本 第4回 高齢者体験・加齢に伴う身体的変化 山本 第5回 高齢者の生活評価 ADL/IADL、運動機能 山本 第6回 高齢者の生活評価 ADL/IADLへの援助・福祉機器 山本 第7回 介護予防・高齢者へのアクティビティケア 山本 第8回 認知症高齢者ケア・アルツハイマー型認知症 山本 第9回 認知症高齢者の家族への看護 山本 第10回 認知症高齢者ケア・レビー小体型認知症 山本 第11回 認知症高齢者ケア・前頭側頭型認知症 山本 第12回 高齢者看護における倫理的問題 山本			

- 第13回 老老介護・認知介護・介護殺人 山本
第14回 高齢者の死生観 山本
第15回 老年期にいる高齢者の対象理解・援助のあり方のまとめ 山本

レポート作成

以上の評価に関しては、進捗状況、内容の理解度によって変更することがある。

第1回～3回：高齢者における文献・テキストを用いて講義形式で行う（準備＋まとめ15時間）。

第4回～7回：講義・演習形式で行う（準備＋まとめ15時間）。

第8回～15回：動画・文献を用いてディスカッションを主体とし、学生のプレゼンテーションを含めながら進める（プレゼン準備15時間＋まとめ15時間）。

第1回～15回の理解を助け深めるため教科書の指示する動画を視聴して講義に参加するのが望ましい。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

（準備学習30時間 + 事後学習30時間）

*この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては一部の授業回では遠隔授業へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

教科書・参考書等

教科書 これからの高齢者 ケア～知る・織る・共感する，山本美輪，前川泰子，松井幸子，シービーアール，2018年，2750円

オフィスアワー 火曜日17時から18時30分

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

研究テーマや実践の中から、関心を持ち、積極的に討論に参加して、人間発達や高齢者の全人的な見方や高齢者看護における倫理的問題について関心を持って欲しい。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 962312) 老年看護学演習 老年看護学演習 Gerontological Nursing Seminar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 山本 美輪	関連授業科目	老年看護学特論、特別研究	
	履修推奨科目	看護研究方法論、看護研究特論	
学習時間 授業 90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習60時間 + 事後学習60時間)			
授業の概要 研究の概要について理解を深めた上で、様々な視点から研究テーマを検討し、研究テーマを絞り込む。研究に用いられる概念に基づいた国内外の文献検討を行い、その概念に関する研究について見識を深め、研究方法を検討する。研究計画書の作成を行い、中間発表により得られた意見も参考に研究計画書を修正する。			
授業の目的 老年看護学領域の対象とその家族が置かれている状況や体験について学ぶと共に、国内外の老年看護学領域の対象とその家族の看護及び援助の実態 (DP「専門的知識・理解」に対応) を理解する。その中で、修士論文のテーマを明らかにし、研究テーマに関連する文献検討を行い研究方法を検討し、修士論文の計画書の作成 (DP「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応) する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 関心のある老年看護学における対象の体験や看護の実態について説明できる。 2. 研究テーマに関連する文献検討を行い、修士論文のテーマを決めることができる。 3. 研究テーマに適切な研究方法を説明できる。 4. 計画する研究に必要な倫理的配慮について説明できる。 5. 修士論文の計画書を作成できる。 いずれもDPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応する。			
成績評価の方法 レポート20%、計画書80%で評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回	オリエンテーション 山本		
第2回	研究計画書の作成方法-使用する文献等を決める 山本		
第3回	研究計画書の作成方法-テーマを定める方法を考える 山本		
第4回	研究計画書の作成方法-研究方法を決める方法を考える 山本		
第5回	研究計画書の作成方法-倫理的配慮を考える 山本		
第6回	文献批判による内容の把握-研究の背景 山本		
第7回	文献批判による内容の把握-研究テーマ 山本		
第8回	文献批判による内容の把握-研究方法 山本		
第9回	文献批判による内容の把握-論理の一貫性 山本		
第10回	研究テーマに関する検討-研究成果 山本		
第11回	研究テーマに関する検討-研究成果のまとめ 山本		
第12回	研究テーマに関する検討-論理の一貫性 山本		
第13回	研究テーマに関する検討-研究の意義 山本		
第14回	研究テーマに関連する文献検討-論理的展開 山本		
第15回	研究テーマに関連する文献検討-対象 山本		
第16回	研究テーマに関連する文献検討-研究方法 山本		
第17回	研究テーマに関連する文献検討-倫理的配慮 山本		
第18回	研究計画書の作成 (研究テーマ) 山本		
第19回	研究計画書の作成 (研究の背景・意義) 山本		

- 第20回 研究計画書の作成 (研究の目的) 山本
- 第21回 研究計画書の作成 (研究の方法) 山本
- 第22回 研究計画書の作成 (研究の倫理的配慮) 山本
- 第23回 中間発表 山本
- 第24回 研究計画書の作成 (研究テーマの修正) 山本
- 第25回 研究計画書の作成 (研究の背景・意義の修正) 山本
- 第26回 研究計画書の作成 (研究の目的の修正) 山本
- 第27回 研究計画書の作成 (研究の方法の修正) 山本
- 第28回 研究計画書の作成 (研究の倫理的配慮の修正) 山本
- 第29回 研究計画発表 山本
- 第30回 研究計画書のまとめ・提出 山本

1回～5回テーマに関する文献レビュー (2時間×5回)

6回～9回文献レビューのまとめ (2時間×5回)

10回～17回テーマに関連する文献検討より対象、方法論、倫理的配慮のまとめ (2時間×8回)

18回～22回計画書作成準備 (4時間×5回)

23回中間発表準備 (10時間)

24回～30回計画書作成 (54時間)

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

(準備学習60時間 + 事後学習60時間)

*この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。

教科書・参考書等

教科書 特になし

参考書 看護研究 第2版—原理と方法 (日本語), D.Fポーリット, C.Tベック (著), その他, 医学書院, 10450円

オフィスアワー 火曜日17時から18時30分

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

関心のあるテーマに主体的に取り組んで欲しい。

ナンバリングコード M3NRS-BACM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード： 963003) 地域看護学演習 Community Health Nursing Seminar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子	関連授業科目	看護研究方法論 1, 看護研究方法論 2	
	履修推奨科目	地域看護学特論	
学習時間 授業90分×30回+自学自習(準備学習53時間+事後学習50時間)			
授業の概要 地域を基盤とした公衆衛生看護活動の展開を効果的、効率的に行うために、実践の中から解決すべき事象や疑問、今後の方向性、新しい手法などを見出すことを目指し、自らの研究課題を焦点化していけるように段階的に進めます。 理論と実践を融合しながら、文献学習と合わせて研究課題を明確にし、研究課題解決に向けて効果的な研究方法をディスカッション等により探究していき、こういったプロセスから研究計画書の作成支援を行います。			
授業の目的 1. 公衆衛生看護における健康課題について、文献検討及びクリティークを通じて、研究課題の焦点化を行うことができる。 2. 自らの研究課題を解決するための妥当な研究方法を理解し、研究計画書を作成することができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 先行研究の動向を文献レビューを行い、研究課題を明確にできる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 2. 研究課題を解決するために必要となる研究方法について学び、説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 3. 研究において必要な主要概念となる用語について定義し説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 4. 研究課題の解決に適した研究方法を根拠を示して説明できる (Dpの「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 研究計画書を作成できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 成績評価の方法と基準 レポート80% (主に到達目標 1、3、5に対応)、発表および討議20% (主に到達目標 2、4に対応) 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス 公衆衛生看護学における研究とは 第2回 公衆衛生看護学における研究論文クリティーク①CONSORT, PRISMA声明 第3回 公衆衛生看護学における研究論文クリティーク②文献選択 第4回 公衆衛生看護学における研究論文クリティーク③演習 (発表) 第5回 公衆衛生看護学における研究論文クリティーク④まとめ			

- 第6回 論文作成のためのTips①引用文献の管理 (EndNote)
- 第7回 論文作成のためのTips②要旨の書き方
- 第8回 論文作成のためのTips③一貫性のある論文にするためには
- 第9回 論文作成のためのTips④論文特有の言い回し
- 第10回 リサーチクエスチョンに関連した文献検索
- 第11回 研究課題の明確化
- 第12回 研究方法の検討①；研究デザイン
- 第13回 研究方法の検討②；概念規定，枠組み
- 第14回 研究方法の検討③；研究背景，意義，目的
- 第15回 研究方法の検討④；各自の計画書について発表[演習]
- 第16回 研究計画書発表・検討①
- 第17回 研究計画書発表・検討②
- 第18回 研究計画書発表・検討③
- 第19回 研究計画書発表・検討④
- 第20回 研究計画書の作成および修正①
- 第21回 研究計画書の作成および修正②
- 第22回 研究計画書の作成および修正③
- 第23回 研究計画書の作成および修正④
- 第24回 研究計画書の作成および修正⑤
- 第25回 研究計画書の作成および修正⑥
- 第26回 研究計画書の作成および修正⑦
- 第27回 研究計画書の作成および修正⑧
- 第28回 研究計画書の作成および修正⑨
- 第29回 研究計画書の作成および修正⑩
- 第30回 まとめ

【授業及び学修の方法】

公衆衛生看護学の向上に寄与する研究計画を立案するにあたり，基本となる知識や各自でまとめた資料を発表しながら，ディスカッションを通して理解を深めていきます。この科目はすべての回で対面とします。なお，状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔によるオンライン授業とする可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

- 第2～5回 クリティックの方法についてテキストを読み、レビューできるように準備する。(1時間×4)
クリティックをする研究論文を自ら探しクリティックを行いまとめて発表する。(5時間×4)
- 第6～9回 リサーチクエスチョンに関する文献検索とまとめ (20時間)
- 第10回 文献の収集 (5時間)
- 第11回 リサーチクエスチョンの決定 (5時間)
- 第12～15回 文献検索、プレゼン準備 (10時間×4)
- 第16～19回 研究方法の検討に関する資料検索、準備 (10時間×4)
- 第20～29回 研究計画書作成及び修正 (10時間×4)
- 第30回 最終プレゼン準備 (10時間)

教科書・参考書等

教科書 ・看護における研究 最新版 南裕子・野嶋佐由美編集，日本看護協会出版会

参考書

- ・よくわかる看護研究論文のクリティック Critique 山川みやえ・牧本清子編著，第1版第5刷，日本看護協会出版会，2018
- ・これからの看護研究―基礎と応用― 第3版 小笠原知枝・松木光子編集，ヌーベルヒロカワ，2015

オフィスアワー 火曜日 5時限 (17:30～19:00)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ご自身の研究テーマに関する文献や書物を系統的に探し、批判的吟味（クリティック）を通して論文の書き方を学びましょう。

感染症拡大状況に応じて，オンライン授業とします。適宜，こちらから連絡いたしますが，事前に確認するようにしてください。

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 963005) 地域看護学特論 Community Health Nursing Theories Community Health Nursing Theories	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子	関連授業科目	地域看護学演習	
	履修推奨科目	看護研究方法論1, 看護研究方法論2, 理論看護学, 看護倫理学	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習23時間+事後学習15時間)			
授業の概要 個人や家族・特定集団等によって構成されている地域全体を対象として、地域全体の健康水準の向上を目指す公衆衛生看護活動の専門性について理解を深めます。そのために、基盤となる理論及びモデルを多角的に学修し、新たな公衆衛生看護の視点、技術、展開方法等を探索していきます。授業は、講義とディスカッションにより進めていきます。テーマに関して、各自での主体的な学びを前提に進めていきます。			
授業の目的 あらゆる人を対象とする地域において、健康の社会的決定要因及び健康課題に対応するための資源や法令、制度について理解し、公衆衛生看護活動の専門性を発揮できるよう主要理論を学修し、実践活動への応用を学ぶ。 研究の一連の過程を通して公衆衛生看護管理としての地域を把握し、健康課題を見出し、解決するための思考過程を修練することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会環境の変化と健康課題について説明できる (DP「専門知識・理解」に対応)。 2. 健康課題に対応するための資源や法令、制度について説明できる (DP「専門知識・理解」に対応)。 3. 公衆衛生看護活動を行うための主要理論について説明できる (DP「研究能力・応用力」に対応)。 4. 公衆衛生看護管理の機能について理解し、説明することができる (DP「倫理観・社会的責任」に対応)。			
成績評価の方法 成績評価の方法と基準 プレゼンテーション等40% (主に到達目標1、2に対応)、課題レポート50% (主に到達目標3、4に対応)、文献リスト10% (主に到達目標3に対応) 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス 社会環境の変化と健康課題、健康の社会的決定要因 第2回 公衆衛生看護活動の歴史的変遷と法・制度 第3回 公衆衛生看護の理念と保健師倫理、公衆衛生看護と地域看護の概念整理 第4回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (1) —ヘルスプロモーション、家族システム理論等 第5回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (2) —コミュニティアズパートナーモデル 第6回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (3) —プリシード・プロシードモデル他 第7回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (4) —行動変容、グループダイナミクス他 第8回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (5) —マネジメント、リーダーシップ論			

- 第9回 健康格差社会への対応
- 第10回 地域包括ケアシステム[講義]
- 第11回 地域包括ケアシステム[演習]
- 第12回 ソーシャルキャピタル[講義]
- 第13回 ソーシャルキャピタル[演習]
- 第14回 自らの実践における課題の検討
- 第15回 まとめ

【授業及び学修の方法】

授業は講義を中心に進めるが、受講者の理解を深めるために発表と討議を取り入れる。また、各理論（モデル、概念）の終了時にレポートを課し、授業で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促す。すべての授業は対面とするが、感染症等の状況に応じて遠隔授業を実施する。その際にはメール等にて事前に周知するため確認すること。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

- 第1～2回 興味のある健康課題を1つ選び、その社会的決定要因を関連図としてまとめた上で、これまでの対策について、その歴史を調べレポートする。(5時間×2)
- 第3～8回 説明を受けた理論について、その適用範囲、活用についてレポートにまとめる。(5時間×6)
- 第9回 健康格差を指摘している新聞や雑誌の記事を集め、授業で紹介できるように準備する。1時間
- 第10～11回 厚労省HPの地域包括ケアシステム概念図について、授業で説明できるように準備する。1時間
授業で紹介された事例について、支援体制を計画しレポートする。5時間
- 第12～13回 ソーシャルキャピタルを構成する概念について調べ、授業で紹介できるように準備する。1時間
授業で紹介された事例より、ソーシャルキャピタルを醸成した支援をレポートする。5時間
- 第14回 学修したモデルを用いて自らの実践を分析し、授業で発表できるように準備する。1時間
- 第15回 授業中に示した課題に対するレポートを作成する。5時間

教科書・参考書等

教科書 特に指定しないが、随時、紹介する。

- 参考書
- ・コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際 第2版第6刷,
エリザベスT.アンダーソン, ジュディス・マクファーレン編集
金川克子・早川和生編集, 医学書院 2015
 - ・健康格差対策の進め方 効果をもたらす5つの視点, 近藤尚己, 医学書院, 2016

オフィスアワー 授業終了後1時間程度。研究室は6階618室。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自ら学ぶ姿勢を持ち、ディスカッションを積極的に参加するとともに質問力を磨いていきましょう。
感染症拡大状況に応じて、オンライン授業とします。適宜、連絡をしますが、事前に確認するようにしてください。

ナンバリングコード M3NRS-BCAM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 963103) 在宅看護学演習 Seminar in Home Care Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 1～医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 BCAM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 松本 啓子	関連授業科目	在宅看護学特論、在宅看護学特別研究	
	履修推奨科目	看護研究方法論、看護倫理学	
学習時間 授業90分×30回 + 自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 学生の関心領域に沿って、先行研究の動向を調べ、文献レビューを行うよう指導する。学生が興味を持つ研究課題を明確にし、研究目的の明確化、研究対象の選定、概念モデルの作成、分析方法など研究計画書の概要を作成するよう指導する。			
授業の目的 ① 在宅看護学分野における学生自身の関心領域の論文を読み、適切なキーワードを明らかにする。 ② 在宅看護学分野における学生自身の関心領域の論文をクリティークし、クリティークの方法を理解する。 ③ 文献レビュー、クリティークを行い、研究課題を明確にする。 ④ 研究課題および研究目的を明確にする。 ⑤ 研究目的に沿った研究対象、研究方法を検討し、研究計画を立てる。 ⑥ 本授業で自身の研究計画をプレゼンテーションし、研究計画の修正を行う。 ⑦ 修士論文中間発表会においてプレゼンテーションを行い、批判的意見を収集し、研究計画を修正する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 自己の関心領域について、適切なキーワードを述べるができる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 2. 自己の関心領域に関する先行研究を収集することができる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 3. 先行研究のレビュー、クリティークを行い、文献レビューをまとめることができる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 4. 自己の関心領域の中で、研究課題の位置づけを明確に示すことができる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 5. 自己の関心領域に関する論文の研究目的を明確に示すことができる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 6. 研究目的に応じた適切な研究対象や研究方法を選択できる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。 7. 学生の関心に沿った研究計画書を作成できる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 8. 研究計画を公開発表会でプレゼンし、研究の質を向上するために意見を収集し、研究計画書を修正できる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。			
成績評価の方法 評価は、演習授業におけるプレゼンテーション内容30%、参加状況30%、作成された研究計画書の内容40%により総合的に評価します。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 在宅看護関連の論文クリティーク 第2回 研究プロセスの理解 第3回 論文クリティークの意義と実践 第4回 論文クリティーク演習1：質的研究のクリティーク 第5回 論文クリティーク演習2：量的研究のクリティーク			

- 第6回 文献レビューについて：論文クリティークの内容の文章化
- 第7回 リサーチ・クエスチョンについて
- 第8回 研究テーマの明確化
- 第9回 論文クリティーク演習3：研究テーマ関連の論文
- 第10回 論文クリティーク演習4：より広範囲での関連を探索する
- 第11回 知見の整理
- 第12回 リサーチ・クエスチョンから研究仮説へ
- 第13回 研究課題の抽出
- 第14回 研究目的について
- 第15回 概念モデルについて
- 第16回 概念モデル演習1：作成の手順
- 第17回 概念モデル演習2：実践
- 第18回 研究目的の明確化
- 第19回 研究目的に沿った概念枠組みの明確化
- 第20回 研究デザインの明確化
- 第21回 研究対象の選定とその方法
- 第22回 分析方法の明確化
- 第23回 研究の信頼性と妥当性、信用性、信用可能性について
- 第24回 研究計画書の機能と内容
- 第25回 研究計画書作成演習1：背景と重要性
- 第26回 研究計画書作成演習2：文献レビューの作成、予備研究について
- 第27回 研究計画書作成演習3：倫理的配慮について
- 第28回 研究計画書作成演習4：作成と検討
- 第29回 修士論文中間発表会におけるプレゼンテーションの準備演習
- 第30回 修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション

【授業及び学修の方法】

講義及び院生によるプレゼンテーションと討議で展開する。

【事前学修及び事後学修のためのアドバイス】

第2回～第6回 論文の読み方、クリティークのために自己の課題に沿った論文の検索方法など授業で意見や質問ができるように準備しておく。

第7回～第13回 自己の研究課題の明確化に向けて、論文検索を通して課題に沿った論文を準備する。

第14回～第17回 研究課題に沿った手順について授業で紹介できるように準備しておく。

第18回～第24回 研究の進め方を自分なりに考察しておく。

第25回～第28回 プレゼンテーションに向けての準備しておく。

第29回～第30回 有意義な発表となるように課題における示唆や捉えを考察しておく。

なお、授業は対面を予定していますが、その時の状況により、遠隔授業へと変更になる可能性があります。事前に、大学からのお知らせ等の確認するようにしてください。

教科書・参考書等

教科書、使用しない

参考書

- ・松村 真司著、概念モデルをつくる、NPO法人健康医療評価研究機構
- ・中木 高夫／川崎 修一訳、看護における理論構築の方法、医学書院
- ・山田智恵里監訳、看護の重要コンセプト20：看護分野における概念分析の試み、エルゼビア・ジャパン
- ・石井京子、ナースのための質問紙調査とデータ分析、第2版、医学書院
- ・野口 美和子、監訳、ナースのための質的研究入門 研究方法から論文作成まで、第2版、医学書院
- ・古谷野亘、長田久雄、実証研究の手引き 調査と実験の進め方・まとめ方、ワールドランニング
- ・中山和弘、看護学のための多変量解析入門、医学書院
- ・山川みやえ・牧本清子、よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会
- ・足立はるゑ、看護研究サポートブック、メディカ出版

オフィスアワー 水曜日5時限（看護学科教育研究棟6階松本研究室(619)）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学生の専門領域と在宅看護を関連させて探求すること

ナンバリングコード M2NRS-ACBM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 963105) 在宅看護学特論 Advanced Home Care Nursing Advanced Home Care Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 ACBM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 松本 啓子	関連授業科目	在宅看護学演習、在宅看護学特別研究、精神看護学特論、看護教育学	
	履修推奨科目	看護研究方法論1・2、看護医科学特論	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 在宅看護学に関して、学生の興味に沿った課題で授業を展開する。日本における在宅療養者支援の制度や支援方法を学び、実践の在り方およびその教育について討議する。また、在宅看護学の研究に必要なことを理解するために授業を展開する。課題に関する文献を素材にして話し合い、課題への理解を深める授業を行う。			
授業の目的 在宅療養者および家族の健康を支援するために必要な看護の在り方を考える。在宅看護の特徴、ケアマネジメント、チームアプローチに関する基本的知識を理解し、地域・在宅ケアについて考察する。在宅看護や関連領域の文献を用いた発表や話し合いを通して、在宅特有の支援方法と課題を明確にし、今後の在宅医療と看護の在り方について探究する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 学生の関心領域について、明確に述べるができる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 2. 学生の関心領域に関する文献を検索し、提示できる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 3. 学生の関心領域に関する文献を読み解き、在宅看護の課題として提示できる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 4. 在宅療養者支援の現状と課題について述べるができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。 5. 在宅療養者支援の質向上を目指した教育の現状と課題について述べるができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。			
成績評価の方法 評価は、1. テーマに応じたプレゼンテーション内容30%、2. 討議の参加度と深さ40%、3. 提出レポート30%により総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス、在宅看護の対象 第2回 日本の在宅看護の歴史と変遷 第3回 在宅療養者の特徴 第4回 在宅療養者支援のアセスメント内容 第5回 ケアマネジメント理論 第6回 看護とケアマネジメント 第7回 多職種との連携とチームアプローチ 第8回 チームアプローチの質評価 第9回 在宅療養者支援におけるチームアプローチ研究 第10回 訪問看護の質評価・ケアの質評価と改善方法 第11回 在宅看護の現状と在宅看護の展望 第12回 地域包括ケアの推進と在宅看護 第13回 在宅看護学教育の現状と展望 第14回 在宅看護学研究の動向と展望 第15回 まとめ			
【授業及び学修の方法】			

提示されたテーマから、学生個々の興味に沿ったプレゼンテーションをもとに、ディスカッションを行う。

【事前学修及び事後学修のためのアドバイス】

- 第1回 在宅看護領域における現状の情報を地域を特定して収集する（8時間）。
第2回～第4回 在宅療養者を中心としたケアの実際に関する情報の整理をするために考察する（16時間）。
第5回～第9回 チームアプローチの視点からIPWの実際に関する情報収集をする（16時間）。
第10回 在宅看護の評価に関する課題の考察をする（4時間）。
第11回～第15回 在宅看護に絡む実践と教育、研究との接点について考察する（16時間）。

なお、授業は対面を予定していますが、その時の状況により、遠隔授業へと変更になる可能性があります。事前に、大学からのお知らせ等の確認するようにしてください。

教科書・参考書等

教科書 なし

参考書

- ・公益法人日本看護協会編、最新版看護白書、訪問看護の新たな展開、日本看護協会出版会
- ・在宅ケア学会編、在宅ケア学（全6巻）、ワールドプランニング、2015。
- ・エイミー・Cエドモンドソン、野津智子訳、チームが機能するとはどういうことか、英治出版
- ・石垣和子、上野まり、看護学テキストNICE、在宅看護論、南江堂

オフィスアワー 火曜日6時限、ただし事前にアポを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学生の専門分野及び関心領域と地域・在宅看護を関連させて探求すること

ナンバリングコード M2NRS-abcM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 963201) 精神看護学特論 Advanced Psychiatric Mental Health Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M2NRS	DP・提供部局 abcM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 渡邊 久美	関連授業科目	精神看護学演習	
	履修推奨科目	看護倫理学、理論看護学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 我が国における精神保健福祉の現行制度と現代社会における諸課題を概観し、グローバル化した情報社会の中で生きる人々の精神保健の動向を、ライフサイクルの各期における発達課題と危機の観点から捉えていく。 地域精神保健における1次、2次、3次予防のあり方を代表的な精神疾患を取り上げて専門職との職種間連携・協働による地域包括ケアのシステム全体像、体制について、地域にどのような社会資源があるかを事例に基づきながら理解を深める。 また精神保健看護臨床で用いる諸理論や技法として、対人関係論やセルフケア理論、また認知行動療法的アプローチなどを紹介し、精神健康に障害をもつ人とその家族への支援のあり方について学ぶ。精神科医療における疾病概念や治療法の変遷や、医療と介護・福祉の調整役割を担う看護の役割に着目したITの利活用による家族とのパートナーシップ形成に基づくケアの必要性について学ぶ。これらの学習過程において、精神保健の普遍性と精神看護の専門性について整理していく。			
授業の目的 我が国の精神保健福祉施策は歴史的に様々な課題を抱えながら、少しずつ改善されてきているものの、スティグマや偏見のため精神障害者をとりまく環境は依然として厳しい状況にある。また、少子高齢社会、人口減少社会の中、ストレス社会を背景に精神疾患患者は増加傾向にあることから、精神保健活動の重要性は増している。 精神保健活動は、現代日本社会の経済活動を支える基盤として重要である。精神看護の立場からは、対象理解、自己理解、家族や社会の理解など、人を取り巻く多面的な環境と社会制度を理解していく必要がある。本授業では、精神看護に関連する諸理論として、生活面のアセスメント、援助関係の位相などに着目したモデルを取り上げ、多職種との協働によりケアの質を高め、持続可能な共生社会の実現に貢献していくことのできる精神看護のあり方を検討する。 また、精神看護実践のめざす目的を規定した上で、アプローチ法、ケアモデルの開発に向かう、既存の理論や先行研究、事例検討に基づき、日本人の特性に添ったケアの在り方を探求する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 日本の精神障害者の処遇及び法制度の変遷を理解できる。(DPのA：専門知識・理解に対応) 2. 現代社会における精神保健の現状と課題について説明できる。(DPのA：専門知識・理解に対応) 3. 援助者としての自己を見つめ、哲学と看護・ケアを結び付けて考えることができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 精神科臨床における看護アプローチ法やモデル開発に向けた研究方法を理解できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 5. 特に地域精神保健福祉における当事者の生活や就労支援について、多職種や家族との協働に関する看護の課題を述べるができる。(DPの「専門知識・理解」、「研究能力・応用力」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 各回のプレゼンテーション内容 (30%)、ディスカッション内容 (30%)、レポート (40%) から総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			

本授業は基本的に対面授業とするが、状況に応じて遠隔授業も適宜対応していく。

- 第1回 ガイダンス・健康の定義、精神の健康とは、精神看護の目的
- 第2回 精神保健予防活動についてー1次、2次、3次予防
- 第3回 精神保健福祉の歴史の変遷と法制度（1）精神保健福祉法
- 第4回 精神保健福祉の歴史の変遷と法制度（2）障害者総合支援法、その他
- 第5回 現代のメンタルヘルスに関する諸問題（1）児童思春期の問題（主に摂食障害）
- 第6回 現代のメンタルヘルスに関する諸問題（2）成人・老年期の問題（主に認知症）
- 第7回 精神看護の哲学的基盤（1）-精神看護の役割、専門性について
- 第8回 精神看護の哲学的基盤（2）-無意識、防衛機制と対象理解
- 第9回 精神看護の哲学的基盤（3）-ペプロウ看護論
- 第10回 精神看護の主要理論（1）-セルフケア看護理論（オレム-アンダーウッド）
- 第11回 精神看護学の主要理論（2）-ストレングスマodel、リカバリー
- 第12回 精神看護臨床における当事者へのアプローチ法（1）-認知行動療法
- 第13回 精神看護臨床における当事者へのアプローチ法（2）-オープンダイアログ
- 第14回 精神保健福祉における多職種との協働 -障害者の就労支援を考える
- 第15回 まとめ

【自己学習】

準備3時間、事後学習2時間の5時間、計75時間

- 第1回 様々なこころの健康の定義について調べておく
- 第2回 うつ病とアルコール依存症の1次、2次、3次予防について事前学習する
- 第3回 日本の精神保健福祉領域の近代以降の法律の変遷について事前学習する
- 第4回 障害者総合支援法、児童福祉法による障害者・児の福祉サービスについて概観する
- 第5回 近年の児童・思春期のメンタルヘルスのTOPICSと動向について調べる
- 第6回 近年の成人・老年期のメンタルヘルスのTOPICSと動向について調べる
- 第7回 身近な精神保健システムをとりあげて現状と課題を分析する
- 第8回 防衛スタイルやタイプ論について概観する
- 第9回 対人援助職の「対象-援助者関係」における基盤的理論を概観する
- 第10回 セルフケア看護理論における諸概念を事前学習する
- 第11回 リカバリーの定義、ストレングスマodelのアセスメント方法を事前学習する
- 第12回 一般向けの認知行動療法を活用したアプローチについて調べる
- 第13回 オープンダイアログの実施例、効果に関する先行研究を調べる
- 第14回 香川県における精神障害者の就労支援、ピアサポートの現状を調べる
- 第15回 まとめ

精神看護学領域では、疾患として捉える科学的な視点と、対象と自己との関係性における自己理解に加えて、ケアの対象となる人の誕生からの歴史を捉え、人生の文脈の中で生きる意味をみつめるスピリチュアルな視点など、様々な観点から人間について考えることとなる。

現代社会の中で生きる個人への精神看護を検討するには、家族・組織・地域において成長発達していく存在として、生命論、人生論、宇宙論など幅広い視野で、東洋西洋の比較文化論や歴史の変遷を概観し、文明を支えてきた名著とされる書籍や哲学的な書籍にも触れ、自己の芸術的感性を養い精神看護学の思索を深めていただきたい。

教科書・参考書等

教科書なし

参考書

中井久夫：看護のための精神医学、医学書院

ジェイムス・プロチャスカ著、中村正和監訳：チェンジング・フォー・グッド、法研

南裕子編著：実践オレム-アンダーウッド理論 ころを癒す、講談社

南裕子、稲岡文昭監修：セルフケア概念と看護実践、へるす出版

ミシェル・フーコー著、田村俣訳：狂気の歴史-古典主義時代における一、新潮社

ジョン・G・ワトキンス：治療的自己-治療を効果的に進めるための医療者の心得一、アドスリー

執行草舟：生くる、講談社

執行草舟：根源へ、講談社

その他、授業で適宜紹介する。

オフィスアワー 月曜日午後6時～7時30分

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自らの研究動機を大切にして「問い」をもち続け、精神保健の歴史や文化的背景を踏まえつつ、時代に求められる看護を探求し、現場の課題から研究課題（Research Question）の明確化につなげていきましょう。

ナンバリングコード M3NRS-abcM-40-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 963202) 精神看護学演習 Psychiatric Mental Health Nursing Seminar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 abcM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 渡邊 久美	関連授業科目	精神看護学特論、特別研究	
	履修推奨科目	看護研究特論	
学習時間 授業 90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 精神看護学領域における研究課題について、個々人の動機や関心に基づき、様々な視点で研究テーマを検討し、研究目的を明確化し、目的を達成する方法を検討していく。 具体的には、研究テーマに関する国内外の先行研究を幅広く概観して、これまで得られている知見を整理し、研究に用いる概念や方法論を批判的に文献から検討、収集し、先行研究を参考に、研究デザイン、概念枠組みを規定し、研究方法を構築していく。 最終成果物として、研究計画書の作成を行い、中間発表により得た意見を参考にして、研究計画書を修正する。また、研究の着想から計画段階までのプレゼンテーション力を養成する。			
授業の目的 精神看護の対象となる当事者及びその家族の置かれている状況を理解するにあたり、個人的な経験則や理解から、先行研究や基盤となる哲学などに視野を広げ、当事者への看護に資する疑問を、研究的手法により解明する方法を多角的に検討する。 研究テーマの外縁が描けた段階で、記述研究、探索研究、介入研究などの量的研究や事例研究をはじめとする質的研究から、既に明らかにされている知見や理論を掌握し、修士論文における研究目的(リサーチクエスト)を決定するため、さらに研究テーマに焦点をあてた文献検討を行う中で、新規性のある研究テーマを設定する。 研究実施前に、学位論文として相応しい研究の到達点、限界を踏まえた研究計画を立案できる能力を重視し、研究目的に応じた、質的帰納的研究・量的研究を選択して、対象のサンプリング段階から結果報告まで、倫理的配慮を重視した詳細な研究方法を検討し、研究計画書を作成する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 精神看護の対象となる当事者とその家族が置かれている状況や体験を説明できる。 2. 精神看護の対象となる当事者とその家族への看護について説明できる。 3. 修士論文のテーマ及びリサーチクエストを述べるができる。 4. 研究テーマに関連する文献検討を順序立てて記述し、研究目的へと展開できる。 5. 修士論文の計画書を、先行研究における諸理論を援用して作成できる。 (以上、DPの「研究能力・応用力」、「専門知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応する)			
成績評価の方法 各回の発表内容(20%)、参加状況、課題レポート(一貫性・論理性・発展性)(50%)と修士論文の計画書(30%)を総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 本授業は講義、テーマに基づいた院生のプレゼンテーション、テーマに関するディスカッション、課題レポート提出を通して進めていく。基本的に対面授業とするが、状況に応じて遠隔授業も適宜対応していく。			
第1回 オリエンテーション 第2回 文献クリティーク(日本における現状と課題) 第3回 文献クリティーク(諸外国の現状と課題) 第4回 文献クリティーク(自己の経験に基づく課題の整理) 第5回 文献クリティーク(首尾一貫性の確認、用語の定義の検討) 第6回 文献クリティーク(研究デザインとエビデンスレベル)			

- 第7回 文献クリティーク (サブストラクション)
- 第8回 文献クリティーク (社会的意義の観点から)
- 第9回 研究テーマ検討 (周辺領域との比較)
- 第10回 研究テーマ検討 (Research Questionの検討; 上位目標の確認)
- 第11回 研究テーマ検討 (Research Questionの検討; 研究目的の明確化)
- 第12回 研究テーマに関連する文献検討 (研究方法; 質的研究の種類)
- 第13回 研究テーマに関連する文献検討 (研究方法; 質的研究/M-GTAを中心に)
- 第14回 研究テーマに関連する文献検討 (研究方法; 量的研究/理論的枠組み)
- 第15回 研究テーマに関連する文献検討 (研究方法; 量的研究/研究デザインと統計処理)
- 第16回 研究テーマに関連する文献検討 (研究方法; プログラム評価の理論)
- 第17回 研究テーマに関連する文献検討 (研究方法; プログラム評価の方法)
- 第18回 研究計画書の作成 (研究テーマの検討)
- 第19回 研究計画書の作成 (研究の背景・意義の検討)
- 第20回 研究計画書の作成 (研究の目的の検討)
- 第21回 研究計画書の作成 (研究の方法の検討)
- 第22回 研究計画書の作成 (研究の倫理的配慮の検討)
- 第23回 中間発表
- 第24回 研究計画書の作成 (研究テーマの修正)
- 第25回 研究計画書の作成 (研究の背景・意義の修正)
- 第26回 研究計画書の作成 (研究の目的の修正)
- 第27回 研究計画書の作成 (研究の方法の修正)
- 第28回 研究計画書の作成 (研究の倫理的配慮の修正)
- 第29回 研究計画発表
- 第30回 まとめ

【準備学修に必要な学修時間の目安】

最低限、1-30回まで、前後2時間 計4時間 (120時間) 以上は自習学習にあてる。

精神看護学演習では、研究計画立案の過程において、先行研究を批判的に分析して、研究していくテーマに関して、これまで明らかになっている知見を明らかにし、社会的課題を解決していくために、何をどのように研究的に取り組むことに意義があるかを探求していく。論文は適宜、多読、精読して先行研究を網羅し、追究する研究分野の動向は、国内のみならず国際的動向も鑑み、着手する研究の立ち位置を定めていく。このため、文献を検索し、内容を理解し、データベースを作成するなどの基本的で地道な作業ができる力、これらを要約して問題点を見出すことのできる力、研究者としての発想・着想を言語化する力、他者に伝える発表資料の創意工夫と発信力を養うために必要な時間を、各自、確保すること。

科学的に物事を捉え、論理的に思考し、表現力を高めるため、多くの関連文献のinput、outputをゼミで繰り返して発表していく。教科書は、各回の該当箇所 (研究目的、方法論の検討など) を進めていく上で、「研究テーマを考えるためのチェックリスト等」が提示されているので、参考にされたい。

教科書・参考書等

【教科書】

近藤克則:研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」、医学書院、2018

【参考書】

山川みやえ、牧本清子:研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会、2014

バーンズ&グローブ:看護研究入門ー評価・統合・エビデンスの生成、エルゼビアジャパン、2015

ポーリット、ベック:看護研究ー原理と方法、医学書院、2010

オフィスアワー 月曜日午後6時~7時30分

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

関心のあるテーマの国内外の研究成果に着目し、その背景や周辺領域にも視野を広げていきましょう。また、特に引用する文献や関連性の高い研究の内容について、演習での発表資料や討議では、自身の言葉で他者に説明できるよう、意識していきましょう。

報告書等による実態調査やエビデンスを押さえると同時に、数値化できない事例研究からも看護現象を読み取る力を養いましょう。先人の蓄積してきた研究から学び、精神保健医療福祉領域における様々な価値観の中で、看護研究者として責任を持って取り組んでいくべきテーマは何か、その研究が看護にどう役立つのか、自身の看護職としてのアイデンティティと対話しつつ、自ら学ぶ姿勢で臨んでください。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964001) 助産学特論 I (助産学概論) Midwifery I: Introduction to Midwifery 助産学特論 I (助産学概論)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 野原 留美	関連授業科目	助産学特論 II - V	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学実習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、助産の対象理解と意義、および倫理的対応能力や専門職としての自律について教授する。また、周産期医療の概要や母子保健行政の動向、諸外国における助産師教育や助産師活動について学ぶ。さらに、助産師としての社会的責務と規範について教授する。			
授業の目的 助産の概念として、助産の歴史、法律、母子保健と助産の変遷、助産学教育の動向、諸制度などを学習し、助産師の役割・責務・活動範囲・助産師の能力と活動について理解を深める。さらに周産期を取り巻く倫理的問題についても学び、助産師の現状と今後の課題について考察することができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 助産や助産師の定義を説明できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 助産学の重要な概念、倫理、法律、歴史、文化が説明できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 3. 国内外の助産師教育や活動を説明できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 4. 助産師としての社会的責務と規範が説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応) 5. 我が国のリプロダクティブヘルス・ライツの課題を説明できる。(DPの「専門知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 1. 講義レポート (80%) 2. グループ討議 (20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 助産の概念 (1) 助産の起源・変遷・意義・本質・将来 (川田 紀美子) 第2回 助産の概念 (2) リプロダクティブヘルス/ライツ, ジェンダー, 性差医療 (川田 紀美子) 第3回 助産師の定義と業務・助産学を支える理論と研究 (川田 紀美子) 第4回 助産師と倫理 (川田 紀美子) 第5回 母子保健の動向 (母子保健の歴史・母子保健の動向と諸制度) (川田 紀美子) 第6回 我が国と諸外国の助産師教育 (川田 紀美子) 第7回 周産期の倫理的問題・助産師としての責務と役割 (川田 紀美子) 第8回 助産師の専門性, 課題, これからの展望 (川田 紀美子)			
【授業および学修の方法】 講義および学生によるプレゼンテーションと討議で展開する。			

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

- 第1回～2回 助産に関連する概念について、教科書・参考書を調べ、要点についてまとめる。(2～4時間)
第3回 助産学に関連する研究について文献検索し、複数の論文を紹介する。(2～4時間)
第4回 助産師の役割に関連する倫理的課題について調べて紹介する。(2～4時間)
第5回 日本および諸外国の母子保健の動向について調べて紹介する。(2～4時間)
第6回 日本および諸外国における助産師教育の歴史について調べて紹介する。(2～4時間)
第7回～8回 助産師の専門性と課題について、文献を用いて紹介する。(2～4時間)

教科書・参考書等

教科書

我部山キヨ子他編：助産学講座1 基礎助産学[1] 助産学概論 第6版，医学書院，2023年 4,180円
福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第3版 2023年版 I 基礎編，日本看護協会出版会，2023年 3,080円

参考書

各講義で適宜紹介します。

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格に必要な科目であることから、主体的に取り組む

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964002) 助産学特論Ⅱ (リプロダクティブヘルス と権利) Midwifery Ⅱ: Reproductive Health and Rights 助産学特論Ⅱ (リプロダクティブヘルス と権利)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 野原 留美	関連授業科目 助産学特論Ⅰ, Ⅲ～Ⅴ 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、女性のライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルスの概念と、女性やその家族の発達と家族機能、および女性のライフサイクルにおける発達課題について教授する。また生殖医療における倫理的問題について学び、女性の権利と現代における家族のありかたと健康課題や望ましい支援のあり方について教授する。			
授業の目的 リプロダクティブヘルス・ライツに関する見解を深める。女性のライフサイクルにおける発達課題と、家族の成長と機能を学ぶ。また、生殖補助医療や不育症とセクシャリティ問題を学び、我が国のリプロダクティブヘルス・ライツの問題と課題を考察することができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. リプロダクティブヘルス・ライツの概念を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 2. 各ライフサイクルの心理・社会的課題について説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 3. 母子・父子関係と家族の機能について説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 4. 生殖の現場における倫理的問題を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 5. 我が国のリプロダクティブヘルス・ライツの課題を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (80%) 2. グループ討議 (20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 リプロダクティブヘルス・ライツの概念、歴史、意義 (川田 紀美子) 第2回 思春期・青年期女性の発達と心理・社会的課題 (川田 紀美子) 第3回 成人期・更年期・老年期女性の発達と心理・社会的課題 (川田 紀美子) 第4回 母子関係の発達と課題、父子関係、家族と法 (川田 紀美子) 第5回 家族の機能と役割、家族の変化、現代における家族の再編 (川田 紀美子) 第6回 生殖補助医療・不妊症の社会的・倫理的問題 (川田 紀美子) 第7回 セクシュアリティと性的マイノリティ・ジェンダーにかかわる問題 (川田 紀美子) 第8回 我が国におけるリプロダクティブヘルス・ライツの課題とその支援 (川田 紀美子)			

【授業および学修の方法】

各課題においてプレゼンテーションとグループワークを行う。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

- 第1回 リプロダクティブヘルス・ライツについて、基本的知識と歴史をまとめておく
- 第2回～3回 女性のライフサイクル各期における特徴と課題についてまとめておく
- 第4回 母子関係理論や母親役割取得課程、父子関係の発達についてまとめておく
- 第5回 家族機能と役割の基本概念、および現代社会における家族の役割について、文献等を用いてまとめておく
- 第6回 生殖補助医療の基礎的知識をまとめ、倫理的課題についてまとめる
- 第7回 性の発達とセクシュアリティについて、基本的内容をまとめておく
- 第8回 わが国における施策や法律等から、女性をとりまく問題と課題について考える

教科書・参考書等**教科書**

我部山キヨ子他編：助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 第6版，医学書院，2023年 4,840円
我部山キヨ子他編：助産学講座4 基礎助産学[4] 母子の心理・社会学 第5版，医学書院，2023年 4,180円
木村好秀他著：家族計画指導の実際—少子社会における家族形成への支援— 第2版増補版，医学書院，2017年
3,300円
日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2020，日本産科婦人科学会，2020年 7,000円

参考書

鯨岡峻著：関係発達論の展開—初期「子ども—養育者」関係の発達の変容，ミネルヴァ書房，1999 3,960円
橋本真紀編：よくわかる家族援助論 第2版，ミネルヴァ書房，2009 2,640円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格に必要な科目であることから、主体的に取り組む。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 964003) 助産学特論Ⅲ (周産期学婦人科学) Midwifery Ⅲ: Obstetrics and Gynecological Nursing 助産学特論Ⅲ (周産期学婦人科学)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 塩田 敦子, 金西 賢治, 鶴田 智彦, 田中 宏和, 星野 克明, 川田 紀美子	関連授業科目	助産診断学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 助産学実習Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 本科目では、リプロダクティブヘルスに関連した解剖生理と生理学的変化および免疫、感染症、生殖補助医療、不妊症等について教授する。また妊娠・分娩・産褥期の生理病態を理解し、妊産婦管理の基本を学ぶ。さらに、周産期の産科手術と精神疾患について教授する。			
授業の目的 リプロダクティブヘルスに関連した解剖生理と生理学的変化と免疫、感染症、生殖補助医療、不妊症等を学び、学び、生殖に関連した問題について考える。また妊娠・分娩・産褥期の解剖生理を理解し、妊産婦管理の基本を学ぶ。さらに、周産期の産科手術と精神疾患について学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 女性のライフサイクル各期の主な疾患が説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 2. 妊産婦管理に必要な解剖生理を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 3. 免疫のしくみ、母子と感染について説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 4. 遺伝と生殖補助医療について説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 5. 周産期の精神疾患を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 6. 妊娠期の産科手術、産科的医療処置を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題レポート (50%) 2. 試験 (50%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 女性のライフサイクル各期におこるおもな疾患 (金西 賢治) 第2回 性の行動と機能、生殖のメカニズム、性周期 (塩田 敦子) 第3回 周産期に関連する解剖生理・乳房の生理的变化 (塩田 敦子) 第4回 遺伝のしくみと遺伝性疾患、出生前診断、遺伝カウンセリング (鶴田 智彦) 第5回 月経異常、不妊症・不育症、性分化疾患 (塩田 敦子) 第6回 生殖補助医療の最新治療や技術 (塩田 敦子) 第7回 女性生殖器疾患 (塩田 敦子) 第8回 母子と感染、性感染症			

(塩田 敦子)	
第9回 免疫のしくみ, 周産期の免疫	
(星野 克明)	
第10回 妊娠の生理 妊娠の診断 異常妊娠	
(田中 宏和)	
第11回 分娩の生理 (分娩の定義と種類, 分娩の機序と3要素)	(田中 宏和)
第12回 産褥期の生理と異常	
(田中 宏和)	
第13回 妊娠期の産科手術・産科的医療処置	
(田中 宏和)	
第14回 分娩期の産科手術および産科的医療処置	(田中 宏和)
第15回 周産期の精神疾患	
(塩田 敦子)	

【授業および学習の方法】

授業は講義を中心にすすめる。看護基礎教育で学んだ内容を整理して臨む。また、毎回の授業内容を教科書等で事後学習し、まとめておく。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

- 第1回 女性のライフサイクル各期の特徴的な疾患についてまとめる。(2-4時間)
- 第2回 性周期と生殖メカニズム, 性行動と機能についてまとめる。(2-4時間)
- 第3回 周産期の解剖生理について, 既習内容まとめておく。乳房の生理的変化をまとめる。(2-4時間)
- 第4回 出生前診断の種類と特徴, 遺伝カウンセリングの動向と課題についてまとめる。(2-4時間)
- 第5回~6回 不妊症・不育症の診断と検査, および生殖補助医療, 性分化疾患についてまとめる。(2-4時間)
- 第7回 女性生殖器の疾患についてまとめる。(2-4時間)
- 第8回 母子感染の種類と特徴をまとめる。性感染症の種類と特徴, 最近の動向についてまとめる。(2-4時間)
- 第9回 周産期における免疫のしくみについてまとめる。(2-4時間)
- 第10回~12回 妊娠・分娩・産褥期の生理についてまとめる。分娩の機序についてまとめる。(2-4時間)
- 第13回~14回 妊娠期・分娩期の産科手術・処置の種類についてまとめる。(2-4時間)
- 第15回 周産期における精神疾患の種類と特徴についてまとめる。(2-4時間)

教科書・参考書等

教科書

堀内成子他編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第6版, 医学書院, 2022年, 4180円(税込)
 我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版, 医学書院, 2022年, 5500円(税込)
 我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版, 医学書院, 2022年, 5280円(税込)
 医療情報科学研究所 編集：病気がみえるvol.10 産科 第4版, メディックメディア, 2018年, 3900円+税
 日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2020, 日本産科婦人科学会, 2020年, 6363円+税

参考書

ナーシンググラフィカEX 疾患と看護⑨ 女性生殖器, メディカ出版, 2021年, 2600円+税

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格の関連科目であることから, 主体的な学びを期待する

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 964004) 助産学特論Ⅳ (胎児学・新生児乳幼児学) Midwifery Ⅳ: Neonatal Nursing 助産学特論Ⅳ (胎児学・新生児乳幼児学)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 日下 隆, 三木 崇範, 川田 紀美子	関連授業科目 子保健学実習 履修推奨科目	助産診断学Ⅰ・Ⅲ 助産学実習Ⅰ・Ⅱ 地域母	
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、児と新生児の成長発達と異常、および診断学と治療について教授する。また、胎児と新生児期・乳幼児期の主たる病態について、正常新生児、異常新生児の診断における基礎的知識について教授する			
授業の目的 胎児と新生児の成長発達と、診断について理解することができる。また、胎児と新生児期・乳幼児期の主たる病態について理解し、助産診断時に必要な正常新生児、異常新生児の診断における基礎的知識を身に付けることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 胎児の発達と生理、代表的疾患を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 2. 新生児の発達と生理、代表的疾患を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 3. 新生児の異常兆候を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題レポート (50%) 2. 試験 (50%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 胎児総論, 成長発達 (三木 崇範) 第2回 胎児の循環・肺・中枢神経系の生理と代表的疾患 (三木 崇範) 第3回 胎児の消化器系・泌尿器の生理と代表的疾患 (三木 崇範) 第4回 胎児の代謝・免疫の生理と代表的疾患 (三木 崇範) 第5回 新生児学総論, 発達・発育とその評価 (日下 隆) 第6回 新生児の循環・呼吸, 体温調節・栄養・電解質バランス・血液系の基礎と適応と代表的疾患 (小谷野 耕佑) 第7回 新生児の内分泌系・代謝系・免疫系・中枢神経系・行動と感覚機能・代表的疾患 (小谷野 耕佑) 第8回 新生児の異常兆候 (胎児発育異常・チアノーゼ・多血と蒼白・嘔吐と腹部膨満・けいれん) (小谷野 耕佑)			
【授業および学修の方法】			

授業は講義中心です。看護基礎教育における既習内容について、事前にまとめておく。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

胎児および新生児・乳幼児の成長発達と代表的疾患の特徴等について、準備学習として事前に学習してまとめ講義に臨む。毎回の講義後は、教科書および参考書等で基本的内容と要点をまとめる。(各回 2-4時間)

教科書・参考書等

教科書

我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版, 医学書院, 2022年, 4180円

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版, 医学書院, 2022年, 5500円

石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版, 医学書院, 2022年, 5280円

仁志田博司編：新生児学入門 第5版, 医学書院, 2018年, 6380円

医療情報科学研究所 編集：病気がみえるvol.10 産科 第4版, メディックメディア, 2018年, 3500円

細野茂春監修：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づくNCPR新生児蘇生法テキスト 第4版, メジカルビュー社, 2021年, 4400円

参考書

講義時に適宜紹介する。

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格の関連科目であることから、主体的な学びを期待する。

ナンバリングコード M3NRS-bcaM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964005) 助産学特論Ⅴ (薬理・臨床検査学) Midwifery Ⅴ: Pharmacology and Clinical Laboratory	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 金西 賢治, 田中 宏和, 塩田 敦子, 加藤 育子, 川田 紀美子	関連授業科目	助産学特論Ⅲ・Ⅳ	助産学実習Ⅰ・Ⅱ
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、周産期で使用される薬剤について、効果や影響等の専門的な知識を教授する。また、周産期における臨床検査の内容について教授する。			
授業の目的 本科目は、周産期で使用される薬剤について、妊娠中の母体胎児および産褥期の母子への薬剤の効果と影響等について、専門的な薬剤知識を学ぶ。また、女性のライフステージに合わせた特有のホルモン補充療法や避妊薬の知識と管理について、さらに、周産期における母子の健康管理に必要な臨床検査の内容について学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 周産期で使用される薬剤について、その薬理作用と機序および禁忌等の注意事項が理解できる。 (DPの「知識・理解」に対応) 2. ホルモン補充療法について、薬理作用と機序および禁忌等の注意事項が理解できる。 (DPの「知識・理解」に対応) 3. 避妊薬について、その薬理作用と機序および禁忌等の注意事項が理解できる。 (DPの「知識・理解」に対応) 4. 周産期管理に必要な臨床検査について理解できる (DPの「知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題レポート (50%) 2. 試験 (50%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 医薬品総論 (金西 賢治) 第2回 妊娠・分娩・産褥期における薬剤投与の原則、ホルモン補充療法・避妊薬 (塩田 敦子) 第3回 妊娠中に用いられる薬剤療法 (異常妊娠・合併症妊娠) (金西 賢治) 第4回 分娩期に用いられる薬物療法 (陣痛誘発・促進, 異常出血, 産科麻酔) (田中 宏和) 第5回 新生児期の医薬品・授乳期の医薬品 (加藤 育子) 第6回 精神病薬と周産期女性 (塩田 敦子) 第7回 周産期の検査: 妊娠診断薬・胎児胎盤機能検査・胎児血採取 (田中 宏和) 第8回 周産期の検査: 胎児心拍数モニタリングの判読, 胎児well-beingの評価 (田中 宏和)			
【授業および学修の方法】 授業は講義中心です。看護基礎教育における既習内容について、事前にまとめておく。			

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

周産期ケアに必要な薬物療法および臨床検査について、準備学習として事前に学習してまとめ講義に臨む。毎回の講義後は、教科書および参考書等で基本的な内容と要点をまとめる。(各回2-4時間)

教科書・参考書等

教科書

堀内成子他編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第6版，医学書院，2022年，4180円

我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版，医学書院，2022年，5500円

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版，医学書院，2022年，5280円

医療情報科学研究所 編集：病気がみえるvol.10 産科 第4版，メディックメディア，2018年，3500円

日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2020，日本産科婦人科学会，2020年，6363円

参考書

ナーシンググラフィカEX 疾患と看護⑨ 女性生殖器，メディカ出版，2021年，2600円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格の関連科目であることから、主体的な学びを期待する。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964101) 助産診断学Ⅰ(妊娠期) Midwifery DiagnosticsⅠ: Pregnancy 助産診断学Ⅰ(妊娠期)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 野原 留美	関連授業科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ	助産診断学演習Ⅰ	
	履修推奨科目	助産学特論Ⅲ～Ⅴ, 周産期ハイリスクケア	
学習時間 授業90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 この授業は、妊娠期の病態生理・医学的ケアに関する健康支援の展開に必要な基礎知識と妊娠期の助産診断、助産ケアの展開に必要な理論、診断に伴う最新の技術や妊婦の日常生活適応を高める支援に関する理論と実践方法、パースプランを尊重した分娩につながるケア技術について教授する。			
授業の目的 妊娠期における助産過程の展開を健康の維持増進・セルフケアの支援の視点から理解し、その支援に必要な基礎知識を習得する。また、母子とその家族が妊娠を受容し、アイデンティティの再構築や親役割への移行など、妊娠期から家族の発達を支援する助産ケアについて理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 妊娠の成立と妊娠経過について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 妊娠期の正常な経過を維持するための助産ケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 妊娠期に起こりやすい異常について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. ハイリスク妊婦へのケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 妊娠期に必要な助産診断の考え方が説明でき、紙上事例による助産過程の展開ができる (DPの「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (50%) (到達目標1.2.3.4.5に対応) 2. 課題に対する討議内容と参加度 (50%) (到達目標1.2.3.4.5に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画・内容】 第1回：助産診断の基本的な考え方 第2回：妊娠にともなう母体の変化 第3回：胎児の成長発達 第4回：妊娠期における心理・社会的特徴とケア 第5回：妊婦の健康診査 第6回：妊娠初期の助産診断 第7回：妊娠中期の助産診断 第8回：妊娠末期の助産診断 【授業及び学修の方法】 第1回は教員による講義を中心にすすめる。第2回～第8回は、各授業の前半は学習者が授業内容に関連するテーマごとにプレゼンテーションを行い、資料や事前学修に基づきグループディスカッションを行う。後半は教員の提示			

する資料をもとにディスカッションを行い、各授業内容に関する理解を促す。また授業開始時には前回の授業内容に関する小テストを行って知識の定着をはかる。

【自学自習へのアドバイス】

助産学特論Ⅲ～Ⅴ，周産期ハイリスクケアの妊娠期に該当する箇所を復習して授業の準備をしておくこと（1時間×8回）。プレゼンテーションの担当に当たっていても、毎回の授業前には授業内容にそった予習をしてのぞむこと（1時間×8回）。授業後は資料，教科書，参考書をもとに復習し，次回授業前の小テストに備える（1時間×7回）

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 第6版，医学書院，2023年 4,840円
我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版，医学書院，2023年 5,280円
森恵美編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第4巻 妊娠期の診断とケア，日本看護協会出版会，2023年 3,960円
小林康江編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア，日本看護協会出版会，2023年 5,060円
中川章人著：図説CTGテキスト，メジカルビュー社，2016年 3,850円
日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版，医学書院，2020年 2,970円
日本助産師会編：助産業務ガイドライン2019，日本助産師会出版，2019年 1,650円
日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2020，日本産科婦人科学会，2020年 7,000円
吉沢豊予子他編：新訂第5版 マタニティアセスメントガイド，真興交易，2019年 2,860円
我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円
北川真理子他編：今日の助産 改訂第4版，南山堂，2019年 9,680円

【参考書】

平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2021年 3,520円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

看護学科教育研究棟 2階215研究室（野原），4階416研究室（川田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，助産学実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目です。また助産師国家試験受験資格に必要な科目ですので，主体的に取り組み，確実に知識を定着しましょう。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 964102) 助産診断学Ⅱ(分娩期) Midwifery DiagnosticsⅡ: Delivery 助産診断学Ⅱ(分娩期)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 金西 賢治, 田中 宏和, 花岡 有為子, 川田 紀美子, 野原 留美	関連授業科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ	助産診断学演習Ⅱ	
	履修推奨科目	助産学特論Ⅲ～Ⅴ, 周産期ハイリスクケア	
学習時間 授業90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 本授業は、分娩の生理・医学的ケアに関する健康支援の展開に必要な基礎知識と分娩期の助産診断、助産ケアの展開に必要な理論、診断に伴う最新の技術と健康支援の展開に必要な知識について教授する。			
授業の目的 分娩期の助産ケアを行うにあたり必要な基礎となる知識、正常な分娩進行と異常予測および予防行動について習得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 分娩期の助産診断に必要な知識について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 分娩経過に応じた産婦のケアや家族支援について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 産婦のリスクアセスメントの方法が説明でき、分娩各期に起こる異常の早期発見・診断方法、対処法について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 誘発分娩における助産師の管理と、ハイリスク・異常分娩時の対応について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (50%) (到達目標1.2.3.4.に対応) 2. 課題に対する討議内容と参加度 (50%) (到達目標1.2.3.4.に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回：分娩の3要素 第2回：分娩進行と分娩予測 第3回：分娩期のフィジカルアセスメント 第4回：分娩第1期の助産診断とケア 第5回：分娩第2期の助産診断とケア 第6回：分娩第3-4期の助産診断とケア 第7回：誘発分娩の管理とケア 第8回：ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援 【授業および学習の方法】 各授業の前半は学習者が授業内容に関連するテーマごとにプレゼンテーションを行い、資料や事前学習に基づきグループディスカッションを行う。後半は教員の提示する資料をもとにディスカッションを行い、各授業内容に関する理解を促す。また授業開始時には前回の授業内容に関する小テストを行って知識の定着をはかる。			

【自学自習へのアドバイス】

助産学特論Ⅲ～Ⅴ，周産期ハイリスクケアの分娩期に該当する箇所を復習して授業の準備をしておくこと（1時間×8回）. プレゼンテーションの担当に当たっていても，毎回の授業前には授業内容にそった予習をしておくこと（1時間×8回）. 授業後は資料，教科書，参考書をもとに復習し，次回授業前の小テストに備える（1時間×7回）

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 第5版，医学書院，2023年 4,180円
我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版，医学書院，2023年 3,960円
佐々木くみ子編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第5巻 分娩期の診断とケア，日本看護協会出版会 3,960円
小林康江編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア，日本看護協会出版会，2023年 5,060円
中井章人著：図説CTGテキスト，メジカルビュー社，2016年 3,850円
日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版，医学書院，2020年 2,970円
日本助産師会編：助産業務ガイドライン2019，日本助産師会出版，2019年 1,650円
日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2020，日本産科婦人科学会，2020年 7,000円
吉沢豊予子他編：新訂第5版 マタニティアセスメントガイド，真興交易，2019年 2,860円
我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円
北川真理子他編：今日の助産 改訂第4版，南山堂，2019年 9,680円

【参考書】

平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2021年 3,520円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

看護学科教育研究棟 2階215研究室（野原），4階416研究室（川田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，助産学実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目です。また助産師国家試験受験資格に必要な科目ですので，主体的に取り組み，確実に知識を定着しましょう。

【授業および学修の方法】

授業は講義を中心にすすめる。内容によっては、PBLによる討議・発表で理解を深める。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

看護基礎教育で学んだ既習内容に沿って、褥婦と新生児、早期新生児、乳幼児のケアについてまとめておく。新生児と乳幼児の病態生理と検査についてまとめておく。

教科書・参考書等**【教科書】**

我部山キヨ子他編：助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 第5版，医学書院，2023年 4,180円

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版，医学書院，2023年 3,960円

石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版，医学書院，2023年 3,850円

江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア，日本看護協会出版会，2023年 3,960円

小林康江編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア，日本看護協会出版会，2023年 5,060円

日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版，医学書院，2020年 2,970円

細野茂春監修：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づくNCPR新生児蘇生法テキスト 第4版，メジカルビュー社，2021年 4,400円

木村好秀他著：家族計画指導の実際—少子社会における家族形成への支援— 第2版増補版，医学書院，2017年 3,300円

吉沢豊予子他編：新訂第5版 マタニティアセスメントガイド，真興交易，2019年 2,860円

我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円

北川真理子他編：今日の助産 改訂第4版，南山堂，2019年 9,680円

【参考書】

NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編：母乳育児支援スタンダード 第2版，医学書院，2015年 4,840円

平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2021年 3,520円

仁志田博司編：新生児学入門 第5版，医学書院，2018年 6,380円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

看護学科教育研究棟 4階416研究室（川田），2階215研究室（野原）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格に関連する科目であることから，主体的な学びを期待する。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964104) 周産期ハイリスクケア Perinatal High-Risk Care 周産期ハイリスクケア	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 金西 賢治, 田中 宏和, 花岡 有為子, 日下 隆, 野原 留美, 小谷野 耕佑, 中村 信嗣, 川田 紀美子	関連授業科目	助産学実習 I・II	
	履修推奨科目	助産診断学 I・II・III 助産診断学演習 I・II・III	
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、合併症妊婦およびハイリスク妊産褥婦とハイリスク新生児のアセスメントに必要な知識と援助技術を教授する。また、母体および新生児の救急蘇生や超音波診断について、科学的根拠に基づく高度な実践的知識を教授する。ハイリスク状況にある妊産褥婦と新生児への援助については、医師および看護職を含めた多職種協働により、早期発見・対応等に貢献できる知識と技術を教授する。			
授業の目的 主に分娩時における母子の急変時の対処とケアをの知識を学ぶ。また周産期での超音波診断や会陰切開と会陰縫合の診断と主義を学び、より高度な助産技術の習得を図る。NICU新生児を含むハイリスク新生児の管理とケアを学ぶ。さらに、子どもをなくした親へのケアを学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 母体急変時のアセスメントと対処方法を説明できる (DP「専門知識・理解」「研究能・応用力」に対応) 2. 周産期における超音波検査法の基礎を学ぶ (DP「専門知識・理解」「研究能・応用力」に対応) 3. 会陰切開と会陰縫合の技術を学ぶ (DP「専門知識・理解」「研究能・応用力」に対応) 4. NICU/ハイリスク新生児の管理とケアを学ぶ (DP「専門知識・理解」「研究能・応用力」に対応) 5. ハイリスク・母体急変時のケアを学ぶ (DP「専門知識・理解」「研究能・応用力」に対応)			
成績評価の方法 1. 講義レポート (80%) 2. 演習・グループワークへの取り組み (自己評価、他者評価含む) (20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 周産期の検査：胎児心拍数モニタリングの判読, 胎児well-beingの評価 (田中 宏和) 第2回 新生児の感染・分娩損傷・黄疸 (小谷野耕佑) 第3回 母体急変対応 (1) 子癇・肺塞栓・出血性ショック・弛緩出血、産科救急時の薬物療法 (花岡 有為子) 第4回 母体急変対応 (2) 臍帯脱出・胎児心拍異常 (田中 宏和) 第5回 NICU/ハイリスク新生児 出生直後の管理 (中村信嗣) 第6回 NICU/ハイリスク新生児と親へのケア (西条 順子) 第7回 ペリネイタルロスとケア (神内 深雪) 第8回 会陰切開および会陰縫合の適応と手技 (田中 宏和)			

【授業および学修の方法】

授業は講義を中心にすすめる。第7・8回は、演習も行う。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

第1～4回 既習内容に沿って、母体急変時の対応についてまとめる。(各回2-4時間)

第5・6回 既習内容に沿って、ハイリスク新生児の管理についてまとめる。(各回2-4時間)

第7・8回 会陰の解剖生理と会陰縫合の適応についてまとめる。(各回2-4時間)

教科書・参考書等

教科書

我部山キヨ子他編：助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 第6版, 医学書院, 2023年 4,840円

我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版, 医学書院, 2023年 5,280円

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版, 医学書院, 2023年 3,960円

石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版, 医学書院, 2023年 3,850円

小林康江編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア, 日本看護協会出版会, 2023年 5,060円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格に関連する科目であることから、主体的な学びを期待する。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-LE2 授業科目名 (時間割コード: 964105) 助産診断学演習 I (妊娠期) Midwifery Diagnosis and Skills I: Pregnancy 助産診断学演習 I (妊娠期)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 LE	単位数 2	
担当教員名 川田 紀美子, 野原 留美, 谷上 友理	関連授業科目	助産学実習 I・II	
	履修推奨科目	助産診断学 I	
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本科目では、妊娠期における女性のセルフケア能力を高める援助方法を教授し、保健指導や健康教育を対象の時期や背景を考慮して、集団と個人への指導を組み合わせた効果的な方法で企画・実践できるよう知識と実践力を養う。			
授業の目的 妊婦のセルフケア能力を高めるための助産ケアと健康教育に関する理論を習得し、集団指導・個別指導の指導案の立案と媒体を作成する。演習では状況設定下での妊娠期の集団指導と個別指導を行う。また妊娠期の助産過程を紙上事例にて展開する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 妊娠期の正常な経過を維持するための助産ケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 妊娠期に起こりやすい異常について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. ハイリスク妊婦のケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 妊娠期に必要な助産診断の考え方が説明でき、紙上事例による助産過程の展開ができる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 妊娠各期に必要な保健指導について指導案と媒体を作成し、ロールプレイで保健指導を実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 6. 妊婦健診に必要な助産技術が演習で実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 事前学習課題に応じた資料作成と発表内容 (30%) (到達目標1. 2. 3. 4. に対応) 2. 課題に対する討議内容と参加度 (30%) (到達目標1. 2. 3. 4. に対応) 3. 演習成果物 (40%) (到達目標 5. に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第 1回：妊娠初期の助産ケア① 食生活，嗜好品，性生活 第 2回：妊娠初期の助産ケア② 運動，休息，排泄行動 第 3回：妊娠中期の助産ケア① 体重管理，日常生活動作 第 4回：妊娠中期の助産ケア② 母乳育児準備 第 5回：妊娠末期の助産ケア① マイナートラブル 第 6回：妊娠末期の助産ケア② 出産・育児準備 第 7回：就労女性への支援，社会資源の活用 第 8回：ハイリスク妊婦・異常妊娠の妊婦のアセスメントとケア 第 9回：妊娠期の保健指導① 個人へのアプローチ			

- 第10回：妊娠期の保健指導② 個別指導（実技演習）
第11回：妊娠期の保健指導① 集団へのアプローチ
第12回：妊娠期の保健指導② 集団指導（実技演習）
第13回：妊娠期のフィジカルイグザミネーション（実技演習）
第14回：妊娠期の助産過程① 情報収集，アセスメント，診断（事例演習）
第15回：妊娠期の助産過程② 計画立案，実施・評価（事例演習）

【授業及び学修の方法】

第1～9回，第11回は，各授業の前半は学習者が授業内容に関連するテーマごとにプレゼンテーションを行い，資料や事前学修に基づきグループディスカッションを行う。後半は教員の提示する資料をもとにディスカッションを行い，各授業内容に関する理解を促す。また第7回の授業内容を第8回に，第8回の講義内容を第9回に小テストを行い知識の定着をはかる。

第10回と第12回は事前に企画書と指導案を作成し，ロールプレイを行う。

第13回は事前に妊娠期に必要なフィジカルイグザミネーションについて予習を行い，授業時に実技演習を行う。

第14回と第15回は教員より提示された妊娠期の紙上事例について助産過程を展開しグループで共有して理解を促す。

【自学自習へのアドバイス】

助産学特論Ⅲ～Ⅴ，周産期ハイリスクケアの妊娠期に該当する箇所および助産診断学Ⅰを復習して授業の準備をしておくこと（1時間×15回）。プレゼンテーションの担当に当たっていても，毎回の授業前には授業内容にそった予習をしておくこと（1時間×15回）。授業後は資料，教科書，参考書をもとに復習し知識の定着を図ること（1時間×15回），第10・12回は事前に指導案を立案し，授業でロールプレイを行った後はリフレクションのためのレポートを作成する（8時間），第14・15回は授業で各自紙上事例の助産過程の展開を行い，グループで共有した後，自身に足りなかったことを復習しアセスメントと計画立案を修正する（7時間）

教科書・参考書等

【教科書】

- 堀内成子他編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第6版，医学書院，2023年 5,500円
我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版，医学書院，2023年 5,280円
我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版，医学書院，2023年 3,960円
石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版，医学書院，2023年 3,850円
森恵美編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第4巻 妊娠期の診断とケア，日本看護協会出版会，2023年 3,960円
佐々木くみ子編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第5巻 分娩期の診断とケア，日本看護協会出版会，2023年 3,960円
江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア，日本看護協会出版会，2023年 3,960円
小林康江編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア，日本看護協会出版会，2023年 5,060円
木村好秀他著：家族計画指導の実際—少子社会における家族形成への支援— 第2版増補版，医学書院，2017年 3,300円
日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版，医学書院，2020年 2,970円
我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円
吉沢豊予子他編：新訂第5版 マタニティアセスメントガイド，真興交易，2019年 2,860円
北川真理子他編：今日の助産 改訂第4版，南山堂，2019年 9,680円

【参考書】

- 平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2021年 3,520円
NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編：母乳育児支援スタンダード 第2版，医学書院，2015年 4,840円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

看護学科教育研究棟 2階215研究室（野原），4階416研究室（川田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産学実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目です。主体的に取り組み，確実に知識を定着しましょう。

指導案の立案や各種課題については，第1回目の授業で説明するため，留意事項にしたがって作成してください。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-LE3 授業科目名 (時間割コード: 964106) 助産診断学演習Ⅱ (分娩期・産褥期) Midwifery Diagnosis and Skills II: Delivery 助産診断学演習Ⅱ (分娩期・産褥期)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 LE	単位数 3	
担当教員名 川田 紀美子, 野原 留美, 谷上 友理	関連授業科目	助産学実習Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目	助産診断学Ⅱ	
学習時間 授業90分×23回+自学自習 (準備学習45時間+事後学習45時間)			
授業の概要 本授業は、女性の産む力をひきだす能力や、自然で安全・快適な根拠に基づいたケア、分娩介助技術、分娩の促進ケアや出生直後の新生児の胎外生活への適応促進のためのケアができる能力を養う。 分娩期の事例を用いて、適切な助産診断に基づく助産計画立案および実施までの一連のプロセスを学び、個別性を尊重したケア技術を探求する。正常からの逸脱の判断や異常予測のための臨床判断能力、緊急時に対応できる実践力を養う。 産褥期における母子のセルフケア能力を高めるためのエビデンスに基づく援助技術を教授する。また科学的で効果的な母乳育児支援の習得を目指し、母乳育児についての基本的な知識や支援技術を教授する。			
授業の目的 分娩期・産褥期の助産過程を展開するために必要な理論や知識を統合し、助産過程を展開して具体的な助産ケアの実践に必要な技術を習得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 分娩経過の診断・胎児の健康状態の診断について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 分娩経過と正常からの逸脱はないかアセスメントし、正常経過を維持するための予防的ケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 正常経過の産婦および家族への助産ケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 正常経過の産婦に必要なケアをシミュレーションで安全に実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 正常経過の産婦の分娩介助を模型を使って安全に実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 6. 産褥経過が正常から逸脱していないかをアセスメントし、正常経過を維持するための予防的ケアを説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 7. 母子相互作用や家族の関係性についてアセスメントし、家族形成過程を促す支援について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 8. 母乳育児についてアセスメントし、母乳育児の確立を促す支援を説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 9. 産褥期に必要なフィジカルアセスメントとケアについて、模型を使って安全に実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 10. 産褥期に必要な保健指導について指導案と媒体を作成し、ロールプレイで保健指導を実施できる			
成績評価の方法 1. 筆記試験 (30%) (目標1. 2. 3. 4. 6. 7. 8. 9. に対応) 2. 演習成果物 (30%) (目標1. 2. 3. 4. 6. 7. 8. 9. 10. に対応) 3. 分娩介助技術試験 (40%) (目標 5. に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。			

合格又は了 不合格	到達目標を達成している。 到達目標を達成していない。
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：分娩期のフィジカルイグザミネーション 第2回：胎児の健康状態のアセスメント 第3回：産婦のフィジカルイグザミネーション（実技演習） 第4回：分娩期の助産ケア（実技演習） 第5回：分娩介助の意義と原理 第6回：分娩介助技術 教員デモンストレーション① 分娩室・必要物品の準備（実技演習） 第7回：分娩介助技術 教員デモンストレーション② 清潔野作成～会陰保護（実技演習） 第8回：分娩介助技術 教員デモンストレーション③ 児頭娩出～胎盤娩出（実技演習） 第9回：分娩介助技術 教員デモンストレーション④ 分娩第4期の（実技演習） 第10回：分娩介助技術 演習① 学生A個別指導，他学生は間接介助・新生児係の個別指導（実技演習） 第11回：分娩介助技術 演習② 学生B個別指導，他学生は間接介助・新生児係の個別指導（実技演習） 第12回：分娩介助技術 演習③ 学生C個別指導，他学生は間接介助・新生児係の個別指導（実技演習） 第13回：分娩介助技術 演習④ 学生D個別指導，他学生は間接介助・新生児係の個別指導（実技演習） 第14回：分娩介助技術 演習⑤ 学生E個別指導，他学生は間接介助・新生児係の個別指導（実技演習） 第15回：分娩介助技術 演習⑥ 学生F個別指導，他学生は間接介助・新生児係の個別指導（実技演習） 第16回：分娩介助技術 演習⑦ シミュレーション 急速な分娩進行時（実技演習） 第17回：分娩介助技術 演習⑧ シミュレーション 胎児心拍数低下時（実技演習） 第18回：分娩第1期 演習① シミュレーション 受持ち時の初期診断（実技演習） 第19回：分娩第1期 演習② シミュレーション 破水時等（実技演習） 第20回：退行性変化の診断とケア 第21回：産褥期の保健指導（退院指導，家族計画指導）（実技演習） 第22回：母乳育児支援① 母乳育児の利点，妊娠期からのケア，BFH 第23回：母乳育児支援② ラッチオン，ポジショニング，問題のある事例（講義・実技演習）</p> <p>【授業及び学修の方法】</p> <p>第1～2回は各授業の前半は学習者が授業内容に関連するテーマごとにプレゼンテーションを行い、資料や事前学習に基づきグループディスカッションを行う。後半は教員の提示する資料をもとにディスカッションを行い、各授業内容に関する理解を促す。第1～2回の授業内容は小テストを行って知識の定着をはかる。第5回，第20回と第22～23回は，教員が資料および教科書を使って授業を行う。</p> <p>第21回は事前に保健指導案と媒体を作成し，保健指導のロールプレイを行う。</p> <p>第3～4回，第6～19回は事前に分娩期に必要な助産ケアと分娩介助技術について予習を行い，技術演習にのぞむこと。</p> <p>【自学自習へのアドバイス】</p> <p>助産学特論Ⅲ～Ⅴ，周産期ハイリスクケアの分娩期・産褥期に該当する箇所および助産診断学Ⅱを復習して授業の準備をしておくこと（1時間×23回）。プレゼンテーションの担当に当たっていても，授業前には授業内容にそった予習をしておくこと（1時間×7回）。授業後は資料，教科書，参考書をもとに復習し知識の定着を図ること（1時間×7回）。分娩介助実技演習は分娩介助手順暗記してのぞむこと（4時間×10回）。分娩第1期のシミュレーションは分娩期の助産過程の展開に必要なアセスメントの視点や助産ケアについて予習してくること（5時間×2回）。第21回は事前に保健指導案と媒体を作成して演習にのぞむみ，保健指導のロールプレイ実施後は振り返りのレポートを作成する（3時間）。</p>	
教科書・参考書等	
<p>【教科書】</p> <p>我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版，医学書院，2023年 3,960円 石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版，医学書院，2023年 3,850円 佐々木くみ子編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第5巻 分娩期の診断とケア，日本看護協会出版会，2023年 3,960円 江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア，日本看護協会出版会，2023年 3,960円 小林康江編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア，日本看護協会出版会，2023年 5,060円 中井章人著：図説CTGテキスト，メジカルビュー社，2016年 3,850円 細野茂春監修：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づくNCPR新生児蘇生法テキスト 第4版，メジカルビュー社，2021年 4,400円 日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版，医学書院，2020年 2,970円 日本助産師会編：助産業務ガイドライン2019，日本助産師会出版，2019年 1,650円 日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2020，日本産科婦人科学会，2020年 7,000円 我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円 吉沢豊予子他編：新訂第5版 マタニティアセスメントガイド，真興交易，2019年 2,860円 北川眞理子他編：今日の助産 改訂第4版，南山堂，2019年 9,680円</p>	

【参考書】

平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2021年 3,960円

進純郎他著：分娩介助学，医学書院，2014 5,280円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

看護学科教育研究棟 2階215研究室（野原），4階416研究室（川田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産学実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目です。主体的に取り組み，確実に知識と技術を定着しましょう。

ナンバリングコード M3NRS-bcaM-40-LE1 授業科目名 (時間割コード： 964107) 助産診断学演習Ⅲ (新生児・乳幼児) Midwifery Diagnosis and Skills Ⅲ: Postpartum and Newborn 助産診断学演習Ⅲ (新生児・乳幼児)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 LE	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 谷本 公重, 野原 留 美, 谷上 友理	関連授業科目	助産学実習Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目	助産診断学Ⅲ	
学習時間 授業90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、新生児のケアに必要な助産の知識と技術を教授し、臨床助産実践力の基礎的能力を養う。また、産後の褥婦が新生児のケアをできるように支援し、褥婦に伝えるための保健指導に必要な知識と基本技術を学ぶ。さらに、出生直後の新生児の救急蘇生法の基礎を教授、助産実践能力を高める。			
授業の目的 出生直後の新生児が子宮外生活に適応するための知識と援助方法、技術を学ぶ。また母親の新生児ケア能力向上のための援助方法、保健指導実践のために必要な知識と基本技術を習得する。NCPR専門コース(Aコース)を受講し認定を受ける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 子宮外生活への適応支援について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. モデル人形を使って新生児期に必要な基本的育児技術を実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 新生児・乳児を育てる母親と家族に必要な育児技術について、ロールプレイで保健指導を実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 模型を使って基礎的な新生児蘇生法が実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 事前学習課題に応じた資料作成と発表内容 (30%) (目標1.2.4.に対応) 2. 課題に対する討議内容と参加度 (30%) (目標1.2.4.に対応) 3. 演習成果物 (40%) (目標3.に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回：出生直後の新生児のケア (新生児係) (実技演習) 第2回：新生児蘇生 (NCPR) ① 基礎知識 第3回：新生児蘇生 (NCPR) ② アルゴリズムと蘇生技術 (実技演習) 第4回：出生後24時間以降の新生児のアセスメントとケア 第5回：出生後24時間以内の早期新生児ケア 第6回：退院から4か月目までの新生児・乳児のアセスメントとケア 第7回：育児指導 第8回：新生児期・乳幼児期の主な疾患とケア 【授業及び学修の方法】 第2回、第4～6回、第8回は教員の講義を中止にすすめる。 第1回、第3回は出生直後の新生児のケアおよび新生児蘇生について実技演習を行う。 第7回は事前に指導案と媒体を作成し、保健指導のロールプレイを行う。			

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

助産学特論Ⅲ～Ⅴ，周産期ハイリスクケアの新生児期に該当する箇所および助産診断学Ⅲを復習して授業の準備をしておくこと（1時間×8回）．新生児係と新生児蘇生法の手順は事前に暗記して演習にのぞむこと（4時間×2回）．授業後は資料，教科書，参考書をもとに復習し知識の定着を図ること（1時間×8回），第7回は事前に指導案を立案し，授業でロールプレイを行った後はリフレクションのためのレポートを作成する（6時間）．

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版，医学書院，2023年 3,960円
石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版，医学書院，2023年 3,850円
江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア，日本看護協会出版会，2023年 3,960円
小林康江編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア，日本看護協会出版会，2023年 5,060円
日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版，医学書院，2020年 2,970円
細野茂春監修：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づくNCPR新生児蘇生法テキスト 第4版，メジカルビュー社，2021年 4,400円
木村好秀他著：家族計画指導の実際—少子社会における家族形成への支援— 第2版増補版，医学書院，2017年 3,300円
吉沢豊予子他編：新訂第5版 マタニティアセスメントガイド，真興交易，2019年 2,860円
我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円
北川真理子他編：今日の助産 改訂第4版，南山堂，2019年 9,680円

【参考書】

NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編：母乳育児支援スタンダード 第2版，医学書院，2015年 4,840円
平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2021年 3,520円
仁志田博司編：新生児学入門 第5版，医学書院，2018年 6,380円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

看護学科教育研究棟 2階215研究室（野原），4階416研究室（川田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産学実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目です．主体的に取り組み，確実に知識と技術を定着しましょう．

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-LE2 授業科目名 (時間割コード: 964201) 地域母子保健学特論 Maternal and Child Health in Community 地域母子保健学特論	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 LE	単位数 2	
担当教員名 川田 紀美子, 芳我 ちより, 辻 京 子, 野原 留美	関連授業科目	地域母子保健学実習	
	履修推奨科目	助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 本科目では、母子や家族を取り巻く環境における健康問題や課題への取り組み状況と、地域における助産師の果たす役割と実際について学ぶ。また、地域母子保健行政および国際母子保健活動の実際を学ぶ。			
授業の目的 母子保健政策、社会資源、関係機関およびその連携を理解する。地域社会における助産師の役割と実践について学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 母子保健活動の意義と実際について理解する (DPの「専門知識・理解」に対応) 2. わが国における母子保健行政の仕組みや制度を説明できる。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 国際母子保健の現状と課題について理解する。 (DPの「グローバルマインド」に対応) 4. 災害時の地域母子保健活動の在り方について理解する。 (DPの「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 1. 講義・演習への取り組み(自己評価、他者評価含む)(60%) 2. 講義レポート(20%) 3. 演習レポート(20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 母子保健の現状と動向 (川田 紀美子) 第2回 母子保健行政・地域母子保健活動の意義 (川田 紀美子) 第3回 地域母子保健活動の展開① -新生児訪問指導の理論 (川田 紀美子) 第4回 地域母子保健活動の展開② -新生児訪問指導の実際 (川田 紀美子) 第5回 地域母子保健活動の実際① -助産院での妊娠期ケア (川田 紀美子) 第6回 地域母子保健活動の実際② -エコー検査演習- (川田 紀美子) 第7回 遠隔モバイルCTGを用いた妊婦管理 (原 量宏) 第8回 地域母子保健活動の実際-助産院の妊娠前ケア(現地講義・演習) (川田 紀美子 野原 留美) 第9回 地域母子保健活動の実際-助産院の妊娠初期ケア(現地講義・演習) (川田 紀美子 野原 留美) 第10回 地域母子保健活動の実際-助産院の妊娠中期ケア(現地講義・演習) (川田 紀美子 野原 留美) 第11回 地域母子保健活動の実際-助産院の妊娠末期ケア(現地講義・演習) (川田 紀美子 野原 留美) 第12回 地域母子保健活動の実際-助産院の分娩期ケア(現地講義・演習) (川田 紀美子 野原 留美) 第13回 地域母子保健活動の実際-助産院の産褥期ケア(現地講義・演習) (川田 紀美子 野原 留美) 第14回 地域母子保健活動の実際-助産院の新生児ケア(現地講義・演習) (川田 紀美子 野原 留美)			

第15回 地域母子保健活動の実際ー助産院産後ケア事業，母子を対象とした教室開催（現地講義・演習）

（川田 紀美子 野原 留美）

【授業および学修の方法】

第1・2・7回は講義， 第3～6回は講義と演習， 第8～15回はぽっこ助産院で講義と演習を行う。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

地域における母子保健活動の役割と母子保健施策について，既習内容からまとめておく。助産学実習Ⅰ・Ⅱで学んだ一連の助産ケアについて復習しておく。演習内容が定着するよう自己演習を推奨する。

教科書・参考書等

教科書

我部山キヨ子他編：助産学講座4 基礎助産学[4] 母子の心理・社会学 第5版，医学書院，2023年 4,180円

我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版，医学書院，2023年 5,280円

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版，医学書院，2023年 3,960円

石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版，医学書院，2023年 3,850円

我部山キヨ子他編：助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第5版，医学書院，2023年 3,630円

我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円

日本助産師会編：助産業務ガイドライン2019，日本助産師会出版，2019年 1,650円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格の関連科目であることから，主体的な学びを期待する。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964301) 助産業務管理学特論 Midwifery Management 助産業務管理学特論	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 野原 留美	関連授業科目	助産学実習Ⅲ	
	履修推奨科目	看護管理学	
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、マネジメントの概念と病院や施設における助産管理と助産業務範囲について学び、助産業務管理の基礎的能力と助産所の管理運営について理解する。 また、病院や施設における医療事故や災害等の実際を学び、病院と地域の連携、および多職種協働による支援システムにおける助産師の責務と役割、支援について考察する。			
授業の目的 助産業務管理の基礎的知識と原理・方法について学び、母子の安全と快適な助産ケアを提供するための助産業務管理における課題と課題解決方法について理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 助産業務管理の基礎的知識と原理および方法について学ぶ。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 助産師の法的責任と関係法規を学び、専門職としての役割を理解する。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 産科病棟と外来、および院内助産における管理の実際について学ぶ。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 災害時の助産管理について学ぶ。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 講義レポート (80%) 2. グループ討議 (20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ペリネイタルロスとケア (香川大学医学部附属病院 神内 深雪副師長) 第2回 外来・助産師外来における助産管理 (香川大学医学部附属病院 酒井 佳代師長) 第3回 周産期におけるリスクマネジメント (香川大学医学部附属病院 宮崎 直美師長) 第4回 MFICU管理と地域連携 (香川大学医学部附属病院 佐々塚 恵美副師長) 第5回 周産期に関する各ガイドライン (塩田 敦子) 第6～8回 助産所における助産業務管理 (ぼっこ助産院 真鍋 由紀子理事)			
【授業および学修の方法】 授業は講義とグループワークを中心にすすめる。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 助産業務管理の基本概念についてまとめる。 関係法規の中で助産に関連する内容について調べておく。 事後学習として、助産管理の実際について、産科病棟、外来、助産院による特徴と課題についてまとめる。			

教科書・参考書等

教科書

我部山キヨ子他編：助産学講座10 助産管理 第6版，医学書院，2023年 3,520円

成田伸編：助産師基礎教育テキスト第3巻2023年版 周産期における医療の質と安全，日本看護協会出版会，2023年 3,850円

日本助産師会編：助産業務ガイドライン2019，日本助産師会出版，2019年 1,650円

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第3版 2023年版 I 基礎編，日本看護協会出版会，2023年 3,080円

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第3版 2023年版 II 実践編，日本看護協会出版会，2023年 3,300円

我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円

参考書

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第3版 2023年版 III アドバンス編，日本看護協会出版会，2023年 2,420円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格の関連科目であることから，主体的な学びを期待する。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg1 授業科目名 (時間割コード： 964302) 医療福祉経営論 Medical Welfare and Management 医療福祉経営論	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 芳我 ちより, 谷本 公 重, 辻 京子	関連授業科目	助産学実習Ⅲ 地域母子保健学実習	
	履修推奨科目	助産業務管理学特論 地域母子保健学特論	
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、医療福祉の概念および疾病等をもつ妊産婦や母子・父子家庭、障がい児をもつ妊産婦に必要な医療や保障制度について学ぶ。			
授業の目的 医療福祉の概念とともに、疾病をもつ妊産婦や母子・父子家庭、障がい児をもつ妊産婦を取り巻く日本の現状を把握し、必要な医療や制度について理解を深める。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 医療福祉の概念について理解する。(DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 医療福祉において、妊産婦を取り巻く様々な日本の現状と課題について理解できる。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 医療福祉において、妊産婦を取り巻く様々な制度が説明できる。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 講義レポート (60%) 2. グループ討議 (40%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 疾病をもつ妊産婦、母子・父子家庭、障がい児をもつ妊産婦の現状と課題 (長谷 綾子) 第2回 災害時のメンタルヘルス (野口 修司) 第3回 子どもと家族の心理的アセスメント (橋本 忠行) 第4回 母子保健の現状と動向 (芳我 ちより) 第5回 社会福祉・医療福祉の理念と現状 (虐待) (芳我 ちより) 第6回 母子保健行政-地域母子保健活動の意義 (芳我 ちより) 第7回 医療政策行政経営 -医療計画, 政策形成- (芳我 ちより) 第8回 高松市における保健医療福祉行政の現状と取り組み (高松市保健センター 難波 木綿子母子保健係長)			
【授業および学修の方法】 授業は講義を中心にすすめていく。内容に応じて、PBLによる討議・発表で理解を深める。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 事前学習として、日本における医療福祉と医療経済のしくみについてまとめる 事後学習として、文献や新聞記事等を用いて、現代の医療福祉経営における課題と取組に状況について、助産師の役割も含めてまとめる。			

教科書・参考書等

教科書

我部山キヨ子・毛利多恵子：助産学講座10 助産管理 第5版，医学書院，2016年.

参考書

講義時に適宜紹介する.

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格の関連科目であることから，主体的な学びを期待する.

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Px1 授業科目名 (時間割コード: 964401) 助産学実習 I Midwifery Clinical Practicum I 助産学実習 I	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Px	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 野原 留美, 谷上 友理	関連授業科目	助産学実習 II	
	履修推奨科目	助産学特論 I～V, 周産期ハイリスクケア 助産診断学 I・II・III, 助産診断学演習 I・II・III	
学習時間 実習45時間×1週+自学自習 (準備学習7.5時間+事後学習7.5時間)			
授業の概要 本科目では、周産期にある母子とその家族を対象に、エビデンスに基づく知識を応用し、助産過程の展開を通して助産ケアや個別指導を実践するための基礎的能力を養います。 具体的には、分娩第1期からの産婦のケア1例の見学を通して、助産診断にもとづく正常からの逸脱の判断、逸脱予防のケアを指導助産師とともに実施し、分娩期における助産ケアの基礎的能力を養います。また、妊婦健診および助産師外来の見学を通して、妊娠期における助産師の役割と妊娠期の助産ケアを実践するための基礎的能力を養います。さらに出産準備教育、産後の各種集団保健指導の見学をとおして、保健指導の実際について学びます。			
授業の目的 既習の知識および技術を実践場面で統合します。 安全で安楽な分娩介助が実践できるよう、基礎的能力を身につけます。また妊娠期から産褥期、産後1か月までの健康診査と保健指導を実施するための基礎的能力を身につけます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 指導のもと、分娩期の助産診断にもとづいた助産計画を立案し、指導者とともに助産ケアを実施することができる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 2. 妊婦健診に必要な助産技術が実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 3. 妊娠期の助産診断にもとづき、正常からの逸脱の判断と、正常性の維持に必要な助産ケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4. 産科外来と助産師外来での助産師の役割について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 5. 妊娠期に必要な個別指導と集団保健指導の運営について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 6. 産後2週間健診および1か月健診での助産診断と助産ケアおよび必要な保健指導について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 7. チームの一員として責任ある行動がとれる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 8. リフレクションを通して、実習における自己の課題を明確にし、課題の達成に取り組むことができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 実習への取組み (自己評価、他者評価含む) (80%) (到達目標1～8に対応) 2. 実習記録・レポート (20%) (到達目標1～8に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			

【授業計画】

1. オリエンテーション 実習方法, 学習計画, 注意事項等
2. 具体的実習内容
 - 1) 分娩見学
分娩介助のみ見学とし, 指導助産師とともに分娩第1期から分娩第4期までの助産ケアを行う。
 - 2) 妊婦健康診査
妊婦1例を受け持ち, 受付から外来終了までの診察の流れとケアを見学する。
ローリスク・ハイリスク妊婦の健康診査を指導者とともに実施する。
 - 3) 助産師外来
助産師外来における妊婦健康診査を実習指導者と共に実施する。
 - 4) 保健指導
両親学級の運営を見学する。
産後の集団指導(育児指導・産褥指導)および個別指導を見学する。
 - 5) 産後の健康診査
2週間健診および1か月健診を見学する。
3. カンファレンス
グループカンファレンスを実施して学びを共有し, 自己の目標到達度と課題を明確にする。

【授業および学修の方法】

隣接する医学部附属病院の周産期学女性診療科病棟・外来, および助産師外来等で実習する。

【自学自習へのアドバイス】

実習前には, 分娩期・妊娠期・産褥期・新生児期の助産過程を展開するにあたり必要な知識をまとめておくこと(1時間)。妊娠中に必要な保健指導について復習しておくこと(1時間)。産後に必要な保健指導について復習しておくこと(1時間)。妊娠中に必要な助産技術について練習しておくこと(1時間)。助産外来, 2週間健診の見学では, 事前に対象者の情報収集を行い, アセスメントと診断に基づき必要な保健指導について考える(3.5時間)。

実習後は, 毎日規定の実習記録用紙を記載し, 不足していた知識と技術があるときは主体的に必要な学修と技術練習を行う(7.5時間)。

教科書・参考書等

【教科書】

*すべて助産学特論Ⅰ～Ⅴ, 周産期ハイリスクケア, 助産診断学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用した教科書です。

- 日本助産診断実践学会編: マタニティ診断ガイドブック 第6版, 医学書院, 2020年 2,970円
我部山キヨ子他編: 助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 第6版, 医学書院, 2023年 4,840円
我部山キヨ子他編: 助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 第5版, 医学書院, 2023年 4,180円
堀内成子他編: 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第6版, 医学書院, 2023年 5,500円
我部山キヨ子他編: 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版, 医学書院, 2023年 5,280円
我部山キヨ子他編: 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版, 医学書院, 2023年 3,960円
石井邦子他編: 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版, 医学書院, 2023年 3,850円
森恵美編: 助産師基礎教育テキスト2023年版 第4巻 妊娠期の診断とケア, 日本看護協会出版会, 2023年 3,960円
江藤宏美編: 助産師基礎教育テキスト2023年版 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア, 日本看護協会出版会, 2023年 3,960円
小林康江編: 助産師基礎教育テキスト2023年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア, 日本看護協会出版会, 2023年 5,060円
木村好秀他著: 家族計画指導の実際—少子社会における家族形成への支援— 第2版増補版, 医学書院, 2017年 3,300円
日本助産師会編: 助産業務ガイドライン2019, 日本助産師会出版, 2019年 1,650円
日本産科婦人科学会編: 産婦人科診療ガイドライン産科編2020, 日本産科婦人科学会, 2020年 7,000円
吉沢豊予子他編: 新訂第5版 マタニティアセスメントガイド, 真興交易, 2019年 2,860円
我部山キヨ子他編: 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版, 医学書院, 2018年 3,960円
北川真理子他編: 今日の助産 改訂第4版, 南山堂, 2019年 9,680円

【参考書】

- NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編: 母乳育児支援スタンダード 第2版, 医学書院, 2015年 4,840円
平澤美恵子他監修: 新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス, インターメディカ, 2021年 3,520円
仁志田博司編: 新生児学入門 第5版, 医学書院, 2018年 6,380円

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00

看護学科教育研究棟 2階215号室(野原) 4階416号室(川田)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習の詳細については、実習オリエンテーション時に配布される実習要項と実習の手引きを参照すること。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Px8 授業科目名 (時間割コード： 964402) 助産学実習Ⅱ Midwifery Clinical Practicum Ⅱ 助産学実習Ⅱ	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Px	単位数 8	
担当教員名 川田 紀美子, 野原 留美, 谷上 友理	関連授業科目	助産学実習Ⅰ	
	履修推奨科目	助産学特論Ⅰ～Ⅴ, 周産期ハイリスクケア 助産診断学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 助産学実習Ⅰ	
学習時間 実習45時間×8週+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本科目は、助産過程の展開を通して、周産期にある母子とその家族を対象に助産ケアや健康教育を実践する能力を養います。また、分娩介助10例以上の実施や新生児係の実施、帝王切開の見学、産褥期の母子の受け持ちを通して、分娩期・産褥期・新生児期の助産ケア能力を高めます。助産院では妊娠から産褥期までの継続事例実習を行い、継続した助産ケアの視点と助産師としての広い視野を養います。実習終盤には、実習で得た知識と経験を踏まえて「よいお産」について考察してもらいます。			
授業の目的 助産学実習Ⅰでの学びをふまえ、既習の理論および技術を実践場面で統合し、さらなるマタニティケア能力の育成を目指します。具体的には、妊婦・産婦・褥婦および新生児へ個別性と優先順位を考慮した助産過程を展開します。また、主体的に実習を遂行していく姿勢を養い、助産師としてのアイデンティティを学生自身の中で構築していきます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩経過に応じた助産診断と助産計画を立案し、適切な方法で助産ケアを実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 2. 安全で、産婦とその家族にとって肯定的な出産体験となるような分娩介助ができる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 新生児係の実施において、出生直後の新生児の胎外生活適応を促すケアが実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4. 帝王切開見学を通して、産婦への助産ケアと新生児係としての助産師の役割について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 5. 産褥期の助産診断にもとづき、褥婦に必要な助産ケアと保健指導を実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 6. 母乳育児支援における基礎的な助産ケアが実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 7. 新生児期の助産診断にもとづき、新生児に必要な観察とケアを実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 7. ローリスクの妊婦を産後4か月まで継続して受持ち、個別性のある助産過程の展開ができる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 8. 妊産褥婦やその家族との間に医療者として適切な関係性を築くことができる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 9. 自己の助産観を構築でき、助産観に基づいたケアの実施ができる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 			
成績評価の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習への取組み(自己評価、他者評価含む)(80%) (目標1.～9.に対応) 2. 実習記録・レポート(20%) (目標1.～9.に対応) 			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

1. オリエンテーション 実習方法, 学習計画, 注意事項等

2. 実習内容

A: 病棟実習

1) 分娩介助

産婦の分娩介助を行う。実習指導者の指導のもと、直接介助と間接介助・新生児係に分かれて実施する。分娩の直接介助は10例程度とする。

2) 産褥母子の受け持ち

母子を退院まで受け持ち、産褥・新生児期のケア計画の立案・展開・評価を実施する。受持ち褥婦に必要な保健指導を実施する。

3) 帝王切開

実習指導者と共に術当日のケアを実施する。児受け係の実習指導者に付き添い、新生児ケアを見学する。

4) カンファレンス

B: 助産所実習

1) 継続事例実習

妊婦中期より受け持ち、妊婦健康診査と保健指導を実習指導者と共に実施する。分娩時は直接・間接介助を行い、退院まで受け持ち、個別性に合わせた助産過程の展開を行う。退院後は、家庭訪問、2週間健診、1か月健診の実施、4か月頃におよこひろばに付き添い、家庭生活への移行の

アセスメントと個別指導を行う。

2) 保健指導

継続事例の助産診断をもとに指導案を立案し、実施する。

3) 助産所での助産師活動

助産所の様々な助産活動に参画し、地域での助産師の役割を理解する。

4) カンファレンス

【授業および学修の方法】

香川大学医学部附属病院, 四国こどもとおとなの医療センター, ぽっこ助産院で実習を行う。

分娩介助実習は夜間帯も行う。また実習時間内に10例の分娩介助を行えなかった場合は、延長実習を行う。

【自学自習へのアドバイス】

実習前には、分娩期・妊娠期・産褥期・新生児期の助産過程を展開するにあたり必要な知識をまとめておくこと (2時間)。妊娠期に必要な保健指導について復習しておくこと (2時間)。産後に必要な保健指導について復習しておくこと (2時間)。妊娠期・産褥期に必要な助産技術について練習しておくこと (4時間)。分娩介助技術については手順書は暗記し繰り返し練習しておくこと (5時間)、新生児係の手順書は暗記し繰り返し練習しておくこと (5時間)、毎回の継続事例の妊婦健診前には必要な保健指導を考え指導案と媒体を作成し実習指導者の助言をうけて実習にのぞむこと (10時間)。

実習後は、毎日規定の実習記録用紙を記載し、不足していた知識と技術があるときは主体的に必要な学修と技術練習を行う (25時間)。分娩介助1例実施ごとに分娩介助評価表を用いて指導者と教員とで振り返りを行う。自己の課題を明確にし、次回の分娩介助に向けての学修と分娩介助技術の練習を行うこと (5時間)。

教科書・参考書等

【教科書】

*助産学特論Ⅰ～Ⅴ, 周産期ハイリスクケア, 助産診断学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 助産学実習Ⅰで使用した教科書と同じです。

日本助産診断実践学会編: マタニティ診断ガイドブック 第6版, 医学書院, 2020年 2,970円

我部山キヨ子他編: 助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 第6版, 医学書院, 2023年 4,840円

我部山キヨ子他編: 助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 第5版, 医学書院, 2023年 4,180円

堀内成子他編: 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第6版, 医学書院, 2023年 5,500円

我部山キヨ子他編: 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版, 医学書院, 2023年 5,280円

我部山キヨ子他編: 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版, 医学書院, 2023年 3,960円

石井邦子他編: 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版, 医学書院, 2023年 3,850円

森恵美編: 助産師基礎教育テキスト2023年版 第4巻 妊娠期の診断とケア, 日本看護協会出版会, 2023年 3,960円

佐々木くみ子編: 助産師基礎教育テキスト2023年版 第5巻 分娩期の診断とケア, 日本看護協会出版会 3,960円

江藤宏美編: 助産師基礎教育テキスト2023年版 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア, 日本看護協会出版会, 2023年 3,960円

小林康江編: 助産師基礎教育テキスト2023年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア, 日本看護協会出版会, 2023年 5,060円

中井章人著: 図説CTGテキスト, メジカルビュー社, 2016年 3,850円

細野茂春監修: 日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づくNCPR新生児蘇生法テキスト 第4版, メジカルビュー社, 2021年 4,400円

木村好秀他著：家族計画指導の実際—少子社会における家族形成への支援— 第2版増補版，医学書院，2017年
3,300円
日本助産師会編：助産業務ガイドライン2019，日本助産師会出版，2019年 1,650円
日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2020，日本産科婦人科学会，2020年 7,000円
吉沢豊予子他編：新訂第5版 マタニティアセスメントガイド，真興交易，2019年 2,860円
我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円
北川眞理子他編：今日の助産 改訂第4版，南山堂，2019年 9,680円

【参考書】

NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編：母乳育児支援スタンダード 第2版，医学書院，2015年
4,840円
平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2021年 3,520円
仁志田博司編：新生児学入門 第5版，医学書院，2018年 6,380円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00
看護学科教育研究棟 2階215号室（野原） 4階416号室（川田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習の詳細については，実習オリエンテーション時に配布される実習要項と実習の手引きを参照すること。

指導者や教員が危険と判断した行為があれば分娩介助を中止する。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Px1 授業科目名 (時間割コード： 964403) 助産学実習Ⅲ (助産管理) Midwifery Clinical Practicum Ⅲ 助産学実習Ⅲ (助産管理)	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Px	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 野原 留美, 谷上 友理	関連授業科目	助産業務管理学特論, 医療福祉経営論	
	履修推奨科目	助産学実習Ⅰ～Ⅱ	
学習時間 実習45時間×1週+自学自習(準備学習7.5時間+事後学習7.5時間)			
授業の概要 本科目では, 病院および施設における助産管理の実際を学びます。また, 施設の安全管理や地域との連携, 施設の特徴に合わせた人材確保や経営の在り方, 多職種連携について学びます。総合的視点から, 安全な分娩環境を提供するための, 助産師の役割を学びます。			
授業の目的 病産院と助産所における助産業務管理の実際を理解し, 助産師の役割と責務を考察します。さらに病産院における安全管理対策や多職種連携, 地域との連携についても学び, 助産師の職域と責務について考察します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 病院・助産所における助産業務や助産管理の実際を学び, 医療や母子保健サービスの中の助産師の責務や役割について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 周産期における安全管理について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 周産期における地域連携について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 周産期における多職種連携について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 実習への取り組み(自己評価, 他者評価含む)(80%) (到達目標1.～4.に対応) 2. 実習記録・レポート(20%) (到達目標1.～4.に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1. オリエンテーション 実習方法, 学習計画, 注意事項等 2. 実習内容 1) 病産院における助産管理 産科病棟の管理, 医療事故とリスクマネジメントについて自主的に学ぶ。 2) 助産院における助産管理と施設管理 助産院の管理と運営, 助産所の経営, 助産所に関する法律について自主的に学ぶ。 3) 病産院の安全管理 医療事故マネジメントについて自主的に学ぶ。 4) 病産院における地域連携・多職種連携 MFICUの見学および妊婦の受持ち実習により, NICU等他部署との連携や総合周産期母子医療センターの役割について学ぶ。 周産期カンファレンスに参加し, 周産期における地域連携と多職種連携について自主的に学ぶ。			
【自学自習へのアドバイス】 実習前には病産院および助産所の特徴と安全管理, 周産期における多職種連携, 地域連携の在り方についてまと			

めておく (7.5時間).

事後学習は実習記録を記載し、実習の手引きに記載のテーマでレポートをまとめる (7.5時間).

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座10 助産管理 第6版，医学書院，2023年 3,520円

成田伸編：助産師基礎教育テキスト第3巻2023年版 周産期における医療の質と安全，日本看護協会出版会，2023年 3,850円

日本助産師会編：助産業務ガイドライン2019，日本助産師会出版，2019年 1,650円

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第3版 2023年版 I 基礎編，日本看護協会出版会，2023年 3,080円

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第3版 2023年版 II 実践編，日本看護協会出版会，2023年 3,300円

【参考書】

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第3版 2023年版 III アドバンス編，日本看護協会出版会，2023年 2,420円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00 看護学科教育研究棟 4階416号室 (川田) 2階215号室 (野原)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習の詳細については、実習オリエンテーション時に配布される実習要項と実習の手引きを参照すること。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Px1 授業科目名 (時間割コード： 964404) 地域母子保健学実習 Maternal and Child Health Practicum 地域母子保健学実習	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M3NRS	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Px	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 野原 留美, 谷上 友理	関連授業科目 医療福祉経営論	地域母子保健学特論	助産業務管理学特論
	履修推奨科目	助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	
学習時間 実習45時間×1週＋自学自習 (準備学習7.5時間＋事後学習7.5時間)			
授業の概要 本科目は、地域における母子保健行政と母子と家族を取り巻く健康問題への取り組みの実際について、母子の地域包括ケアの視点から総合的にとらえ、地域における助産師の役割と多職種連携について学びます。			
授業の目的 高松市内の保健センターで行われている母子保健事業に参加し、各事業の目的や法的根拠について学びます。また、個人や集団に対する健康相談・保健指導などに参加・見学し、指導技術を学びます。保健師業務の実際や保健センターの機能と役割について理解し、助産師が行う地域連携について考察します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 母子保健制度や母子保健施策について理解し、母子保健の現状と課題、今後の展望について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 多様なニーズに対応した母子保健活動の実際から、子育て世代への包括的支援と保健・医療・福祉の連携・協働について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 乳幼児の発達特性に応じた健康診査の意義と内容を説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 個別指導、集団指導、健康相談における、アセスメントの視点と保健指導の技術について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 実習への取り組み (自己評価、他者評価含む) (80%) (到達目標1.～4.に対応) 2. 実習記録・レポート (20%) (到達目標1.～4.に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 1. オリエンテーション 実習方法、学習計画、注意事項等 2. 具体的実習内容 1) 各種実施されている母子保健事業について、積極的に参加する。 妊娠期：妊娠届・母子健康手帳交付、妊婦訪問指導、パパママ教室、多胎児教室 出産後：こんにちは赤ちゃん事業、未熟児訪問指導、産後ケア事業 0-1歳児：4か月児相談・乳児相談・離乳食教室・多胎児教室 1歳以後：1歳6か月児健康診査・乳児歯科健康診査、3歳児健康診査 幼児の専門的な相談：ことばの遅れ・精神面の発達・保護者の不安 親子の健康相談 2) 母子保健事業以外の事業に積極的に参加する。 乳幼児の予防接種事業・乳がんの集団検診事業、等 3) 保健師の業務と保健センターの役割と機能、および地域連携と地域包括ケアシステムについて学ぶ 3. カンファレンス			

実習終了前にグループカンファレンスを実施して学びを共有し、到達度の確認、自己の課題を明確にする。

【授業および学修の方法】

高松市保健センターにおいて実習し、母子保健事業および集団指導・個別指導への主体的な参加ですすめる。

【自学自習へのアドバイス】

実習開始前に、高松市の妊娠・出産・子育てに関する事業について調べ、冊子にしてまとめる（7.5時間）

日々の実習後は、実習記録を記載し、不足する知識がある場合は学修する（3時間）。実習終了時には「実習の手引き」に記載されたテーマでレポートをまとめる（4.5時間）。

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第5版，医学書院，2023年 3,630円

我部山キヨ子他編：助産学講座10 助産管理 第6版，医学書院，2023年 3,520円

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00 看護学科教育研究棟 2階215号室（野原） 4階416号室（川田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習の詳細については、実習オリエンテーション時に配布される実習要項と実習の手引きを参照すること。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 965001) 特別研究 Master's Thesis	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野 M4NRS	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 10	
担当教員名 谷本 公重, 塩田 敦子, 藤井 豊, 前川 泰子, 市原 多香子, 清水 裕子, 山本 美輪, 渡邊 久美, 芳我 ちより, 松本 啓子, 川田 紀美子, 西村 亜希子, 野原 留美, 加藤 育子	関連授業科目	各領域特論・演習	
	履修推奨科目 理学	看護研究方法論1、看護研究方法論2、看護倫理学	
学習時間 授業90分×75回 + 自学自習 (準備学習150時間+事後学習150時間)			
授業の概要 この授業では、指導教員と副指導教員1名以上の指導の下に「看護学」に関する研究活動を実施し、その成果をまとめるための科目でありゼミ形式で運営します。1年次から研究計画の立案を開始し、2年次では研究を実施・分析・研究をまとめることを目安に指導します。 修士課程に相応しい研究成果物を作成するために、各自の研究テーマに関する倫理的課題を考慮した上で、研究を企画・実施する方法、文献検討、分析方法、論文作成方法のための基礎的知識を提供し、討論を行います。			
授業の目的 看護学の発展に寄与できる研究課題を明確化したうえで、研究計画書を洗練させて、研究活動を展開する必要があります。 受講生は、研究課題を実装可能なものへと進化させ、研究計画書を精練し、研究活動を展開し、一定の結論を導くプロセスを辿ることによって、研究に関する専門知識に加えて、研究能力の基礎を身につけます。 具体的には、国内外の知見を総覧し、倫理的課題を考慮したうえで研究課題を明確にすること、さらに研究目的を追求するための判断力・実践力やデータ分析に関わる質的・量的技法を修得します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 研究テーマや研究目的を決定し、自己の研究計画について説明することができる。(1. 研究テーマや研究目的を決定し、自己の研究計画について説明することができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 2. 文献検討後、レビューとして記述することができる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 3. データの収集方法、分析方法の妥当性について説明することができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)。 4. 倫理的配慮について記述することができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。 5. 科学的論文のあり方を説明することができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 6. 自己の研究課題をまとめ、発表することができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 研究過程での学習内容 (50% : 主に到達目標2から5) および発表内容 (50% : 主に到達目標1と6) で評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 看護研究について以下のことを教授する。 第1回 研究計画の再検討：一貫性の検討 第2回 研究計画の再検討：研究方法の再検討 第3回 研究計画の再検討：倫理的課題の再検討 第4回 研究計画の再検討：追加文献レビュー 第5回 データ収集：対象者へのアプローチ 第6回 データ収集：インフォームドコンセント・アセント 第7回 データ収集：自己の研究方法に応じて初回データ収集 第8回 データ収集：引き続き、初回データ収集を行う			

- 第9回 初回データの入力
- 第10回 初回データの入力内容のチェック
- 第11回 初回データの修正
- 第12回 初回データの検討
- 第13回 初回データに基づき、データ収集方法の検討
- 第14回 リサーチミーティング：データ収集方法の提示
- 第15回 リサーチミーティング：データ収集の修正
- 第16回 データ収集：見直したデータ収集方法による
- 第17回 データ収集：適宜指導を受けながらデータ収集を行う
- 第18回 データ収集：データの入力を行いながらデータ収集を行う
- 第19回 データ収集：データの整理を行いながらデータ収集を行う
- 第20回 データ整理：自己の研究方法に応じてデータの整理を行う
- 第21回 データ整理：客観的資料となるようデータを整理する
- 第22回 データ整理：入力内容の確認
- 第23回 データ整理：入力内容に関して、指導を受ける
- 第24回 リサーチミーティング：基本データの確認
- 第25回 リサーチミーティング：データ整理方法の修正
- 第26回 データ分析：自己の研究方法に応じてデータ分析
- 第27回 データ分析：分析のプロセスを残す
- 第28回 データ分析：データの質の評価－信頼性
- 第29回 データ分析：データの質の評価－妥当性
- 第30回 データ分析：データの質の評価－信用性
- 第31回 データ分析：データの質の評価－明解性
- 第32回 データ分析：データの質の評価－確認可能性
- 第33回 データ分析：データの質の評価－転用可能性
- 第34回 リサーチミーティング：分析結果の提示
- 第35回 リサーチミーティング：分析結果の検討
- 第36回 データ分析：ミーティングに基づき適宜修正
- 第37回 結果の要約：結果として記述
- 第38回 結果の要約：研究方法に応じた図表作成
- 第39回 結果の要約：研究方法に応じた結果の記述
- 第40回 結果の要約：客観的・具体的記述
- 第41回 結果の要約：論理的記述
- 第42回 リサーチミーティング：結果の説明
- 第43回 リサーチミーティング：結果の検討
- 第44回 結果の要約：ミーティング結果に基づく修正
- 第45回 結果の要約：結果完成
- 第46回 考察：明らかになったことの確認
- 第47回 考察：結果の解釈
- 第48回 考察：結果は何を意味しているのか
- 第49回 考察：自己の主張を客観的に証明
- 第50回 考察：既存の知識との比較
- 第51回 考察：解釈の妥当性の記述
- 第52回 考察：研究目的達成のために研究方法は適切であったか
- 第53回 考察：看護への示唆
- 第54回 考察：研究の限界
- 第55回 考察：今後の研究課題
- 第56回 リサーチミーティング：考察の説明
- 第57回 リサーチミーティング：考察の検討
- 第58回 考察：ミーティング結果に基づく修正
- 第59回 考察：考察の完成
- 第60回 論文作成方法：作成要領の確認
- 第61回 論文作成方法：IMRAD
- 第62回 論文作成方法：序論（研究問題）
- 第63回 論文作成方法：序論（研究問題の重要性）
- 第64回 論文作成方法：序論（研究設問や研究仮説など）
- 第65回 論文作成方法：文献レビュー
- 第66回 論文作成方法：目的
- 第67回 論文作成方法：方法（研究デザイン、対象と設定）
- 第68回 論文作成方法：方法（データ収集用具、手法、データ分析）
- 第69回 論文作成方法：結果
- 第70回 論文作成方法：考察・研究の限界
- 第71回 論文作成方法：引用文献リスト確認
- 第72回 論文作成方法：結論

第73回 論文作成方法：タイトル、キーワード

第74回 論文作成方法：要旨

第75回 発表準備、抄録・発表要旨の作成

【授業及び学修の方法】

院生と指導教員との対面授業を主とするが、途中において、教室全体での討議（リサーチミーティング）をおこない、研究を実施していきます。授業の進行は、個々の研究課題および研究方法により、異なります。データを収集・分析しながら、まとめた成果の発表を行います。

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。指導教員と連絡をとり、状況に応じて、対面・遠隔を使い分けてください。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

指導教員に適切に指導を受け、授業に関する箇所を参考書等からまとめておいてください。（300時間）

教科書・参考書等

【教科書】

・APA(2010)/前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦訳(2011): APA論文作成マニュアル, 医学書院.
・グレッグ美鈴他編: よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 第2版, 医歯薬出版, 2016. 4180円
その他、各自の研究課題・研究手法に応じて、適宜、指導教員より指示があります。

【参考書 特になし】

オフィスアワー 各指導教員による。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

対面授業を主とします。

学内の中間発表会において研究計画書の公開指導を受けるとともに、医学部倫理委員会に倫理審査申請書を提出し承認を得る必要があります。

授業の進行は、個々の研究課題および研究方法により異なりますが、授業計画にそって成果をまとめて、定期的に指導教員と討議してください。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 966001) 公衆衛生看護学特論Ⅰ (概論) Advanced to Public Health Nursing I	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子	関連授業科目	公衆衛生看護学特論Ⅱ・Ⅲ	
	履修推奨科目	地域看護学特論	
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 地域において健康に生きる, すなわち健康的な生活を送ることを支援するための概念を学ぶため, ライフステージ別に生じる健康課題の特徴および現在の公衆衛生的健康課題とそれに対する施策について, 課題学習・グループワーク等により主体的に理解する。			
授業の目的 公衆衛生看護学が対象とする健康課題をライフステージごとに理解し, 現在, 実施されている施策と活動の実際を理解し, 今後求められる地域活動を考察する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 公衆衛生看護学の理念と原則 (人々の健康とwell-beingに向けた社会的公正, 社会的防衛など), 倫理, 歴史を説明することができる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 各ライフステージにおける健康課題とそれに対する施策の内容を説明することができる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 各健康課題に対する事例検討を通して保健師の役割を説明することができる。 (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4. 今後必要となる活動について考察し, また自己の学習課題について明確にすることができる。 (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、4に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、3に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 公衆衛生看護とは (定義, 「健康」の考え方, 公衆衛生看護の基本理念) (芳我) 第2回 公衆衛生看護の歴史 (芳我) 第3回 公衆衛生看護の対象と場 (芳我) 第4回 予防の概念と方法 (芳我) 第5回 人口構造・社会構造・疾病構造の変化と健康課題 (辻) 第6回 健康格差と健康の社会的決定要因1 (講義) (辻) 第7回 健康格差と健康の社会的決定要因2 (プレゼン) (芳我・辻) 第8回 環境の変化と健康課題 (辻) 第9回 公衆衛生看護活動の展開1 (辻) 第10回 公衆衛生看護活動の展開2 (辻) 第11回 公衆衛生看護活動に活用できる理論・モデル (辻) 第12回 地域包括ケアシステムと公衆衛生看護活動1 (介護予防) (辻)			

- 第13回 地域包括ケアシステムと公衆衛生看護活動2（感染症対応）（辻）
第14回 国際保健（プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション活動の実践例）（辻）
第15回 まとめ（芳我・辻）
第16回 最終試験（芳我・辻）

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義を中心としながら、適宜、まとめの課題を提示し、発表と討議にて理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

- 第1～4回 身の回りにある公衆衛生上の気になるニュース，時事情報などについて取り上げ，その背景にある社会的状況，研究により産出された知見などを調べまとめる。（5時間×4回）
第5～7回 喫緊の健康課題を1つ取り上げ，その社会的関連因子を調べ関連図を作成し，プレゼンの準備をする。（9時間×3回+プレゼン確認・修正1時間）
第8～15回 授業中の課題についてまとめ，筆記試験の準備をする。（4時間×7回+まとめ発表準備2時間）

教科書・参考書等

村嶋幸代・岸恵美子 編 保健学講座1 公衆衛生看護学概論 メヂカルフレンド社

オフィスアワー 講義のあと1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については，院生の主体的な参加を求めます。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 966002) 公衆衛生看護学特論Ⅱ (技術論) Advanced to Public Health NursingⅡ	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 辻 京子, 芳我 ちより	関連授業科目	公衆衛生看護学特論Ⅰ・Ⅲ	
	履修推奨科目	公衆衛生看護管理論, 地域看護学特論	
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 公衆衛生看護の対象は、地域社会における最小単位としての個人、家族と小地域、地域組織など様々なレベルである。個人や家族、集団への対人支援を行うにあたり保健師の技術である家庭訪問、健康相談、健康教育、グループ支援など看護展開の基本的な実践技術を学び、対象や対象集団に応じた支援の方法を選択できるようになることを目指す。			
授業の目的 家庭や地域社会の生活の場において提供する看護技術の方法を理解し、提供の場に応じた支援技術の選択ができるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 人々の健康行動の特性及び効果的な介入方法と技術、集団における教育方法を説明することができる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. 支援技術の実践に必要な解剖・生理・病態学、乳幼児の発育・発達、フィジカルアセスメントの知識をもとに、支援の場に応じた理論やモデルを用いた支援内容を説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 乳幼児健診や健康相談事例、家庭訪問事例を通し、支援を求めない人々、制度の網目から抜け落ちる人々、複雑困難な健康課題を有する人々への支援方法を説明することができる。 (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、3に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、3に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション、公衆衛生看護支援技術の特性 (辻) 第2回 保健指導の目的と技術の特色、保健指導における役割と対象の選定 (辻) 第3回 保健師が行う家庭訪問とは何か、関心を向けるべき対象とニーズ把握の方法 (辻) 第4回 家庭訪問の目的と対象選択、家庭訪問の技術と家庭訪問の進め方 (辻) 第5回 事例を用いた家庭訪問計画の作成と評価 (辻) 第6回 家庭訪問計画の発表 (芳我・辻) 第7回 健康相談の概念と健康相談の進め方 (辻) 第8回 成人保健における健康相談の方法、難病保健・感染症における健康相談、電話相談の活用方法 (辻) 第9回 事例を用いた健康相談 (事例検討) (辻) 第10回 事例検討の発表 (芳我・辻) 第11回 健康教育の目的と保健師の役割 (辻) 第12回 健康教育で用いる理論やモデル1 (辻)			

- 第13回 健康教育で用いる理論やモデル2 (辻)
第14回 グループ支援の特徴と理論 (辻)
第15回 グループ支援の技術と活用可能な理論 (辻)
第16回 最終試験, まとめ (芳我・辻)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義により理論を説明し、演習により技術を確認する対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1～6回 自分の興味のある健康課題に対し、最近の動向、個別支援の方法を考え、保健師による保健指導に活用可能な理論・モデルについて調べまとめる。第4回では支援計画を立案し、第5回に発表する。(6時間×4回)
第7～10回 生活習慣病の事例をもとに、対象者の保健指導計画を立案し、グループにて検討したものを計画案として発表する(4時間×4回)
第10～15回 授業中の課題についてまとめ、筆記試験の準備をする。(2時間×5回)

教科書・参考書等

村嶋幸代・岸恵美子編 保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社

オフィスアワー 講義のあと1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については、院生の主体的な参加を求めます。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 966003) 公衆衛生看護学特論Ⅲ (活動論) Advanced to Public Health NursingⅢ	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ABDM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 辻 京子, 芳我 ちより, 渡邊 久美	関連授業科目	公衆衛生看護学特論Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目	地域看護学特論	
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 地域で生活する個人・家族, 集団, 地域を対象としたライフステージ別, 健康課題別の保健活動とその特性や社会的背景, 法, 制度の歴史の変遷をふまえ, 対象の特性を理解した公衆衛生看護を実践する能力が必要である。また, 学校保健や産業保健の法的基盤および組織の特性を理解し, 児童生徒, 労働者とその家族の健康保持増進のための保健活動を地域で生活する人々の視点に立ち, その連続性をふまえて考えることができるようになることを目指す。 別表1 公衆衛生看護活動展開論			
授業の目的 地域で生活する人々の社会経済的背景をふまえたニーズや健康問題を理解し, その特性に応じた公衆衛生看護を実践する能力を習得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域で生活する個人・家族, 集団, 地域を対象としたライフステージ別, 健康課題別の保健活動の特性と社会的背景, 法, 制度の歴史の変遷を説明することができる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. 地域で生活する人々の健康への支援について, 対象のライフサイクルや疾病・障害の特性した支援方法を説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 個から集団, 地域, 集団, 地域から個の支援のつながり, 各保健事業のつながり, 多機関のつながりなど, 包括的な視野で保健活動を実践することを理解できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 4. 学校保健・産業保健における特性に応じた保健活動の実際を学ぶとともに児童生徒, 労働者の社会経済背景をふまえたニーズや健康問題について理解することができる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 5. 学校保健・産業保健と行政の母子, 成人, 障害者保健活動等とのつながりについて地域ケアシステムをふまえた支援方法を説明することができる。 (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、4、5に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、3に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 オリエンテーション, 母子保健活動の歴史の変遷と保健対策の現状 (芳我・辻) 第2回 高齢者保健活動における保健師の役割と介護を要する高齢者の地域ケアシステム (辻)			

- 第 3回 成人保健の動向と歴史の変遷，地域のサポートシステムと社会資源(辻)
- 第 4回 事例を用いたサポートシステムの検討(辻)
- 第 5回 事例検討の発表（芳我・辻）
- 第 6回 障害者保健福祉の歴史の変遷と総合的な保健対策の現状，精神保健活動における保健師の役割（渡邊）
- 第 7回 難病対策の動向と地域サポートシステム(辻)
- 第 8回 事例を用いたサポートシステムの検討(辻)
- 第 9回 事例検討の発表（芳我・辻）
- 第10回 感染症保健活動の歴史の変遷，感染症予防施策と保健師の役割(辻)
- 第11回 産業保健・看護の理念と目的，歴史の変遷，産業保健・看護制度とシステム(辻)
- 第12回 産業保健における主な健康課題と特徴（辻）
- 第13回 学校保健の理念と目的，歴史の変遷，学校保健における健康課題(辻)
- 第14回 事例を用いて地域ケアシステムをふまえた支援内容を検討(辻)
- 第15回 検討内容の発表（芳我・辻）
- 第16回 最終試験，まとめ（芳我・辻）

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義においてヘルスケアシステムの概要を説明し、事例演習により理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第2～9回 各トピックスについての保健医療福祉施策や法・規則などについて厚生労働省のHPなどから調べ情報をまとめる。（4時間×8回）
 第10～15回 授業中の課題についてまとめ，発表の準備をする（5時間×4回+発表準備4時間×2回）

教科書・参考書等

岸恵美子・村島幸代編 保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論 メヂカルフレンド社

オフィスアワー 講義のあと1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については，院生の主体的な参加を求めます。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 966004) 生活習慣病予防看護技術特論 Advanced Methodology for Public Health Nursing Practice	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BADM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 市原 多香子, 宮武 伸 行, 西村 亜希子	関連授業科目	公衆衛生看護学特論 I・II・III	
	履修推奨科目	地域看護学特論	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 成人期の生活習慣病予防として糖尿病重症化予防を題材に、現在の生活習慣病予防のための政策 (健康増進計画, データヘルス計画など) について理解し社会的背景を抑えた上で、個人の行動変容を促す保健指導・健康教育の基盤となる概念および理論の理解を深め、具体的な保健指導計画を立案し、特定健康診査の場で実地 (実習フィールド) に健康教育を実践するために準備 (演習) する。 また、本授業で準備した健康教育は、地域健康生活支援実習において実施する。 別表1 個人・家族・集団・組織の支援, 公衆衛生看護活動展開論			
授業の目的 生活習慣病の成因は多因子であり、成人期のみならずに焦点を当ててそれを予防することは難しいが、特定健康診査・保健指導においては、個別の健康行動改善に向けた保健指導能力が求められる。当授業は、保健師として糖尿病予備軍となる対象者の行動変容を促すコンサルテーション能力を高めることを目的とする。なお、当授業は地域健康生活支援実習と連動しており、実習地において、実際に特定健診の場で出会う対象者との面談や特定保健指導への同席を通し、保健指導・健康教育技術を修得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 日本および世界における糖尿病の現状と推移について述べる。 (DP「専門知識・理解」「グローバルマインド」に対応) 2. 日本における生活習慣病予防のための施策について説明する。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 糖尿病の機序, 予防方法, 治療方法, その予後について述べる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 4. 重症化予防のための最新の取り組みとその課題について検討できる。 (DP「研究能力・応用力」に対応) 5. 行動変容を促す理論・モデルについて説明する。 (DP「専門知識・理解」に対応) 6. 保健指導対象者の健康課題について分析する。 (DP「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、4、5、6に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、3に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 授業オリエンテーション (芳我) 健康課題としての糖尿病の世界における位置づけ 日本における対策・施策の概説 第2回 糖尿病の病態と治療指針 (宮武) 第3回 糖尿病が社会に与えるインパクト (宮武)			

- 第4回 糖尿病重症化予防のための看護ケア (市原)
- 第5回 糖尿病重症化予防のための基礎知識 (西村)
- 第6回 糖尿病重症化予防に向けた技術論 (西村)
- 第7回 糖尿病療養指導の実際 (西村)
- 第8回 グループワーク：事例検討① (芳我・西村)
- 第9回 グループワーク：事例検討② (芳我・西村)
- 第10回 発表・まとめ (芳我・宮武・西村)
- 第11回 保健指導の立案 (講義:芳我・西村)
- 第12回 グループワーク：保健指導の立案① (芳我・西村)
- 第13回 グループワーク：保健指導の立案② (芳我・西村)
- 第14回 グループワーク：保健指導の立案③ (芳我・西村)
- 第15回 健康教育計画 発表・まとめ (芳我・宮武・西村)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義において学んだ概要を事例演習により理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1～4回 日本で課題とされる生活習慣病について、健康日本21、健康増進法などについて厚生労働省のHPおよび関連する参考図書、文献を探り授業に臨むを見て情報を調べまとめる。(4時間×4回)

第5～10回 糖尿病療養食について自身の性別・年齢にあった食事を調理・試食してみる。また運動療法として、日常生活に適用可能な動作を考えて実践してみる。(5時間×5回+発表準備4時間×3回)

第11～15回 授業で示した事例について、保健指導計画を立案し、実際に教員を対象者に見立て実施する準備をする。(1時間×5回+発表のためのグループ討議2時間)

教科書・参考書等

- ・糖尿病療養指導ガイドブック 日本糖尿病療養指導士認定機構 最新版を用意しておくこと。
- ・国民衛生の動向 厚生労働統計協会 最新版 を用意しておくこと。
- ・他の教科書・参考書等については、追って連絡する。

オフィスアワー 授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については、院生の主体的な参加を求めます。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 966005) 健康生成活動特論 Salutogenesis for Public Health Practice	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BADM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 三木 崇範, 日下 隆, 南野 哲男, 宮武 伸行	関連授業科目 防看護技術特講	公衆衛生看護学特論 I (概論), 生活習慣病予	
	履修推奨科目	地域看護学特論	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 日本のみならず, 世界の健康課題となって久しい循環器疾患等, 生活習慣病予防に取り組むため, ライフコースアプローチの概念を取り入れた胎生期から始まるヘルスプロモーション方策を検討する。そのための基盤となる知識としての理論や, 最新の研究成果を理解し, 地域における看護職の活躍の可能性について検討する。 別表1 個人・家族・集団・組織の支援, 公衆衛生看護活動展開論			
授業の目的 生活習慣病の成因は多因子であり, 胎児期や生後早期の環境因子 (Developmental Origins of Health and Diseases; DOHaD) や社会的決定要因 (Social Determinant of Health; SDH) の影響を考慮する必要がある。一方で, 健康の成因に着目し, 健康の保持・増進を目指す健康生成の考え方がある。当授業は疾病の原因ではなく健康を生成する因子に着目するための理論やモデルを理解し, 最新の知見を探索することを通して一次予防の視点から生活習慣病を予防する方策を検討することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 世界における生活習慣病の位置づけ, 日本における取組の課題について説明し, 日本が寄与できる役割について討議する。 (DP「専門知識・理解」「グローバルマインド」に対応) 2. 健康状態を表す指標とその定義について説明し, 日本における健康増進施策の現状と実際の健康データの推移について検証し, 今後の活動の必要性について討議する。 (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 3. 生活習慣病の要因を理解するための理論・モデルについて説明し, その適用について討議する。 (DP「専門知識・理解」に対応) 4. 臨地における小児期からのヘルスプロモーション活動の実際について触れ, その意義, 今後の活動の展望について述べる。 (DP「研究能力・応用力」に対応) 5. 現在, 実習地において実施されている保健事業において, どのような活動が可能か検討し, 適用のための活動計画へとつなげる。 (DP「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、4、5に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、3に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 授業オリエンテーション 国民健康づくり運動の経緯, 健康日本21 (第二次) における施策について (芳我) 第2回 胎生期がその後の健康に与える影響について (三木)			

第3回	新生児がその後の健康に与える影響について（三木）
第4回	DOHaD学説について（三木）
第5回	ヒトの健康における周産期の重要性（日下）
第6回	ヒトの健康における新生児期の重要性（日下）
第7回	小児の生活習慣病（日下）
第8回	香川大学での取り組みを学ぶ1 小児生活習慣病予防健診を活用した医療・保健（南野）
第9回	香川大学での取り組みを学ぶ2 ※第4水曜日（午後2時から）の研究会議に参加
第10回	香川大学での取り組みを学ぶ3 ※第4水曜日（午後2時から）の研究会議に参加
第11回	香川大学での取り組みを学ぶ4 健やかあすなろプロジェクト（宮武・鈴木）
第12回	香川大学での取り組みを学ぶ5 生活習慣病予防（宮武）
第13回	香川大学での取り組みを学ぶ6 生活習慣病対策（宮武）
第14回	小児期からのヘルスプロモーション事例（演習）（芳我）
第15回	まとめ これからの健康課題：気候変動が与える健康への影響（芳我）

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義において学んだ概要を事例演習により理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第2～7回 講義のトピックに関連する参考図書，文献を探り授業に臨んで情報を見て調べを調べまとめる。（4時間×6回）

第8～10回 外来での対象者家族との面談を通して、診断を受ける家族のニーズについて検討、まとめる。（4時間×3回）また、研究会議において発表する準備を行う1時間×3回）

第11～15回 授業で示した活動事例について、その関連する法律や制度について整理しまとめる。（5時間×4回＋発表のためのグループ討議4時間）

教科書・参考書等

- ・国民衛生の動向 厚生労働統計協会 最新版 を用意しておくこと。
- ・ストレス対処力SOC：健康を生成し健康に生きる力とその応用，有信堂高文社
- ・他の教科書・参考書等については，追って連絡する。

オフィスアワー 授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・生活習慣病は先進国のみならず，世界的な健康課題となつて久しい。個人の生活様式および健康行動の改善には，個別の保健指導や健康教育では限界がある。これまでの戦略を改革するようなイノベーションが期待されている。香川大学医学部教員の現在進行形の取り組みから，今後の保健政策・活動の在り方について考える。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 966006) 公衆衛生看護管理特論 Management for Practice in Public Health	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 CABM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子	関連授業科目	公衆衛生看護管理演習	
	履修推奨科目	看護管理学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(事前学習30時間, 事後学習30時間)			
授業の概要 地域の特性や、そこで生活する人々(住民)の健康・生活のニーズをとらえ、その人らしい暮らしを実現するため、住民主体としたあらゆる関係者と協働できるつながりやシステムをつくる保健師のマネジメント活動の基本となる知識・技術を学ぶ。公衆衛生看護管理特論では知識を、公衆衛生看護管理演習では実際の事例を通し、個別の支援から地域のシステムづくり、政策提言に向けた演習を行う。 別表1 公衆衛生看護管理論			
授業の目的 地域で生活する人々や関係者がそれぞれのもつ力を発揮し、誰もが暮らしやすい地域の実現に向け、保健活動をマネジメントできるよう、公衆衛生看護管理の目的、構造、機能、専門的自律と人材育成について基本的な知識を修得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 公衆衛生看護管理の目的について説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. 地区を担当する保健師として初任期から担う実務的管理機能および職位に付属する管理機能をキャリアラダーとともに具体的に説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 公衆衛生看護管理を構成する6つの管理について列挙し、それぞれについて説明できる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 専門職として生涯にわたり自己啓発可能な専門的自律と人材育成の重要性について言及し、自らのキャリアディベロップメントについて計画できる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 筆記試験60% (主に到達目標1、3に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、4に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス 保健師のもつ責務とは、公衆衛生看護管理を学ぶ目的について(芳我) 第2回 自身のキャリアディベロップメントについて考える(芳我) 第3回 保健師として成長すること(キャリアラダー)(芳我) 第4回 6つの管理について：事例管理(辻) 第5回 6つの管理について：業務管理(辻) 第6回 6つの管理について：予算管理の基本(辻) 第7回 6つの管理について：情報管理の基本(辻) 第8回 6つの管理について：人事管理(辻) 第9回 6つの管理について：組織運営・管理の基本(辻)			

- 第10回 ON-JTとOFF-JT(芳我)
第11回 研究活動と学会, 看護協会の役目(芳我)
第12回 キャリアディベロップメント演習①(芳我・辻)
第13回 キャリアディベロップメント演習②(芳我・辻)
第14回 学びの発表(芳我・辻)
第15回 まとめ(芳我・辻)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義において学んだ概要を事例演習により理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

- 第1～3回 自身のキャリアディベロップメントについて想像してみる。また就業後の将来像を考えてレポートにまとめる。(3時間×3回)
第4～9回 部活動や委員会活動など身近な組織運営について経験したこと, 調べたことをまとめる。(4時間×6回)
第10～11回 自身が参加してみたい学会活動を調べ、その概要をまとめるとともに、各自のキャリアディベロップメントにどのように役立つか考察する。(4時間×2回)
第12～15回 管理職の実践内容について、授業中の課題についてまとめ、発表の準備をする。(5時間×4回+発表のためのグループ討議2時間)

教科書・参考書等

教科書 レジюмеを基本とし、適宜、紹介します。

参考書 保健師業務要覧(最新版)

オフィスアワー 授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・課題学習およびグループワークでの参加状況による評価を行います(出席確認)。ただし、感染症拡大の状況によりオンライン授業になることもありますので、受講前には必ずWebclass等を確認するようにしてください。
- ・状況により、2コマ連続で授業となることがあるので、第1回目に配布するスケジュールを確認すること。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 966007) 公衆衛生看護管理演習	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子	関連授業科目	公衆衛生看護管理特論	
	履修推奨科目	看護管理学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(事前学習30時間, 事後学習30時間)			
授業の概要 地域の特性や、そこで生活する人々(住民)の健康・生活のニーズをとらえ、その人らしい暮らしを実現するため、住民主体としたあらゆる関係者と協働できるつながりやシステムをつくる保健師のマネジメント活動の基本となる知識・技術を学ぶ。公衆衛生看護管理特論では知識を、公衆衛生看護管理演習では実際の事例を通し、個別の支援から地域のシステムづくり、政策提言に向けた演習を行う。 別表1 公衆衛生看護管理論			
授業の目的 地域で生活する人々や関係者がそれぞれのもつ力を発揮し、誰もが暮らしやすい地域の実現に向け、保健活動をマネジメントできるように、公衆衛生看護管理の目的に沿って、基本的な思考過程やスキルを修得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 実習地域に在住する保健師の個別支援事例から、地域の支援課題に関するデータをまとめ、保健師として取り組むべき健康課題を抽出できる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 当該健康課題に対する現在の政策・施策について確認し、課題解決に役立つ資源を調べ、実際の活動状況について実地に視察し、クリティークする。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 学生が見出した健康課題と現状での取り組みを整理した上で、今後必要な地域の資源・制度について説明・発表し、関係者とディスカッションしながら、地域のニーズを満たす政策を提言できる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、3に対応)、発表及び討議25% (主に到達目標2に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス 個別支援事例の説明(芳我) 第2回 健康課題の整理(辻) 第3回 地域の情報のまとめ(辻) 第4回 地域の情報まとめ発表(芳我・辻) 第5回 地域の情報について講評・まとめ(芳我・辻) 第6回 情報収集スケジュール立案作成(辻) 第7回 フィールドワーク①(準備)(辻) 第8回 フィールドワーク②(辻) 第9回 フィールドワーク③(辻) 第10回 地区踏査の成果報告会(芳我・辻) 第11回 まとめ(関係者との話し合い)(芳我・辻) 第12回 地域資源の活用方法(辻)			

- 第13回 政策提言のための準備(辻)
第14回 政策提言について発表(芳我・辻)
第15回 講評・まとめ(芳我・辻)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義において学んだ概要を事例演習により理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第2～5回 講義で示した課題について取り組む。(4時間×4回)

第6～9回 フィールドワークにおいて収集した情報をグループにて検討し、地域診断に必要なデータとして整理し、まとめる。(4時間×4回)

第10～15回 発表した内容に対する教員のコメントをもとに、グループにて検討し地域診断を進める。また、診断した結果を発表する準備をする(6時間×4回+発表のためのグループ討議4時間)

教科書・参考書等

教科書 レジュメを基本とし、適宜、紹介します。

参考書 保健師業務要覧(最新版)

オフィスアワー 授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・グループワークでの参加状況・プレゼン内容に対し評価を行います(出席確認)。ただし、感染症拡大の状況によりオンライン授業になることもありますので、受講前には必ずWebclass等を確認するようにしてください。
- ・状況により、2コマ連続で授業となることがあるので、第1回目に配布するスケジュールを確認すること。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 966008) 公衆衛生看護倫理特論 Public Health Ethics for the Practice in Community	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 DCAM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子	関連授業科目	公衆衛生看護学特論 I, II, III	
	履修推奨科目	看護倫理学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(事前学習30時間, 事後学習30時間)			
授業の概要 地球規模の環境変化とともに自然災害, 新興感染症等の健康危機に遭遇する機会が増え, 今後ますます健康課題は多様化・困難化すると推察される。なかでも未曾有の感染症との闘いは, 感染拡大防止に隔離という対応を必要とするため大きな人権侵害を招く可能性をはらんでおり, 日本のみならず世界の医療従事者は, その歴史から学び, より高い倫理観をもつ必要がある。 本授業は, 医療分野において長期にわたり人権を侵害した歴史であるハンセン病の隔離政策をテーマとし, 療養施設における生活を余儀なくされた回復者を通して, 当事者の視点から, そこでの生活を具体的に理解する。国外の対策と比較しながら, 医療従事者は何をしてきたのか, その事実を学ぶと同時に, 看護職が取り組むべき課題は何だったのか, これから担うべき役割について考察する。 別表1 個人・家族・集団・組織の支援, 公衆衛生看護活動展開論, 公衆衛生看護管理論			
授業の目的 感染症対策に潜在する差別や偏見の歴史と向き合い, 誰の中にもある差別や偏見の種となる思考方法に気付くことで, 公衆衛生従事者としての倫理観の涵養を目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. ハンセン病対策の歴史, 現存する社会的問題について説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. ハンセン病療養所への隔離政策の犠牲となった一組の夫婦を通して, ハンセン病に罹患することが, その人の生活および人生にどのような悲劇を生じさせたのか, 具体的に説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 療養所のできごとの中から, 看護職が取り組むべき課題は何だったのか, そこで担うべき役割は何かを考察できる。 (DP「倫理観・社会的責任」) 4. 今後の感染症対策において, 起こりうる問題とは何かを予測し, それらについて看護職が担うべき役割について考察できる。 (DP「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1, 3, 4に対応), 発表及び討議40% (主に到達目標2に対応)。 成績の評価は, 次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス, (芳我) なぜ今, ハンセン病なのか: 映画を見て考える (芳我・辻) 第2回 なぜ今, ハンセン病なのか: 映画を見てディスカッション (芳我・辻) 第3回 ハンセン病への医学的アプローチの理解① (芳我) 第4回 ハンセン病への医学的アプローチの理解② (芳我)			

- 第5回 日本におけるハンセン病の歴史(芳我)
 第6回 日本におけるハンセン病の現在の療養所の生活(芳我)
 第7回 ハンセン病と人権：本人の苦悩に焦点を当てて(相原)
 第8回 ハンセン病と人権：家族の苦悩に焦点を当てて(相原)
 第9回 社会的に排除されてきた人への健康支援①(辻)
 第10回 社会的に排除されてきた人への健康支援②(辻)
 第11回 社会の中の感染症—ハンセン病からCOVID-19における差別(辻)
 第12回 国内外におけるハンセン病の歴史ハンセン病から考える看護職の役割(ディスカッション)①
 (芳我・辻・相原)
 第13回 国内外におけるハンセン病の歴史ハンセン病から考える看護職の役割(ディスカッション)②
 (芳我・辻・相原)
 第14回 発表(芳我・辻・相原)
 第15回 まとめ(芳我・辻・相原)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義において学んだ概要を事例演習により理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

- 第1～2回 授業で視聴した映画をもとに、課題についてまとめ、発表の準備をする(1時間×2回)
 第3～6回 講義のトピックに関連する参考図書、文献を探り授業に臨むを見て情報を調べまとめる。(4時間×4回)
 第7～10回 講義で紹介された事例について、療養所で暮らす人の視点、家族の視点、医療従事者の視点で状況を検討し、自身の意見をまとめる。(4時間×4回)
 第11～15回 授業で示した課題について取り組み、発表の準備をする。(5時間×5回+発表のためのグループ討議12時間)

教科書・参考書等

教科書 感染看護学(南江堂)

参考書 和泉真藏：医者への僕にハンセン病が教えてくれたこと、シービーアール出版

オフィスアワー 授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・課題学習およびグループワークでの参加状況による評価を行います(出席確認)。ただし、感染症拡大の状況によりオンライン授業になることもありますので、受講前には必ずWebclass等を確認するようにしてください。
- ・状況により、2コマ連続で授業となることがあるので、第1回目に配布するスケジュールを確認すること。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 966009) 健康危機管理特論 Health Risk and Crisis Management	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ACDM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 長谷川 修一, 三好 正明, 野々村 敦子, 磯打 千雅子, 黒田 泰弘, 井面 仁志, 寺尾 徹	関連授業科目	公衆衛生看護学特論 I, 公衆衛生看護管理論	
	履修推奨科目	看護管理学, 地域看護学特論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間) + 調査研究時間 (30時間)			
授業の概要 地球規模の環境変化とともに自然災害, 新興感染症等の健康危機に遭遇する機会が増え, 公衆衛生に従事する保健師は防災・減災の基礎的な知識とともに, 被災後の地域住民の健康を守る保健活動を実践する能力が求められる。 そこで, 本授業では地域特性を踏まえた専門的・実践的防災スキルを理解し, 多職種と連携しながら, 地区の具体的な防災活動方法を計画・実施・評価し健康危機管理方法 (災害時保健活動を含む) を修得する。 別表 1 公衆衛生看護管理論			
授業の目的 防災・減災の視点から地域および住民の暮らしに関する情報 (例: 災害時要援護者等) を収集・整理し, 災害に備えるための保健活動から被災後の健康管理技術を学ぶ。また, 感染症保健活動の実際の事例をもとに, 平時・有事・事後対応における保健師の役割, 責務について学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 健康危機管理が対象とする事象とリスクとクライシスの違いについて述べる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. 防災・減災の視点から地域社会およびそこで暮らす住民の健康情報を収集し, 特に支援すべき要援護者を把握, 自助・共助・互助による地域支援体制を構築するための支援計画を立案できる, (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 感染症に対するスタンダードプリコーション, 環境整備の方法などについて説明する。 (DP「専門知識・理解」) 4. 今後の感染症対策において, 起こりうる問題とは何かを予測し, それらについて看護職が担うべき役割について考察できる。 (DP「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標 1, 4 に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標 2, 3 に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション・公衆衛生看護学における健康危機管理の基礎知識 (講義) (芳我) 第 2回 地域の防災活動に対する支援のありかた (講義) (藤澤) 防災の観点から, 受け持ち地区における住居および地域の環境をアセスメント (演習) (長谷川) 第 3回 保健師活動と災害ボランティア活動 (講義・演習) (長谷川) 第 4回 被害想定・ハザードマップを用いた地域のリスクアセスメント (演習) (野々村) 第 5回 地域の防災計画策定に生かすためのクロスロード (演習) (野々村) 第 6回 住民支援のための対象理解①: 惨事ストレスと心のケア (講義) (藤澤)			

- 第 7回 住民支援のための対象理解②：災害医療と保健活動（講義）（黒田）
- 第 8回 住民支援のための対象理解③：全ての住民の生命を守るための避難と避難行動（講義・演習）（井面）
- 第 9回 住民支援のための地域特性理解①：地震・津波のしくみと被害（講義・演習）（長谷川）
- 第10回 住民支援のための地域特性理解②：風水害・土砂災害（講義）（長谷川）
- 第11回 防災行動計画に生かす気象情報の知識（講義・演習）（寺尾）
- 第12回 災害現場からの教訓を生かした保健師活動（講義・演習）（高嶋）
- 第13回 香川県の防災対策と地区防災計画（講義・演習）（長谷川）
- 第14回 事業継続計画と地区防災計画の関連からみた保健師活動の在り方検討（講義・演習）（磯内）
- 第15回 生命・財産を災害から守るために（講義）（長谷川）
- 第16回 地区防災計画立案プレゼンテーション・まとめ（芳我）

【授業及び学習の方法】

この授業の一部は日本防災士機構防災士養成の専門的内容と認められています。
 基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】

第 1～15回 どのように保健師活動に生かせるか授業終了後、考察をしレポートする。(2時間×15回)
 また、レポート内容からまとめのプレゼンの準備として地域保健活動も防災についてまとめプレゼンテーションする。(2時間×15回)

教科書・参考書等

教科書・参考書等

教科書

NEW予防医学・公衆衛生学（南江堂）

防災士養成講座関係資料

参考書

適宜、紹介します。

オフィスアワー 授業終了後 1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目の単位取得後、日本防災士機構防災士養成コースの必要単位を受講することにより、防災士資格試験の受験資格を得ることができます。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 966101) 疫学特論 Advanced Epidemiology	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ABDM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 藤井 豊	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 疫学は、集団及び個体レベルの生身の人間を対象とする学問です。根拠に基づく保健医療福祉活動(Evidence Based Medicine EBM)が常識の時代となり、疫学は保健師活動において必須の基礎科学です。今日、新聞・雑誌・テレビでも、「疫学調査」「疫学的因果関係」といった言葉が頻繁に出てくるようになってきました。このように科学の世界だけではなく、保健医療福祉の現場においても、一般社会においても、疫学は重要な役割を担っています。 この授業では、難しいものと考えられがちな疫学を、講義と演習を通して学びます。			
授業の目的 保健師として、人間の健康を客観的にとらえる理論と方法を理解し、活用できることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 疫学の概念を説明できる。(DPの専門知識・理解、研究能力・応用力、グローバルマインドに対応) 2. 疫学的アプローチを説明できる。(DPの専門知識・理解、研究能力・応用力、グローバルマインドに対応) 講義毎の詳細な到達目標は、講義時にプリントを配布し示します。			
成績評価の方法 期末試験(100%)により到達度(到達目標1及び2)を評価する			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1. 疫学とは何か 2. 疫学頻度の指標 1 罹患率、有病率、致命率 3. 疫学頻度の指標 2 粗死亡率と年齢調整死亡率 4. 疫学頻度の指標 3 相対危険と寄与危険 5. 疫学頻度の指標 4 オッズ比 6. 演習 1 7. 疫学調査法 8. スクリーニング 9. 記述疫学 10. 分析疫学 1 症例対象研究 11. 分析疫学 2 コホート研究 12. 介入研究 13. 演習 2 14. 因果関係と交絡因子 15. 演習 3			
【授業及び学習の方法】 講義を行い、国家試験の過去出題問題および、自作問題により演習を行います。講義を受けてわかったところ、わからないところを、講義終了時に毎回自問し、わからなかったところは毎回リアクションペーパーに書いてもらいます。わからなかったところは次回講義で説明し、講義を進めていきます。質問をした内容は、必ず自分でも調べて、次回講義を受けてください。			

【自学自習のためのアドバイス】

疫学は、難しい学問と思われがちであり、実際、講義を一度聴いただけで理解することは困難です。演習問題を解いて、間違えてみて、なぜ間違いなのかを考えることにより、理解が深まります。国会試験問題を解いてみる時は、正解を求めるだけでなく、正解以外の選択肢の持つ意味もしっかり勉強してください。

教科書・参考書等

教科書は指定しません。

参考書：

はじめて学ぶやさしい疫学 南江堂

クエスチョン・バンク 保健師 国家試験問題解説 メディックメディア

保健師国家試験問題 解答と解説 医学書院

オフィスアワー 月曜日、火曜日、月・火曜日の振替講義日の16時10分から17時、講義終了後30分間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については、院生の主体的な参加を求めます。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 966201) 実践統計特論 実践統計特論	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BADM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより	関連授業科目	疫学特論	
	履修推奨科目	看護研究方法論 2	
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 集団を対象とした健康問題を検討するに際して、複雑に絡み合った要因を分析し、健康水準を高める方策を探るための方法について学習する。授業では、データを活用して、情報処理技術や統計的手法を用いて分析し、結果を解釈する方法を教授する。			
授業の目的 エビデンスに基づく実践に欠かせない保健医療分野における研究の読解および実施のための基礎的な知識・技術の修得を目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. データを収集する方法を説明し、模擬データをまとめ視覚化することができる。 (DP「専門知識・理解」,「研究能力・応用力」,「グローバルマインド」に対応) 2. 仮説を立て、それを検証するための検定方法, 推定方法を説明できる。 (DP「専門知識・理解」,「研究能力・応用力」に対応) 3. 研究結果を吟味, 解釈することができる。 (DP「専門知識・理解」,「研究能力・応用力」,「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標 2、3 に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標 1 に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ※本授業は集中講義として実施します。 第1～4回：10月第1～3週 第5～15回：11月 第 1回 オリエンテーション・研究デザイン (芳我・日高) 第 2回 データの記述統計, 推測統計 (日高) 第 3回 検定とp値 (日高) 第 4回 論文の読み方 (日高) 第 5回 演習 (主要な検定方法：カテゴリカルデータ解析) (日高) 第 6回 発表 (主要な検定方法：カテゴリカルデータ解析) (芳我・日高) 第 7回 演習 (主要な検定方法：連続データ解析) (日高) 第 8回 発表 (主要な検定方法：連続データ解析) (芳我・日高) 第 9回 演習 (主要な検定方法：多変量解析①) (日高) 第10回 発表 (主要な検定方法：多変量解析①) (芳我・日高) 第11回 演習 (主要な検定方法：多変量解析②) (日高) 第12回 発表 (主要な検定方法：多変量解析②) (芳我・日高) 第13回 演習 (主要な検定方法：多変量解析③) (日高)			

第14回 発表（主要な検定方法：多変量解析③）（芳我・日高）

第15回 まとめ（芳我・日高）

【授業及び学習の方法】

できるだけ、実践的に学ぶため、講義と演習を組み合わせで行います。演習課題に主体的に取り組み、教員及び学生に対して発表をすることによって、プレゼンテーション・ディスカッション方法についても学習してください。

【自学自習のためのアドバイス】

統計学は、疫学とならび、公衆衛生の場においてエビデンスをもって実践活動するためには必須の知識ですが、数学的な知識をもとめられることから、苦手意識をもつ学生も多いかと思います。講義で学び理解することは困難ですので、各回終了後、ミニレポートを課題として出します。主体的に演習課題に取り組むことから、学んでいきましょう。

第1回から15回 授業で示した課題に対するミニレポート作成 (2時間×15回)

復習のための事後学習 (2時間×15回)

教科書・参考書等

教科書：

医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ メディカルサイエンスインターナショナル

参考書：

はじめて学ぶやさしい疫学 南江堂

基本統計学 有斐閣

よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 岩波科学ライブラリー

オフィスアワー 講義終了後30分間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については、院生の主体的な参加を求めます。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 966301) 保健医療福祉行政特論 Advanced Course of Health and Medical Welfare Administration Theory	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子	関連授業科目	保健医療福祉行政演習	
	履修推奨科目	疫学, 実践統計特論	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 生活は、多くの法律や制度によって保護され、一方で規制されている。保健医療福祉の充実と具体的なサービス提供の基盤をなしている保健医療福祉に関する数多くの法律について教授する。 行政における仕組みや法律・制度・政策について理解を深め、地域保健活動の具体策として、健康増進対策や環境保健衛生・感染症対策などを取り上げながら、施策や保健計画の企画・立案、評価を学び、行政における保健師の役割について理解できるようにする。 別表1 保健医療福祉行政論			
授業の目的 保健医療福祉行政の仕組みや制度の変遷とその内容、様々なライフサイクルや健康課題を持つ対象者のニーズに応じて支援するために必要な制度と運用、支援のために必要な保健医療福祉サービスの計画・企画実施・評価や社会資源内容について学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 保健医療福祉行政の発展過程について理解する。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. 保健医療福祉活動の基盤となる保健医療福祉制度について理解する。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 保健医療福祉行政の仕組みについて理解する。 (DP「専門知識・理解」に対応) 4. 公衆衛生の基本的な方法論および地域保健活動を理解する。 (DP「研究能力・応用力」に対応) 5. 国や地方自治体の保健医療福祉計画の基本的な考え方や策定過程・推進管理と評価について理解する。 (DP「研究能力・応用力」に対応) 6. 人々が健康な生活を送るために必要な保健対策(政策・施策)を包括的・体系的に理解する。 (DP「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 試験60% (主に到達目標1～4に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標5、6に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 保健医療福祉行政の目ざすもの(芳我) 第2回 公衆衛生の基盤形成(芳我) 第3回 社会保障制度Ⅰ(理念, しくみ)(辻) 第4回 社会保障制度Ⅱ(年金, 雇用, 公的扶助, 介護保険, 医療保障, 児童・高齢・障害福祉, 成年後見人制度等)(星川)			

- 第 5回 健康増進法, 母子保健法等 (辻)
- 第 6回 行政における公衆衛生Ⅰ 医療提供体制, 医療計画等 (星川)
- 第 7回 行政における公衆衛生Ⅱ 健康づくり方法論 (星川)
- 第 8回 香川県の看護行政(辻)
- 第 9回 環境保健衛生Ⅰ 栄養・食品保健衛生対策(横山)
- 第10回 環境保健衛生Ⅱ 環境保健衛生対策(星川)
- 第11回 保健医療福祉行政の仕組みⅠ 保健医療福祉行政と財政 (横山)
- 第12回 保健医療福祉行政の仕組みⅡ 計画と評価 (横山)
- 第13回 保健医療福祉行政の仕組みⅢ 計画と評価の演習 (横山)
- 第14回 保健事業計画の実際(辻)
- 第15回 行政における保健師の役割 (施策化, 体制・しくみづくり) (辻)
- 第16回 試験(芳我・辻)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のアドバイス】

第2～7回 居住地や出身地の行政ホームページを検索し, どのような政策, 施策, 財政状況なのかを調べておく。(2時間×6回)

第8～15回 保健計画と評価について, ある自治体のホームページから保健計画と評価について調べ, どのようなものか説明できるようにまとめる。(2時間×9回)

(復習)

第1～15回 授業時に配布する資料内容がある教科書部分は必ず読んで復習しておくこと。(2時間×15回)

教科書・参考書等

教科書

藤内修二他著：標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論, 医学書院, 最新版

参考書

厚生労働統計協会：国民衛生の動向, 最新版

新版保健師業務要覧 最新版, 日本看護協会出版会

オフィスアワー 授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・毎回ポートフォリオ等を提出してもらいます。(出席確認)
- ・学ぶ意欲をもって授業に臨むこと。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 966302) 保健医療福祉行政演習 Seminar of Health and Medical Welfare Administration Theory	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BACM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子	関連授業科目	保健医療福祉行政特論	
	履修推奨科目	疫学特論, 実践統計特論	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 特論において学んだ基礎知識をもとに、特定地方公共団体における保健医療福祉行政の現状、課題、各種施策の方向性について理解し、保健医療福祉行政における基本計画の策定、実施、評価についての展開方法について、可能な範囲で協議会等に参加、もしくは各種計画のためのデータ分析を手伝い、実地に学ぶ。別表1 保健医療福祉行政論			
授業の目的 保健医療福祉行政について、活動の基盤を作る施策が身近に感じられるよう、実習地域を対象とした演習によってPDCAサイクルを経験する。具体的には、収集された、もしくは、これから収集する地域のデータを統計的にまとめ、健康課題を見出し、それを多職種・住民にプレゼン(準備)し、検討することができるようにする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 保健医療福祉行政の計画・実施・評価について説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. 保健医療福祉行政施策について実習地域の行政計画のなかの位置づけを説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 特定の健康課題について、実習地域の現在の施策と保健事業を説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 4. 課題課題を解決するための方策を多職種・住民と検討し提案できる。 (DP「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 既存の協議会もしくはデータヘルスなど各種計画の検討会に参加し、データ収集・整理・プレゼン資料作成を分担できる。 (DP「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1～4に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標5に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス(芳我) 実習地域の保健医療福祉行政計画を調べてみよう①(辻) 第2回 実習地域の保健医療福祉行政計画を調べてみよう②(辻) 第3回 発表・講評(芳我・辻) 第4回 特定健康課題についてそれを解決するための方策についてまとめてみよう(辻) 第5回 特定健康課題についてそれを解決するための保健事業についてまとめてみよう(辻) 第6回 特定健康課題についてそれを解決するための社会資源についてまとめてみよう(辻) 第7回 発表・講評(芳我・辻) 第8回 実習地域の保健活動について参加してみよう(課題検討の方法) 第9回 実習地域の保健活動について参加してみよう(住民の思い・願いの実際を収集①)(辻) 第10回 実習地域の保健活動について参加してみよう(住民の思い・願いの実際を収集②)(辻)			

- 第11回 実習地域の保健活動について参加してみよう（住民の思い・願いの実際を収集③）（辻）
- 第12回 現状分析（辻）
- 第13回 課題の発見・提言作成（辻）
- 第14回 発表会（芳我・辻）
- 第15回 振り返り・まとめ（芳我・辻）
- 第16回 修正レポート作成グループワーク・提出（芳我・辻）

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のアドバイス】

第1～7回 実習地域の政策，施策，財政状況なのかを調べておく（2時間×7回）

第8～15回 実習地の業務状況に応じて会議参加時間を授業時間外に確保する。（2時間×8回）
（復習）

第1～15回 授業時に配布する資料内容がある教科書部分は必ず読んで復習しておくこと。（2時間×15回）

教科書・参考書等

教科書

藤内修二他著：標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論，医学書院，最新版

参考書

厚生労働統計協会：国民衛生の動向，最新版

新版保健師業務要覧 最新版（2018年版以降），日本看護協会出版会

オフィスアワー 授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・毎回ポートフォリオ等を提出してもらいます。（出席確認）
- ・学ぶ意欲をもって授業に臨むこと。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 966401) 地域健康生活支援実習 Public Health for Healthy Life by Nursing Practice	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BCDM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Px	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子, 林 信平	関連授業科目	公衆衛生看護学実習	
	履修推奨科目	公衆衛生看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	
学習時間 実習45時間 × 2週 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 個別事例の支援過程を通して、支援課題を見出すとともに、地域の社会生活環境がその対象者および家族の健康に与える影響、および既存のサービス等社会資源の活用状況をアセスメントした上で支援計画を立案・実施・評価する。具体的には、周産期にある母子とその家族を対象に、エビデンスに基づく育児支援計画を立案し、看護過程を展開するとともに。必要な社会資源の活用の実態を把握し、今後求められる資源、サービスの在り方について考察し、まちの総合計画・保健計画との整合性をもって地域の活動計画へとつなげる素材を蓄積する。さらに、受け持ち事例を通して市町保健センターにおける母子保健事業を経験し、周産期および幼児期における健康な親子のニーズと育児支援の基礎を理解する。また、支援のための信頼関係構築により保健師としての基本姿勢や倫理的態度を養う。 別表1個人・家族・集団・組織の支援実習			
授業の目的 既習の理論および技術を対象者に対するケア実践において統合する。個別支援の基本的看護援助(家庭訪問・保健指導・健康教育)が実践できるよう、基礎的能力を学ぶ。また個別事例から政策提言へとつなげられるよう、公衆衛生看護管理の視点から各種行政計画との整合性を考慮しながら、地区活動計画を立案するための素材を蓄積する。保健師および助産師による産後の母子支援(乳児家庭全戸訪問事業や乳幼児健診)を受け持ち親子とともに経験し、保健師の担うべき役割と支援方法を理解するとともに、実際の保健指導や健康教育を実施する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 対象者の信頼を得て、家庭訪問を継続できる。 2. 顕在する看護上のニーズのみでなくウェルネスの観点から支援課題を見出し説明できる。 3. 新生児および乳幼児の身体を正しく、安全、安楽に計測できる。 4. 育児中の親の社会的サポートの活用状況および必要な資源をアセスメントし説明できる。 5. 妊婦教室および乳幼児の健康診査の実施方法を説明できる。 6. 育児支援のための制度等社会資源について、まちの各種行政計画における位置づけを説明できる。 7. 今後の地区活動計画を検討できる。 (以上、DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 1. 事前学習課題の達成状況 (15%) 2. 実習への参加状況および積極的行動等の態度 (50%) 3. 課題に応じた資料作成と発表、および討議内容 (15%) 4. 実習記録内容 (20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1. オリエンテーション 実習方法, 学習計画, 注意事項等 2. 具体的実習内容 1) 継続家庭訪問 1組の親子を受け持ち、妊娠期から育児期まで継続して関わり、個別の育児支援を計画・実施・評価する。 2) 両親学級, 乳幼児健診における保健指導・健康教育の計画立案・実施 (可能な範囲で) 受け持ち親子とともに、両親学級および4か月健診を受診する。また、1歳6か月, 3歳児健診において、保健指導場面に立ち会い、保健指導計画を立案、可能な範囲で実施する。これらの保健事業において、待ち時間等を利用し			

た健康教育を計画，可能な範囲で実施する。

3) 社会資源の利活用状況のアセスメント

親子が活用している社会資源について，調べ，利用状況や今後の課題について整理する。

4) 母子健康手帳交付，分娩見学

まちで実施している手帳の交付に立ち会い，親となることをどのように受け止めているか観察するとともに，そこで求められる支援について考察する。この出会いから児童虐待防止の対策が始まることについて学ぶ。

5) 要保護児童対策地域協議会への参加と見学

育児支援の延長にある児童虐待対策の実際と，生じている問題について学ぶ。

6) 地区活動計画（母子保健）の立案と検討

公衆衛生看護管理論において地区活動計画を立案できるよう，母子保健に関わる制度や社会資源を整理し，地区の課題について考察する。

3. カンファレンス

実習最終日にカンファレンスを実施し，目標の達成度合いを振り返り自己の今後の課題を見出す。

【授業および学修の方法】

大学附属病院と連携しているぼっこ助産院において母子事例を紹介いただく。継続して関わられるよう，学生が自ら関係を築き，6か月以上関わる。母子保健事業および地域の資源については，紹介いただいた事例の市町村への同伴を相談することになるが，状況によっては受け入れ困難が予測されるため，三木町を基本とする。

【自学自習のためのアドバイス】

実習前に，妊婦，産婦，褥婦と新生児の看護を既習内容からまとめておく。また，育児指南書などを参考に，一般的な育児支援情報について調べておく。継続事例については，長期間にわたり関わることになるため，信頼関係の構築に心がける。中断の場合もあることを了解しておくこと。

支援中は，それぞれの受持ち事例について実習記録にまとめ，ケア計画と実施内容について振り返る時間を自主的にもつこと。

教科書・参考書等

教科書：公衆衛生学 社会・環境と健康，2022年版

参考書：医療情報科学研究所／編集，公衆衛生がみえる，最新版
国民衛生の動向

オフィスアワー 実習終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

より実践的な実習をめざしています。主体的な学びを期待します。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 966402) 公衆衛生看護学実習 Public Health Nursing Practice	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士前期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BCDM	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Px	単位数 3	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子, 林 信平	関連授業科目 実習	公衆衛生看護学技術Ⅱ・Ⅲ, 地域健康生活支援	
	履修推奨科目	1年次開講の講義・演習の履修を全て終えていること。	
学習時間 実習45時間 × 3週 + 自学自習 (準備学習25時間 + 事後学習20時間)			
授業の概要 地域住民の健康生活を支援するため、そこに暮らす全ての住民の健康を保持・増進するヘルスケアシステムとしての保健所・市町村の機能・役割について、これまでに学んだ理論を基に理解を深める。また、「地域健康生活支援実習」において実施した個人・家族への支援から、地域の資源をアセスメントした内容を基に、まちの健康課題を見出し、その解決に向け生活を支援する保健師活動を計画し、地区活動計画を立案する。 別表1 公衆衛生看護活動展開論実習, 公衆衛生看護管理論実習			
授業の目的 保健所および市町村がヘルスケアシステムとしての機能・役割を理解するとともに、それらを有効に機能させるための保健師の地区活動の展開方法を理解する。また、学生が自ら経験した個人・家族の生活支援を通して得られた情報をもとに、地区活動の展開を試行する。さらに、集団に対する支援方法としての地区組織づくりおよびまちづくりについて理解を深める。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域の健康課題を解決するための施策について、各種事業との関連、保健福祉サービスなどの具体的な内容を理解する。 2. 住民および労働者の健康課題に合わせた保健事業のあり方について、見学した内容から検討する。 3. 個別の関わりからグループ支援、組織づくり、体制づくりへ発展している活動事例を聞き、保健師の役割を考察し、説明する。 4. 地域の健康課題を解決する方法について、具体的な支援について計画し、助言を得る。 5. 市町における実習地域の地区組織について、把握する。 6. 特定の組織活動に着目し、その成り立ち、現状での支援内容について説明を受け、保健師の役割について考察する。 7. 健康増進活動(一次予防)における保健師の役割について考察し、今後の課題について自分の意見を述べる。 (以上、DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 1. 事前学習課題の達成状況 (15%) 2. 実習への参加状況および積極的行動等の態度 (50%) 3. 課題に応じた資料作成と発表, および討議内容 (15%) 4. 実習記録内容 (20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 1. オリエンテーション 実習方法, 学習計画, 注意事項等 <市町実習> 2. 具体的実習内容 1) 地区活動の背景となる地区の概要を調べ整理し, 健康課題を見出す。 既存の資料(市・町勢要覧, 人口統計, 各種保健統計, 総合計画, 各種事業計画など)を基に情報をまとめ, 整			

理し、実習地域について具体的にイメージした上で、実習地域の地区踏査計画を立案し、実施する。地域の住民の代表者（民生委員、愛育委員、自治会長、NPO法人等、当該健康課題の関係者）へ面談し、当該地区で生活する住民の生活の様子・考えを知り、それをまとめて報告する。

2) 実習地域のヘルスケアシステムおよび保健師の機能・役割について理解する。

保健所オリエンテーションにより、保健所の各組織および各々に配属されている職種の役割や機能について説明を受け、理解する。また、保健所と市町村の機能・役割の違いについて考察する。また、市町村オリエンテーションにより、市町の概要、保健・福祉部門（保健センター、地域包括支援センターなど）の体制と業務内容および連携の実際、個別の関わりからグループ支援、組織づくり、体制づくりへと発展させた活動事例について説明を受け、市町村保健師の役割を理解する。

3) 各種保健事業の成り立ちについて理解する。

実習保健所および市町村の保健事業の全体像について説明を受け、個別のニーズから集団のニーズを把握する過程を理解し、保健師（スタッフ、管理者）の役割について理解する。また、見学可能な事業等の目的・目標、これまでの経緯、現状の評価について説明を受け、参加した事業等について学生の視点から検討し、今後の事業等のあり方について対策を提案する。

4) 地区活動計画の立案

地域の健康課題の中から、1つ特定領域・課題を決め、これまでの対策について整理するとともに、その評価指標と関連するデータ、担当保健師の意見を収集し、総括した上で、今後の課題・展望について学生間で検討・考察し、保健師と（および可能であれば関連職種も交えて）意見交換する。

5) データヘルス計画、保健事業の一体的実施への参与により、成人期から高齢期に関わる保健事業の成り立ち・現状について理解する。

特定健診・保健指導場面への見学・保健指導もしくは健康教育の実施を企画、可能であれば実施する（公衆衛生看護学特論Ⅱ・Ⅲと連動）。

積極的支援対象者や重症化予防のための対象者への家庭訪問による保健指導を計画し、実施・評価する。

3. 最終まとめ・カンファレンス

実習最終日に実習地の保健師の産科により地区活動計画を発表し、その後、学生・教員によるカンファレンスにおいて目標の達成度合いを振り返り自己の今後の学習課題を見出す。

<産業保健実習>

2. 具体的実習内容

1) 産業保健における健康課題を理解する。

健診結果等、産業保健領域におけるデータの特性や管理方法を学び、壮年期にある労働者の健康課題を検討する。

2) 労働者の安全と健康を守るための職場の組織を理解する。

産業保健活動5管理（作業環境管理、作業管理、健康管理、総括管理、労働衛生教育）の実際について、見聞し、それらにより、どのように労働者の安全と健康が守られているか、また関係する職種・委員の役割について説明を受け、理解する。

3) 産業の場における看護専門職の活動方法について把握し、個別および集団への健康管理方法、労働衛生教育の実施、作業および作業環境管理の方法を理解する。

衛生教育について、一つ課題をもって実施計画を立案し、可能であれば実施する。

【授業および学修の方法】

東讃保健所および三木町保健センターを実習施設として母子、成人、高齢期の保健福祉施策について学ぶ。範囲が広大なため、地域健康生活支援実習においてまとめた母子保健福祉施策をもとに、健康課題を特定していくことを推奨する。現在の国の健康増進施策の中核をなす生活習慣病予防についても、データヘルス計画、保健事業の一体的実施など、実際の三木町での保健施策をもとに学ぶ。

【自学自習のためのアドバイス】

実習前に、これまで各演習および地域健康生活支援実習においてまとめた三木町の各種保健計画、保健福祉施策について実地に学ぶ機会とする。また、見学できる保健事業については、数か月にわたり参加することが可能であり、関連する住民組織・NPO組織への見学・面談予約を随時入れることも可能なため、実習計画を主体的に立案すること。成人期および高齢期にある対象者の健康増進に関する家庭訪問が受け入れ状況によっては可能であるため、演習等で立案した保健指導計画、健康教育計画について活用できるよう、信頼関係の構築に心がける。

教科書・参考書等

教科書：公衆衛生学 社会・環境と健康、2022年版

参考書：医療情報科学研究所／編集、公衆衛生がみえる、最新版
国民衛生の動向

オフィスアワー 実習終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1年次開講の講義・演習の履修を全て終えていることを履修の条件とします。より実践的な実習をめざしており、与えられた課題をこなすというより、自ら課題を見つけ、取り組む高度な主体性を求める実習です。

